

平成26年(2014年)
全国災害時気象概況

平成27年3月

気象庁

目次

1	平成26年(2014年)の気象災害	1
1-1	気象の特徴	1
1-2	主な気象災害	2
	資料1-2-1 平成26年(2014年)激甚災害指定状況一覧表.....	30
2	平成26年(2014年) 台風の概要.....	32
2-1	平成26年(2014年)に発生した台風	32
	資料2-1-1 台風発生数一覧表	33
	資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	34
	資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	35
	資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表.....	36
	資料2-1-5 平成26年(2014年)に発生した台風の一覧表.....	37
2-2	平成26年(2014年)に日本に影響した主な台風.....	38
	資料2-2-1 平成26年(2014年)に日本に影響した台風の概要表	41
	資料2-2-2 平成26年(2014年)に発生した台風の経路図.....	42
3	平成26年(2014年)の天気概況	47

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 26 年(2014 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

年平均気温は、全国で平年並

北日本では、冬から春の前半にかけて気温の低い期間が多く、東日本及び西日本でも、夏の後半から9月前半にかけての低温が明瞭だったが、その他は気温の高い期間も多かった。また、沖縄・奄美でも、夏から秋の前半は気温の高い状態が続いたが、その他は気温の低い期間が多かった。このため、年平均気温は全国で平年並だった。

東日本日本海側と北日本は多雨・多照

北日本及び東日本では、春から夏の前半及び秋に高気圧に覆われて晴れの日が多かったことから年間日照時間は多く、特に北日本太平洋側と東日本ではかなり多かった。一方、低気圧や台風等の影響でたびたびまとまった降水となったため、東日本日本海側と北日本の年降水量は多かった。

関東甲信地方で記録的な大雪

2 月上旬と中旬に、低気圧が発達しながら日本の南岸を通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となった。特に、14 日から 16 日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となった。

「平成 26 年 8 月豪雨」が発生

7 月 30 日から 8 月 26 日にかけては、台風第 12 号及び台風第 11 号が相次いで日本列島に接近・上陸し、前線が日本付近に停滞するとともに、日本付近へ暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだため、四国地方をはじめとして各地で大雨となり、広島県広島市では集中豪雨による大規模な土砂災害が発生した(これらの大雨を「平成 26 年 8 月豪雨」と命名)。

西日本は、2003 年以来 11 年ぶりの冷夏

西日本の夏の平均気温は、太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱かった等の影響で低く、2003 年以来 11 年ぶりに冷夏となり、さらに日照時間もかなり少なかった。特に、西日本太平洋側で 1946 年の統計開始以来、8 月における月間日照時間の少ない記録と月降水量の多い記録を更新した。一方、北・東日本では、日本の東海上の高気圧が強く、高気圧周辺で南から暖かい空気が流れ込んだため、また、沖縄・奄美でも、暖かい空気に覆われることが多かったため、夏の平均気温は高かった。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成26年(2014年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述した。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置などの気象状況を記した。災害の種類別(大雨、大雪、暴風、突風、高波など)の一覧表を表1.1に示す。

被害の具体的な数値は、内閣府、総務省消防庁、国土交通省の資料および地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し気象庁観測部情報管理室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った竜巻の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(3)、(5)、(7)、(8)、(10)、(11)、(12)、(13)、(14)、(16)、(17)、(19)、(20)
大雪	(1)、(2)、(3)、(4)、(20)、(21)、(22)
暴風 (暴風雪を含む)	(2)、(3)、(4)、(5)、(8)、(9)、(11)、(12)、(14)、(15)、(16)、(17)、(19)、(20)、(22)
突風(竜巻を含む)	(11)、(18)
高波	(2)、(3)、(6)、(8)、(9)、(11)、(12)、(14)、(15)、(16)、(17)、(19)、(20)、(22)
その他	(4)、(8)、(11)、(16)、(17)、(22)

(1)1月8日～1月10日:山陰から北陸地方(大雪)<低気圧、冬型>

1月8日から9日にかけて、前線を伴った低気圧が、発達しながら本州南岸から千島の東海上に進み、その後、日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、中国地方や北陸地方の一部では大雪となったところもあった。

この影響により、山陰や甲信地方では、倒木等による停電や鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害等が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降雪量]

1月9日	新潟県妙高市関山(セキヤマ)	69 cm	鳥取県大山町大山(ダイセン)	65 cm
	岡山県真庭市上長田(かながた)	63 cm	青森県青森市酸ヶ湯(スガ)	41 cm
	長野県小谷村小谷(オタ)	41 cm	富山県富山市猪谷(イノタニ)	37 cm
	兵庫県香美町兎和野高原(ウノコウゲン)	32 cm	岩手県西和賀町湯田(ユダ)	31 cm
1月10日	新潟県魚沼市小出(コイデ)	56 cm	北海道岩見沢市岩見沢(イワミザリ)	41 cm
	岩手県西和賀町湯田(ユダ)	41 cm	福島県只見町只見(タダミ)	36 cm
	青森県青森市酸ヶ湯(スガ)	34 cm	秋田県横手市横手(ヨコテ)	31 cm

(2)2月8日～2月9日:九州地方から東北地方(大雪、暴風、高波)<低気圧>

2月7日から9日にかけて、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら本州の南岸を北東へ進み、9日21時には三陸沖に達した。このため、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、特に関東甲信地方では、8日夜から9日朝にかけて、平野部でも広い範囲で大雪となった。千葉県千葉市千葉では9日の日最深積雪が33cmと観測史上1位の値を更新するなど、関東甲信地方では記録的な積雪となったところがあった。また、東日本や北日本では暴風となったところがあり、関東地方や東北地方の太平洋沿岸では、大しけとなったところもあった。

この大雪や暴風により、関東地方を中心に、九州地方から東北地方にかけて、転倒やスリップによる交通事故等による死者、負傷者が発生したほか、停電、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害等が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な最大風速]

2月8日	千葉県銚子市銚子(チウシ)	27.6 m/s	北北東	[23:08]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	23.6 m/s	北北東	[15:07]
2月9日	千葉県銚子市銚子(チウシ)	26.6 m/s	北	[00:05]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	21.4 m/s	北北東	[06:26]

[主な日降雪量]

2月8日	山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ)	66 cm	長野県松本市松本(マツト)	49 cm
	埼玉県秩父市秩父(チチブ)	46 cm	岐阜県飛騨市神岡(かみオカ)	37 cm
	宮城県仙台市青葉区新川(ニッカリ)	33 cm	栃木県那須町那須(ナス)	33 cm
	群馬県草津町草津(クサツ)	33 cm	福島県福島市福島(フクシマ)	32 cm
	千葉県千葉市中央区千葉(チバ)	32 cm	山形県米沢市米沢(ヨネザリ)	30 cm
	富山県魚津市魚津(ウオツ)	30 cm		
2月9日	岩手県岩泉町岩泉(イワイズミ)	36 cm	福島県会津若松市若松(ワカマツ)	32 cm

(3)2月13日～2月19日:西日本から北日本(大雪、暴風雪、大雨、高波) <低気圧、冬型>

2月13日に沖縄の南海上で発生した低気圧が、前線を伴って、発達しながら本州の南岸を北東へ進み、16日には三陸沖に達した。その後、低気圧はさらに発達しながら北海道の東海上に進み、19日にかけて千島近海でほとんど停滞した。

この低気圧の影響で、西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に広い範囲で降雪となった。特に、関東甲信地方及び東北地方では、14日夜から15日を中心に降雪が強まり、記録的な大雪となった。また、15日から19日にかけて、北日本を中心に大雪や暴風雪となり、東日本から東北地方の太平洋沿岸を中心に、大しけとなった。また、伊豆諸島を中心に大雨となったところもあった。

2月13日から19日までの最深積雪は、山梨県甲府市甲府で114cm、群馬県前橋市前橋で73cm、埼玉県熊谷市熊谷で62cmとなるなど、統計期間が10年以上の観測地点のうち、北日本と関東甲信地方の18地点で、最深積雪の観測値が観測史上1位を更新した。山梨県甲府市甲府や群馬県前橋市前橋では、年最深積雪の平年値の7倍を超える積雪となった。

この大雪と暴風雪により、落雪や倒壊した建造物の下敷きになるなどして、岩手県、秋田県、群馬県、埼玉県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、宮崎県であわせて死者26名となったほか、九州地方から北海道にかけての広い範囲で住家損壊等が発生した。また、停電、水道被害、電話の不通、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害が発生したほか、ビニールハウスの倒壊や農作物の損傷などの農業被害も発生した。特に関東甲信地方を中心に、道路への積雪や雪崩等による車両の立ち往生や、交通の途絶による集落の孤立が、複数の都県で発生した。(被害状況は、平成26年3月6日19時現在の非常災害対策本部の情報による)

[主な最大風速]

2月13日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクジマ)	16.7	m/s	北東	[21:08]
2月14日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	28.5	m/s	北北東	[20:12]
	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	20.8	m/s	北北東	[22:23]
2月15日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	30.2	m/s	北北東	[23:08]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	22.7	m/s	北北東	[20:34]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	21.0	m/s	北北東	[03:48]
	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	20.9	m/s	南東	[09:28]
	福島県猪苗代町猪苗代(イナワシロ)	20.6	m/s	東北東	[12:03]
2月16日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	32.9	m/s	北北東	[03:14]
	栃木県那須町那須(ナス)	23.1	m/s	北西	[06:50]
	福島県白河市白河(シラカ)	20.8	m/s	北西	[16:03]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	20.1	m/s	北西	[07:14]
2月17日	北海道弟子屈町弟子屈(テシカ)	22.3	m/s	北北西	[09:25]
2月18日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	21.4	m/s	西北西	[03:44]
2月19日	北海道弟子屈町弟子屈(テシカ)	17.3	m/s	北北西	[01:46]

[主な日降雪量]

2月13日	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	7	cm		
2月14日	山梨県甲府市甲府(コウフ)	83	cm	埼玉県秩父市秩父(チチフ)	59
	長野県松本市松本(マツト)	40	cm	岐阜県高山市高山(タカヤマ)	36
2月15日	福島県檜枝岐村檜枝岐(ヒエマタ)	66	cm	群馬県草津町草津(クサツ)	65
	栃木県日光市土呂部(トロボ)	60	cm	長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザクオンセン)	54
	宮城県仙台市青葉区新川(ニッカ)	43	cm	岩手県岩泉町岩泉(イワイズミ)	42
	山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ)	37	cm	埼玉県秩父市秩父(チチフ)	36

	青森県三戸町三戸(サンノ)	32 cm	北海道福島町千軒(センゲン)	30 cm
	山形県山形市山形(ヤマガタ)	30 cm		
2月16日	北海道枝幸町歌登(ウノホリ)	41 cm	青森県青森市酸ヶ湯(スカ)	36 cm
	群馬県草津町草津(クサツ)	31 cm		
2月17日	北海道紋別市紋別(モンベツ)	35 cm		
2月18日	北海道留萌市幌糠(ホロカ)	30 cm	山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	30 cm
2月19日	北海道斜里町宇登呂(ウトロ)	50 cm		
[主な日降水量]				
2月14日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	187.0 mm	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	160.0 mm
2月15日	茨城県水戸市水戸(ミト)	142.5 mm	千葉県成田市成田(ナリタ)	124.0 mm
	福島県川内村川内(カウチ)	112.0 mm	埼玉県熊谷市熊谷(クマガヤ)	104.0 mm
	群馬県伊勢崎市伊勢崎(イセサキ)	103.5 mm	栃木県佐野市葛生(クスリ)	101.5 mm

(4)3月20日～3月22日:東日本、北日本(大雪、暴風、なだれ) <低気圧>

3月20日から21日にかけて、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら本州の南岸を通過して三陸沖に進んだ。その後、低気圧は北海道の東海上に進み、日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、全国的に雨や雪が降り、甲信地方や北海道の一部では大雪となったところがあった。また、伊豆諸島や北海道では暴風となったところもあった。

この影響により、長野県ではなだれが発生し、死者1名となった。また、北日本を中心に停電、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

3月20日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	21.7 m/s	南南西	[18:05]
3月21日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	26.5 m/s	北北東	[08:43]
3月22日	北海道根室市根室(ネムロ)	19.2 m/s	北西	[00:31]

[主な日降雪量]

3月20日	宮城県栗原市駒ノ湯(コマノ)	46 cm	岩手県一関市祭時(マツルヘ)	37 cm
3月21日	長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザワオンセン)	55 cm	北海道根室市根室(ネムロ)	54 cm
	岩手県岩泉町岩泉(イワズミ)	42 cm	新潟県津南町津南(ツナン)	41 cm
	群馬県みなかみ町みなかみ(ミナカミ)	39 cm	青森県三戸町三戸(サンノ)	38 cm
	福島県檜枝岐村檜枝岐(ヒエマタ)	36 cm	岐阜県白川村白川(シラカ)	31 cm
	兵庫県香美町兔和野高原(ウノコウケン)	31 cm		

(5)3月30日～3月31日:東北地方(暴風雪、大雨) <低気圧>

3月30日から31日にかけて、前線を伴う低気圧が発達しながら日本海から本州を通過して、日本の東海上に進んだ。このため、全国的に雨や雪が降り、東日本や北日本では暴風となったところもあった。また、西日本の太平洋側や東北地方では大雨となったところもあった。この影響で、東北地方では土砂崩れや倒木等が発生し、停電や道路の通行不能、鉄道の運休などの交通障害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

3月29日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	22.4 m/s	西	[00:45]
3月30日	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	26.4 m/s	南西	[09:10]

	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	26.3 m/s	北北東	[23:32]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	22.4 m/s	南南西	[16:08]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.7 m/s	南	[09:00]
3月31日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	27.3 m/s	北北東	[01:47]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	23.3 m/s	西北西	[01:37]

[主な日降水量]

3月30日	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	165.5 mm	静岡県藤枝市高根山(タカネサン)	159.0 mm
	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	141.0 mm	高知県馬路村魚梁瀬(イサセ)	137.5 mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	126.0 mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	116.0 mm
	石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ)	111.5 mm	岐阜県白川町黒川(クロカワ)	109.5 mm
	福井県福井市美山(ミヤマ)	104.0 mm	富山県南砺市五箇山(ゴカヤマ)	101.0 mm

(6)5月4日:新潟県(高波) <移動性高気圧>

5月4日は、北陸地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。新潟県上越市の海岸では、沖に流された5名が死亡した。(被害の状況は、気象庁調べ)

(7)5月8日~5月9日:関東甲信地方から東北地方(大雨) <大気不安定>

5月8日から9日にかけて、上空に寒気を伴う低気圧の影響で大気の状態が不安定となり、中国地方から東北地方にかけて雨が降り、一部では雷を伴ったところがあった。

この影響により、関東甲信地方や東北地方の一部では、停電や鉄道の運休などの交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

(8)6月2日~7月20日:全国(大雨、暴風、高波、高潮) <台風第6号、台風第7号、台風第8号、梅雨前線>

6月2日から7月20日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、台風第6号、台風第7号及び台風第8号が日本に接近または上陸した。これらの影響で、各地で大雨となった。また、7月7日から11日にかけて日本に接近、上陸した台風第8号の影響等により、各地で暴風となったほか、南西諸島や西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に高波となり、一部で高潮となったところがあった。

この大雨等により、愛媛県、長野県及び福島県で合わせて死者3名となったほか、全国で合わせて浸水家屋2,000棟以上となるなど、各地で床上・床下浸水や、土砂災害による家屋損壊等の住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害等が発生した。(被害状況は、平成26年8月1日現在の内閣府の情報及び平成26年7月14日現在の国土交通省の情報による)

6月2日から6月19日まで

低気圧と前線が6月2日から8日にかけて及び8日から13日にかけて、それぞれ本州南岸を東に進んだ。その後、19日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から日本の南海上にかけて停滞した。また、9日に発生した熱帯低気圧が11日9時に沖縄の南海上で台風第6号となり、北東に進んで、12日9時に日本の南海上で温帯低

気圧となったほか、華南で台風第7号から変わった熱帯低気圧が、17日9時に東シナ海で再び台風第7号となり、同日21時に奄美大島の北の海上で熱帯低気圧となった。

これらと暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、四国地方の多いところで日降水量が400mmを超えたほか、九州地方や東海地方の多いところで日降水量が300mm、関東地方の多いところで日降水量が200mmを超えるなど、各地で日降水量が100mmを超える大雨となった。また、低気圧の影響で、九州地方や北海道の一部では、暴風となったところがあった。

[主な日降水量]

6月2日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	141.5 mm		
6月3日	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	204.0 mm	宮崎県都農町都農(ツノ)	128.5 mm
6月4日	高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	464.0 mm	宮崎県延岡市古江(フルエ)	359.0 mm
	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	309.0 mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	151.5 mm
	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	146.0 mm	鹿児島県南種子町上中(カミナカ)	103.5 mm
6月5日	三重県尾鷲市尾鷲(オウレ)	373.5 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	151.0 mm
	和歌山県新宮市新宮(シンガウ)	136.0 mm	高知県四万十市中村(ナカムラ)	120.5 mm
6月6日	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	253.0 mm	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	223.0 mm
	東京都青梅市青梅(オウメ)	213.5 mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	196.0 mm
	千葉県大多喜町大多喜(オオタキ)	170.0 mm	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	157.0 mm
	三重県尾鷲市尾鷲(オウレ)	156.0 mm	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	148.5 mm
	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	122.0 mm	高知県高知市高知(コウチ)	104.0 mm
	茨城県古河市古河(コガ)	101.0 mm		
6月7日	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	247.0 mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	172.5 mm
	東京都大島町大島(オオシマ)	118.0 mm	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	101.5 mm
6月8日	栃木県鹿沼市鹿沼(カヌ)	141.5 mm	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガダケ)	125.0 mm
	北海道登別市カルルス(カルルス)	123.5 mm	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	110.5 mm
	岩手県岩泉町小本(オホト)	105.5 mm		
6月9日	栃木県日光市今市(イマイチ)	119.5 mm	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	114.5 mm
	群馬県下仁田町西野牧(ニシノマキ)	102.0 mm	北海道白老町森野(モリノ)	101.5 mm
6月10日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	161.5 mm		
6月11日	沖縄県那覇市那覇(ナハ)	117.5 mm	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	103.5 mm
	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	100.0 mm		
6月12日	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガダケ)	121.5 mm	岩手県釜石市釜石(カマイシ)	116.5 mm
	北海道白老町森野(モリノ)	108.5 mm		
6月13日	秋田県秋田市仁別(ニヘツ)	107.0 mm	北海道標津町糸櫛別(イトクシヘツ)	106.0 mm
6月14日	沖縄県読谷村読谷(ヨミタ)	61.0 mm		
6月15日	沖縄県伊是名村伊是名(イヘナ)	124.0 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロジマ)	112.5 mm
6月16日	鹿児島県伊仙町伊仙(イセン)	176.5 mm		
6月17日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	196.0 mm		
6月18日	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	69.5 mm		
6月19日	北海道本別町押帯(オショウブ)	31.0 mm		

[主な最大風速]

6月2日	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	20.0 m/s	東南東	[19:24]
6月13日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	21.3 m/s	北東	[03:51]

6月20日から7月1日まで

6月20日から22日にかけて九州付近に停滞した梅雨前線は、24日から25日にかけて沖縄・奄美に南下して停滞した。その後、梅雨前線は26日から28日にかけては再び九州付近に北上し、29日から7月1日にかけては奄美付近に南下して停滞した。梅雨前線と暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、九州地方では多いところで日降水量 200mm を超えたほか、関東地方や東北地方の多いところで日降水量 100mm を超える大雨となった。

特に、6月24日から25日にかけては、関東甲信地方を中心に、局地的に落雷や降ひょうを伴う非常に激しい雨が降り、浸水被害や農業被害、停電や道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

6月20日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	130.5 mm		
6月21日	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラガキ)	237.0 mm	宮崎県串間市串間(クスマ)	160.5 mm
6月22日	群馬県下仁田町西野牧(ニシノマキ)	128.5 mm	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	115.5 mm
	熊本県八代市八代(ヤツシロ)	114.0 mm		
6月23日	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	134.5 mm		
6月24日	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	85.0 mm		
6月25日	岐阜県八百津町伽藍(ガラン)	79.5 mm		
6月26日	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	126.5 mm		
6月27日	鹿児島県肝付町肝付前田(キモツキマエダ)	268.5 mm	宮崎県都城市都城(ミヤコノシヨリ)	174.0 mm
	熊本県球磨村一勝地(イツショウチ)	119.0 mm		
6月28日	三重県尾鷲市尾鷲(オウセ)	91.5 mm		
6月29日	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	123.0 mm		
6月30日	群馬県前橋市前橋(マエバシ)	104.0 mm		
7月1日	茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	70.0 mm		

7月2日から7月5日まで

本州付近に停滞する梅雨前線を低気圧が東へ進み、梅雨前線の活動が活発となった。これらと暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、九州北部地方の多いところで日降水量 200mm を超える大雨となり、四国地方、中国地方、近畿地方及び東北地方の多いところで日降水量 100mm を超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月2日	長野県諏訪市諏訪(スリ)	79.5 mm		
7月3日	長崎県長崎市長浦岳(ナガラダケ)	294.5 mm	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	220.5 mm
	福岡県朝倉市朝倉(アサクラ)	195.0 mm	山口県防府市防府(ホウフ)	174.0 mm
	熊本県玉名市岱明(タイメイ)	134.0 mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	130.0 mm
	広島県大竹市大竹(オオタケ)	129.5 mm	高知県四万十町窪川(クボカワ)	114.0 mm
	和歌山県串本町潮岬(シオノミサキ)	113.5 mm		
7月4日	岩手県岩泉町小本(オホト)	126.0 mm		
7月5日	長野県辰野町辰野(ツノ)	85.5 mm		

7月6日から7月11日まで

7月4日3時にマリアナ諸島付近で発生した台風第8号は、8日には大型で非常に強い勢力で沖縄本島と宮古島の間を北上した。その後、九州の西海上で進路を東寄りに変え、10日7時前、鹿児島県阿久根市付近

に上陸した。台風第 8 号は、本州南岸を東に進み、11 日 9 時に福島県沖で温帯低気圧に変わった。また、梅雨前線が 6 日から 11 日にかけて、西日本から北日本に徐々に北上した。

この間、沖縄本島地方では記録的な大雨となったほか、台風周辺の湿った南風と梅雨前線の影響で、台風から離れた地域でも局地的に猛烈な雨が降ったところがあった。また、台風の接近に伴い、沖縄・奄美や九州南部を中心に暴風となり、沖縄地方では猛烈な風を観測したところがあったほか、南西諸島や西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に高波となり、一部で高潮となったところがあった。

7 月 6 日から 11 日までの総降水量は、宮崎県えびの市えびので 535.0mm、鹿児島県さつま町紫尾山で 471.5mm、沖縄県名護市名護で 457.5mm となるなど、沖縄地方や九州地方、東海地方で 400mm を超えた。最大 1 時間降水量は、沖縄県読谷村読谷で 96.5mm を観測するなど、沖縄地方や九州地方、四国地方で、1 時間に 80mm 以上の猛烈な雨を観測したところがあった。また、統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量について 4 地点、最大 3 時間降水量について 8 地点、最大 24 時間降水量について 5 地点で、この大雨による観測値が観測史上 1 位を更新した。

7 月 6 日から 11 日の間の最大風速は、沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷で 35.3 m/s、愛媛県伊方町瀬戸で 27.1 m/s を観測するなど、沖縄地方で猛烈な風を観測したほか、九州南部・奄美地方から伊豆諸島にかけての太平洋側を中心に非常に強い風を観測した。

南西諸島では、台風の接近に伴い 7 月 7 日には有義波高が 6m を超える大しけとなり、台風が通過した 8 日は有義波高が 9m を超える猛烈なしけとなった。九州南部・奄美地方と九州北部地方では 9 日は猛烈なしけとなり、西日本太平洋側(九州南部・奄美地方を除く)から東日本太平洋側でも、9 日から 10 日にかけて一部で大しけとなった。

7 月 8 日未明から 10 日昼過ぎにかけて、沖縄・奄美と九州地方を中心に最大潮位偏差が 50cm 以上となった。熊本県苓北では 9 日夜のはじめ頃に最高潮位が標高 181cm、10 日明け方に最大潮位偏差が 86cm となった。

この台風第 8 号及び梅雨前線により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生し、長野県の土砂災害による死者 1 名など、愛媛県、長野県及び福島県で合わせて死者 3 名となった。また、沖縄県や新潟県、山形県で合わせて浸水家屋 1,000 棟以上となるなど、各地で床上・床下浸水や、土砂災害による家屋損壊等の住家被害が生じた。さらに、停電、電話の不通、水道被害のほか、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。沖縄県では防波堤の倒壊・破損等の被害が生じた。(被害状況は、平成 26 年 7 月 22 日現在の内閣府の情報及び平成 26 年 7 月 14 日現在の国土交通省の情報による)

[主な日降水量]

7 月 6 日	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	249.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	170.5 mm
	熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	168.5 mm	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	161.0 mm
	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	141.0 mm	福岡県久留米市久留米(クルマ)	111.5 mm
	大分県日田市日田(ヒタ)	103.0 mm		
7 月 7 日	熊本県天草市牛深(ウツブカ)	227.5 mm	福岡県行橋市行橋(ユクハシ)	156.0 mm
	山口県岩国市広瀬(ヒロセ)	142.0 mm	長崎県南島原市口之津(クチノツ)	131.0 mm
	広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイチツタ)	118.0 mm	島根県津和野町津和野(ツワノ)	108.0 mm
7 月 8 日	沖縄県国頭村国頭(クニガミ)	230.5 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロジマ)	152.5 mm
	高知県馬路村魚梁瀬(イサセ)	106.0 mm		
7 月 9 日	沖縄県読谷村読谷(ヨミタン)	297.5 mm	新潟県佐渡市弾崎(ハジキザキ)	228.0 mm
	山形県小国町小国(オグニ)	215.5 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロジマ)	200.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	191.0 mm	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	190.0 mm
	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアツシカ)	163.5 mm	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	154.0 mm

	福島県喜多方市喜多方(キカカ)	145.5 mm	熊本県湯前町湯前横谷(ノノエヨコタニ)	105.5 mm
	長野県南木曾町南木曾(ナキリ)	101.5 mm		
7月10日	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	306.5 mm	徳島県三好市京上(キウジヨウ)	183.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	170.5 mm	秋田県藤里町藤里(フジサト)	170.0 mm
	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	169.0 mm	静岡県静岡市葵区梅ヶ島(ウメガシマ)	167.5 mm
	高知県本山町本山(モトヤマ)	161.0 mm	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	153.5 mm
	三重県大台町宮川(ミヤカリ)	153.5 mm	鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガヘツフ)	151.0 mm
	和歌山県田辺市本宮(ホングウ)	143.5 mm	北海道えりも町目黒(メグロ)	135.0 mm
	青森県深浦町深浦(フカウラ)	124.0 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	122.0 mm
	岩手県雫石町葛根田(カクコダ)	110.0 mm		
7月11日	北海道根室市納沙布(ノサップ)	90.0 mm		

[主な最大風速]

7月7日	沖縄県南城市糸数(イトカス)	22.9 m/s	南東	[23:42]
7月8日	沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ)	35.3 m/s	南東	[09:55]
	鹿児島県与論町与論島(ヨロシマ)	26.2 m/s	南南東	[14:58]
7月9日	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	24.4 m/s	南南東	[23:27]
	沖縄県名護市名護(ナゴ)	23.7 m/s	南	[01:08]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	22.4 m/s	南南東	[00:48]
7月10日	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	27.1 m/s	南南東	[01:20]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	25.1 m/s	南	[08:06]
	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	25.1 m/s	西南西	[06:45]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	23.7 m/s	南南西	[22:58]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.6 m/s	南南東	[10:29]
7月11日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	20.7 m/s	南南西	[00:15]

7月12日から7月20日まで

梅雨前線が本州付近に停滞し、活動が断続的に活発となった。この前線と暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、北陸地方の多いところで日降水量が200mmを超えたほか、九州北部地方や中国地方、東北地方の多いところで日降水量が100mmを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月12日	佐賀県白石町白石(シロイシ)	37.5 mm		
7月13日	広島県北広島町王泊(オオドマリ)	98.0 mm		
7月14日	奈良県天川村天川(テンカガ)	50.5 mm		
7月15日	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	49.0 mm		
7月16日	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	104.5 mm		
7月17日	長野県松本市上高地(カミコウチ)	60.0 mm		
7月18日	福島県塙町東白川(ヒガシシラガ)	92.0 mm		
7月19日	富山県魚津市魚津(ウオツ)	219.0 mm	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガタケ)	107.5 mm
	広島県東広島市安宿(アスカ)	103.0 mm		
7月20日	石川県白山市白山吉野(ハクサンヨシノ)	97.5 mm		

(9)7月22日～7月23日:沖縄地方(暴風、高波) <台風第10号>

7月17日21時にパラオ諸島の北東の海上で発生した台風第10号は北西に進み、22日夜から23日朝にかけて台湾を通過した。その後、台風は北北東に進路を変え、25日15時に黄海で温帯低気圧となり、26日15時に朝鮮半島北部で消滅した。このため、沖縄・奄美では雨が降り、猛烈なしけや強風となった。

この影響により、沖縄県では船舶や航空機の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な最大風速]

7月22日	沖縄県竹富町志多阿原(シタアハル)	16.3 m/s	南東	[22:46]
7月23日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニシマ)	15.9 m/s	南南東	[11:15]

(10)7月24日:関東地方(大雨) <大気不安定>

7月24日、朝鮮半島から本州付近にのびる前線と暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、関東地方の一部では雷雨となった。この影響で、関東地方南部では浸水被害や停電のほか、道路の通行不能等の交通障害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

(11)7月30日～8月26日:全国(大雨、暴風、高波、高潮、突風) <台風第12号、台風第11号、前線>

7月31日から8月11日にかけて、台風第12号及び台風第11号が相次いで日本列島に接近し、8月5日から26日にかけて、前線が日本付近に停滞した。また、7月30日から8月26日の期間を通じて、日本付近への暖かく非常に湿った空気の流れ込みが継続した。

これらの台風や前線等の影響で全国各地で連日大雨となった。また、台風第12号、第11号が接近・上陸した沖縄・奄美や西日本を中心に暴風や高波、高潮となった。このほか、台風の接近と前線の影響で、南から暖かく湿った空気の流れ込みが継続し、広い範囲で大気の状態が不安定となったため、山形県から宮崎県に至る10県で突風が発生した。特に茨城県、宮崎県、栃木県では、強さが藤田スケールでF1の突風が発生した。

7月30日から8月26日までの総降水量は、高知県香美市繁藤で2377.5mm、和歌山県古座川町西川で1172.0mm、宮崎県えびの市えびので1141.5mmとなるなど、九州地方や四国地方、近畿地方で総降水量1000mmを超える大雨となった。最大1時間降水量は広島県広島市三入で101.0mmを観測するなど、九州地方から東海地方にかけて、1時間に80mm以上の猛烈な雨を観測したところがあった。また、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量について20地点、最大3時間降水量について25地点、最大24時間降水量について26地点、最大48時間降水量について33地点、最大72時間降水量について22地点で、この大雨による観測値が観測史上1位を更新した。

台風第12号が接近した7月31日から8月1日の間の最大風速は、鹿児島県奄美市笠利で29.7m/s、沖縄県うるま市宮城島で24.3m/sなど、沖縄・奄美で非常に強い風を観測した。また、台風第11号が接近・上陸した8月6日から11日の間の最大風速は、高知県室戸市室戸岬で42.1m/s、和歌山県和歌山市友ヶ島で36.6m/s、沖縄県北大東村北大東で32.3 m/sを観測するなど、沖縄地方や四国地方、近畿地方で猛烈な風を観測したほか、九州南部・奄美地方から東海地方を中心に非常に強い風を観測した。

この大雨や暴風等により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生し、甚大な被害となった。台風第12号や台風第11号では、徳島県、山口県、島根県、和歌山県及び愛知県で死者6名の人的被害となり、四国地方を中心に全国各地で7,000棟を超える住家被害が生じた。また、8月15日頃からの前線による大雨では、福岡県、兵庫県、京都府、石川県、北海道で合わせて死者8名の人的被害となり、京都府や兵庫県を中心に、

全国各地で 8,000 棟を超える住家被害が生じた。さらに、8 月 19 日から 20 日にかけては、広島県広島市で発生した土砂災害により、死者 74 名の人的被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、非常災害対策本部及び内閣府の情報(平成 26 年 11 月 6 日現在)、国土交通省の情報(台風第 12 号・第 11 号について平成 26 年 8 月 19 日現在、8 月 16 日から続く大雨等について平成 26 年 11 月 5 日現在)による)

7 月 30 日から 8 月 26 日にかけて各地に甚大な被害をもたらした大雨について、気象庁は「平成 26 年 8 月豪雨」と命名した。

7 月 30 日から 8 月 6 日まで

7 月 29 日 21 時にフィリピンの東の海上で発生した台風第 12 号は、沖縄の南海上を北上し 7 月 31 日から 8 月 1 日にかけて沖縄・奄美に接近した。その後、台風第 12 号は暴風域を伴って北上し、8 月 3 日 15 時に黄海で熱帯低気圧に変わった。この台風第 12 号の周辺の風と高気圧縁辺の風の影響で、南からの温かく湿った空気の流れ込みが継続したほか、前線が 8 月 4 日以降、西日本の日本海側から北日本にかけて停滞した。

これらの影響で、全国各地で雨が降り、特に高知県では 7 月 30 日から 8 月 6 日までの総降水量が 1000mm を超える大雨となったところがあった。また、日降水量で見ると、四国地方で 500mm を超えたほか、九州地方で 300mm を超えるなど西日本や北日本で日降水量が 100mm を超える大雨となった。

台風第 12 号が接近した 7 月 31 日から 8 月 1 日の間の最大風速は、鹿児島県奄美市笠利で 29.7m/s、沖縄県うるま市宮城島で 24.3m/s など、沖縄・奄美で非常に強い風を観測した。

台風第 12 号の影響により、沖縄・奄美では、7 月 31 日から 8 月 1 日にかけて有義波高が 6m を超える大しけとなった。九州南部と九州北部地方では、8 月 1 日から 2 日にかけて大しけとなった。

台風第 12 号の接近により、8 月 1 日昼前に奄美(鹿児島県)では最大潮位偏差が 68cm となった。

[主な日降水量]

7 月 30 日	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	103.0 mm		
7 月 31 日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	227.5 mm	鹿児島県曾於市大隅(オオスミ)	140.5 mm
	沖縄県国頭村国頭(クニガミ)	131.0 mm		
8 月 1 日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	265.5 mm	宮崎県美郷町神門(ミカド)	254.0 mm
	熊本県湯前町湯前横谷(ノノエヨコタニ)	250.5 mm	徳島県那賀町木頭(キトリ)	228.5 mm
	鹿児島県奄美市名瀬(ナセ)	207.5 mm	愛媛県鬼北町近永(チカナガ)	159.0 mm
	大分県臼杵市臼杵(ウスキ)	135.0 mm	秋田県鹿角市八幡平(ハチマンタイ)	108.5 mm
8 月 2 日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	545.5 mm	徳島県阿南市蒲生田(ガモウダ)	490.0 mm
	宮崎県延岡市北方(キタカタ)	363.5 mm	和歌山県串本町潮岬(シオミサキ)	295.0 mm
	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	264.0 mm	大分県豊後大野市犬飼(イヌカイ)	197.0 mm
	兵庫県南あわじ市南淡(ナングン)	186.0 mm	長崎県五島市福江(フクエ)	131.5 mm
	山口県岩国市玖珂(クガ)	115.5 mm		
8 月 3 日	高知県本山町本山(モトヤマ)	492.0 mm	和歌山県串本町潮岬(シオミサキ)	250.5 mm
	愛媛県四国中央市富郷(トミサト)	220.5 mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	196.5 mm
	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	177.0 mm	佐賀県伊万里市伊万里(イマリ)	119.0 mm
	兵庫県南あわじ市南淡(ナングン)	118.0 mm	長崎県西海市大瀬戸(オオセト)	114.0 mm
	福岡県福岡市早良区早良脇山(サワラキヤマ)	100.0 mm		
8 月 4 日	高知県香美市繁藤(シゲトリ)	317.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	188.0 mm
	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	187.0 mm	鹿児島県霧島市溝辺(ミゾヘ)	167.5 mm
	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	110.5 mm		

8月5日	高知県香美市繁藤(シゲト)	186.0 mm	福岡県大牟田市大牟田(オムタ)	162.5 mm
	熊本県山鹿市鹿北(カキ)	158.5 mm	北海道幌加内町朱鞠内(シュマリナイ)	147.0 mm
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	146.0 mm	広島県三次市君田(キミタ)	124.5 mm
	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	109.0 mm	山口県岩国市広瀬(ヒロセ)	100.5 mm
8月6日	山口県岩国市岩国(イワクニ)	217.0 mm	広島県大竹市大竹(オオタケ)	191.0 mm
	青森県青森市酸ヶ湯(スガ)	170.0 mm	島根県奥出雲町横田(ヨコタ)	131.5 mm
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	121.0 mm	鳥取県大山町大山(ダイセン)	100.0 mm

[主な最大風速]

7月30日	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	18.1 m/s	東北東	[20:25]
7月31日	沖縄県南大東村南大東(ミナダイト)	20.2 m/s	南南東	[23:49]
8月1日	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	29.7 m/s	南	[08:49]
	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギシマ)	24.3 m/s	南西	[10:48]
8月2日	長崎県新上五島町頭ヶ島(カシラガシマ)	17.7 m/s	南南東	[23:28]
8月3日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	18.9 m/s	西南西	[14:54]
8月4日	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	17.5 m/s	南	[15:25]
8月5日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	17.8 m/s	南	[02:42]
8月6日	沖縄県北大東村北大東(キタダイト)	17.9 m/s	東	[23:16]

8月7日から8月11日まで

7月29日09時にグアム島の東の海上で発生した台風第11号は、8月7日に強い勢力で大東島地方に最も接近した。台風第11号は強い勢力を維持したまま比較的遅い速度で北上し、10日06時過ぎに高知県安芸市付近に上陸した後、次第に速度を速めながら四国地方を通過し、10日11時前に兵庫県姫路市付近に再上陸して近畿地方を通過した。その後、台風第11号は暴風域を伴ったまま日本海を北上し、11日9時に日本海北部で温帯低気圧に変わった。この台風第11号の周辺の風と高気圧縁辺の風の影響で、南からの温かく湿った空気が継続したほか、前線が西日本の日本海側から北日本にかけて停滞した。

これらの影響で、全国各地で雨が降り、特に高知県では7日から11日までの総降水量が1000mmを超える大雨となったところがあった。また、日降水量で見ると、四国地方で500mmを超えたほか、近畿地方や東海地方で400mmを超えるなど、各地で日降水量が100mmを超える大雨となった。

風については、沖縄地方や四国地方、近畿地方で猛烈な風を観測したほか、九州南部・奄美地方から東海地方を中心に非常に強い風を観測した。

波については、沖縄地方では、7日は有義波高が6mを超える大しけとなり、8日は9mを超える猛烈なしけとなった。九州南部・奄美地方と九州北部地方では、9日は猛烈なしけとなった。西日本太平洋側(九州南部・奄美地方を除く)から東日本太平洋側でも、9日から10日にかけて一部で大しけとなった。

高潮については、沖縄・奄美では7日夕方から8日昼前にかけて、豊後水道及び九州南部では8日夜から9日夜遅くにかけて、四国地方太平洋側、瀬戸内海東部、紀伊水道及び紀伊半島南西岸では9日未明から10日昼過ぎにかけて、東海地方では10日明け方から昼過ぎにかけて最大潮位偏差(瞬間値)が50cm以上となった。御坊(和歌山県)では10日昼前に最大潮位偏差(瞬間値)が135cmに、大阪(大阪府)では10日昼過ぎに最大潮位偏差(瞬間値)が123cmとなった。また、この時期は一年を通して最も潮位が高く、台風接近と満潮が重なった佐伯(大分県)、阿波由岐(徳島県)及び御坊(和歌山県)では過去最高潮位(平滑値)を超える潮位を観測した。

このほか、台風の接近と前線の影響で、南から暖かく湿った空気の流れ込みが継続し、広い範囲で大気の状態が不安定となったため、9日には、三重県熊野市御浜町で強さが藤田スケールでF0の竜巻が発生し、住家

半壊1棟の被害が生じた。また、10日には、栃木県栃木市、壬生町、鹿沼市で強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生し、負傷者2名、住家半壊6棟などの被害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月7日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	127.0 mm	秋田県由利本荘市本荘(ホンジヨウ)	110.0 mm
	沖縄県南大東村旧東(キョウチ)	104.5 mm		
8月8日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	271.0 mm	石川県羽咋市羽咋(ハクイ)	198.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	148.0 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	134.5 mm
	香川県東かがわ市引田(ヒケタ)	122.5 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	112.5 mm
	新潟県上越市大潟(オオガタ)	109.5 mm	愛知県一宮市一宮(イチノミヤ)	108.0 mm
	富山県富山市富山(トヤマ)	102.0 mm		
8月9日	高知県津野町船戸(フナト)	528.0 mm	三重県津市白山(ハクサン)	435.5 mm
	和歌山県田辺市本宮(ホングウ)	406.5 mm	徳島県上勝町福原旭(フクラアサヒ)	357.5 mm
	奈良県上北山村上北山(カミキヤマ)	319.5 mm	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	287.5 mm
	香川県東かがわ市引田(ヒケタ)	224.5 mm	滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	223.5 mm
	愛媛県宇和島市宇和島(ウヅマ)	189.5 mm	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	177.5 mm
	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	169.5 mm	岐阜県大垣市上石津(カミイヅツ)	160.5 mm
	京都府京田辺市京田辺(キョウタナヘ)	151.5 mm	大阪府東大阪市生駒山(イクマヤマ)	150.5 mm
	兵庫県西宮市西宮(ニシノミヤ)	140.0 mm	福井県おおい町大飯(オオイ)	102.0 mm
8月10日	高知県馬路村魚梁瀬(イサナセ)	419.0 mm	徳島県上勝町福原旭(フクラアサヒ)	366.5 mm
	岐阜県本巣市樽見(ヅルミ)	300.0 mm	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	293.0 mm
	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	228.0 mm	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	226.0 mm
	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	221.0 mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	218.0 mm
	静岡県静岡市葵区梅ヶ島(ウメガシマ)	212.5 mm	鳥取県大山町大山(ダイセン)	197.5 mm
	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	192.5 mm	山梨県南部町南部(ナンブ)	190.0 mm
	兵庫県洲本市洲本(スモト)	190.0 mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	185.0 mm
	香川県小豆島町内海(ウチノミ)	185.0 mm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	179.0 mm
	愛媛県四国中央市富郷(トミサト)	163.0 mm	大阪府能勢町能勢(ノセ)	155.0 mm
	茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	145.5 mm	千葉県東庄町東庄(トウノシヨウ)	140.0 mm
	京都府南丹市園部(ソノベ)	139.0 mm	神奈川県相模原市緑区相模湖(サガミコ)	122.0 mm
	岡山県瀬戸内市虫明(ムシアケ)	112.0 mm	岩手県一関市祭時(マツルヘ)	104.0 mm
8月11日	北海道標津町糸櫛別(イトクシベツ)	168.0 mm		

[主な最大風速]

8月7日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	32.3 m/s	北北東	[15:03]
8月8日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	25.5 m/s	北東	[21:01]
	沖縄県南大東村南大東(ナミダイトウ)	23.6 m/s	西南西	[03:45]
8月9日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	30.3 m/s	東	[23:54]
	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	26.6 m/s	北	[05:15]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	24.4 m/s	東北東	[04:52]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	21.7 m/s	北北東	[03:13]
8月10日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	42.1 m/s	南西	[06:36]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	36.6 m/s	南	[10:18]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	30.8 m/s	南	[11:20]

	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	25.6	m/s	南	[10:55]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	23.0	m/s	南東	[11:11]
	徳島県美波町日和佐(ヒロサ)	22.9	m/s	東南東	[06:46]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	20.9	m/s	北東	[22:05]
8月11日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	21.0	m/s	北東	[00:07]

8月12日から8月26日まで

8月12日から26日にかけて前線が本州付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけて大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴って激しい雨が降った。特に、8月19日から20日にかけて、広島県広島市安佐北区三入では、最大1時間降水量が101.0mm、最大3時間降水量が217.5mm、最大24時間降水量が257.0mmとなり、いずれも観測史上1位の値を更新した。また、日降水量で見ると、四国地方から東海地方にかけて200mmを超えたほか、奄美地方から北海道にかけて、各地で日降水量が100mmを超える大雨となった。

[主な日降水量]

8月12日	愛知県新城市新城(シンシロ)	115.0	mm	静岡県浜松市天竜区佐久間(サクマ)	100.5	mm
8月13日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	72.5	mm			
8月14日	高知県須崎市須崎(スサキ)	171.5	mm	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	108.5	mm
8月15日	長崎県平戸市平戸(ヒラド)	173.0	mm	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	121.0	mm
	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	117.5	mm	岩手県二戸市二戸(ニノハ)	109.5	mm
8月16日	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	298.5	mm	京都府京都市右京区京北(ケイホク)	210.0	mm
	大阪府能勢町能勢(ノセ)	159.5	mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	147.5	mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	146.0	mm	岐阜県関市関市板取(セキシイドリ)	141.0	mm
	兵庫県丹波市柏原(カイハラ)	139.0	mm	石川県羽咋市羽咋(ハクイ)	134.0	mm
	滋賀県大津市南小松(ミナミコマツ)	113.0	mm			
8月17日	岐阜県高山市高山(タカヤマ)	232.0	mm	京都府福知山市福知山(フクチヤマ)	193.0	mm
	石川県羽咋市羽咋(ハクイ)	146.0	mm	兵庫県丹波市柏原(カイハラ)	136.0	mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	102.0	mm			
8月18日	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	141.0	mm			
8月19日	北海道登別市カルルス(カルルス)	132.0	mm	佐賀県佐賀市川副(カワソエ)	120.5	mm
	長崎県佐世保市佐世保(サセホ)	109.0	mm			
8月20日	広島県広島市安佐北区三入(ミイリ)	224.0	mm	長崎県佐世保市佐世保(サセホ)	179.0	mm
	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	110.5	mm			
8月21日	岩手県葛巻町葛巻(クスマキ)	112.5	mm	秋田県由利本荘市本荘(ホンジョウ)	107.5	mm
8月22日	北海道松前町松前(マツマイ)	173.0	mm	福岡県太宰府市太宰府(サイサイフ)	168.0	mm
	高知県四万十市江川崎(エカサキ)	147.5	mm	佐賀県唐津市唐津(カラツ)	118.0	mm
	青森県今別町今別(イマベツ)	116.5	mm			
8月23日	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	147.0	mm	岐阜県下呂市金山(カヤヤマ)	104.5	mm
8月24日	北海道礼文町礼文(レブン)	160.0	mm	大阪府茨木市茨木(イバラキ)	159.0	mm
	兵庫県宍粟市一宮(イチミヤ)	108.0	mm			
8月25日	長崎県諫早市諫早(イサハヤ)	67.0	mm			
8月26日	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカタニ)	87.5	mm	福井県坂井市春江(ハルエ)	87.5	mm

(12)9月6日～9月9日:沖縄・奄美、四国地方、伊豆諸島(大雨、暴風、高波) <台風第14号、前線>

9月5日21時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、7日3時に沖縄本島の東の海上で台風第14号となった。台風は本州の南海上を加速しながら北東へ進み、伊豆諸島に接近した後、11日3時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。

この台風や本州南岸にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から関東甲信地方にかけて雨が降り、沖縄・奄美や四国地方、伊豆諸島では大雨や暴風となったところもあった。伊豆諸島では大しけとなったところもあった。

[主な日降水量]

9月6日	沖縄県うるま市宮城島(ミヤギシマ)	145.0 mm	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	128.5 mm
	徳島県徳島市徳島(トクシマ)	108.5 mm	愛媛県四国中央市富郷(トミサト)	106.5 mm
9月7日	高知県四万十町窪川(クボカ)	167.5 mm		
9月8日	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	102.5 mm		
9月9日	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	59.0 mm		

[主な最大風速]

9月7日	沖縄県南大東村南大東(ミナトイ)	16.8 m/s	南西	[11:34]
9月8日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	19.7 m/s	北東	[23:49]
9月9日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	20.8 m/s	北東	[03:37]

(13)9月9日～9月12日:西日本から北日本(大雨) <大気不安定>

9月9日から12日にかけて、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となったため、西日本から北日本にかけて雷を伴って猛烈な雨が降った。特に北海道では記録的な大雨となったところがあった。

9月9日から12日までの総降水量は、北海道千歳市支笏湖畔で380.0mmとなるなど、9月の月降水量の平年値を上回る大雨となったほか、最大1時間降水量が北海道苫小牧市苫小牧で100.0mmとなるなど、猛烈な雨を観測した。

この大雨により、土砂災害、浸水害等が発生し、近畿地方や関東地方、東北地方や北海道で合わせて200棟を超える住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、水道被害のほか、道路の通行不能や鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成26年9月16日現在の内閣府及び国土交通省の情報による。)

[主な日降水量]

9月9日	北海道豊頃町大津(オツ)	99.0 mm		
9月10日	北海道白老町森野(モリノ)	235.5 mm		
9月11日	北海道千歳市支笏湖畔(シロツクハ)	276.5 mm	宮城県石巻市石巻(イシノマキ)	158.5 mm
9月12日	北海道苫小牧市苫小牧(トマコマイ)	121.5 mm		

(14)9月21日～9月25日:沖縄・奄美から東北地方(大雨、暴風、高波) <台風第16号、前線>

9月17日21時にフィリピンの東の海上で発生した台風第16号は、21日夜から22日朝にかけて、東シナ海に入り、23日に中国東部に上陸した後、東に進路を変えた。台風は、24日9時にチェジュ島の西の海上で温帯低気圧に変わった後、前線を伴って日本海に進み、25日15時に本州付近で消滅した。また、前線が、九州の南海上から九州付近に北上した。この台風や台風から変わった温帯低気圧、前線の影響で全国的に雨となり、九州地方から東北地方にかけての一部では大雨となったところがあった。また、沖縄・奄美や西日本の太平洋側では一部で暴風となったところがあり、沖縄地方では大しけとなったところがあった。

この影響により、沖縄県では船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、鹿児島県では土砂災害や、住家の

浸水被害が発生したところがあった。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

9月23日	鹿児島県天城町天城(アマキ)	62.0	mm			
9月24日	高知県香美市繁藤(シゲト)	134.0	mm	宮崎県宮崎市青島(アオシマ)	113.0	mm
	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアツカ)	111.5	mm			
9月25日	愛知県新城市新城(シンシロ)	156.5	mm	静岡県静岡市駿河区静岡(スズノカ)	155.5	mm
	岩手県大船渡市大船渡(オホフナト)	125.0	mm			

[主な最大風速]

9月21日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニシマ)	20.2	m/s	南南東	[22:46]
9月24日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	21.7	m/s	南西	[23:32]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	20.7	m/s	南南東	[23:35]
9月25日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.2	m/s	南	[00:19]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	21.4	m/s	南西	[00:41]

(15)9月27日～9月29日:伊豆諸島(暴風、高波) <台風第17号>

9月24日21時にマリアナ諸島の東の海上で発生した台風第17号は、27日に小笠原諸島の東の海上を北に進んだ後、28日には加速しながら北東に進み、30日15時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。この影響で、伊豆諸島や関東地方の一部では強風となり、小笠原諸島や伊豆諸島では大しけとなった。

[主な最大風速]

9月27日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	19.8	m/s	北北東	[03:54]
9月28日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	17.6	m/s	北北東	[11:17]
9月29日	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	17.0	m/s	北	[03:33]

(16)10月4日～10月6日:全国(大雨、暴風、高波、高潮) <台風第18号>

9月29日15時にグアム島の東の海上で発生した台風第18号は、発達しながら日本の南海上を北上し、大型で非常に強い勢力で南大東島の近海を通過して10月5日には九州の南海上に達した。台風は、その後、進路を東寄りに変え、大型で強い勢力を維持したまま潮岬の南を通過して、6日8時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、9時半頃に静岡県沼津市付近に再上陸した。台風は速度を速めながら東海地方及び関東地方を北東に進み、6日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風と本州付近に停滞した前線の影響で、東日本太平洋側を中心に大雨となった。また、沖縄・奄美と西日本・東日本の太平洋側を中心に暴風となり、猛烈なしけとなった。

10月4日から6日までに観測された総降水量は、静岡県伊豆市天城山で489.0mm、山梨県南部町南部で419.5mmなど、東日本太平洋側を中心に400mmを超えたほか、関東地方や東海地方では、統計期間が10年以上の観測地点のうち9地点で、最大24時間降水量が観測史上1位の値を更新した。

風については、静岡県南伊豆町石廊崎で32.2m/s、鹿児島県屋久島町屋久島で31.7m/sの最大風速を観測するなど、各地で暴風を観測した。

高潮については、台風第18号の接近・通過が満潮時間帯と重なったため、和歌山県串本町と沖縄県南大東村では過去に記録した最高潮位を上回る高い潮位を観測した。

この台風の影響で、土砂災害、浸水害等が発生し、神奈川県、千葉県及び茨城県で死者6名、行方不明

者1名となったほか、静岡県や関東地方を中心に住家被害が生じた。その他、停電、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成26年11月6日12時現在の内閣府の情報及び、平成26年10月7日14時現在の国土交通省の情報による)

[主な日降水量]

10月4日	沖縄県北大東村北大東(キタダイウ)	244.0	mm		
10月5日	鹿児島県中種子町中種子(ナカナネ)	336.5	mm	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	320.0
	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	260.5	mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	225.5
	山梨県南部町南部(ナンブ)	222.0	mm	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	185.5
	三重県尾鷲市尾鷲(オウレ)	179.5	mm	宮崎県日南市油津(アブラツ)	161.5
	長野県阿智村浪合(ナミアイ)	144.5	mm	高知県土佐清水市清水(シミズ)	141.0
	愛知県豊橋市豊橋(トヨハシ)	123.5	mm	埼玉県所沢市所沢(トコザリ)	115.0
	茨城県つくば市つくば(ツクバ)	109.5	mm	大分県佐伯市佐伯(サイキ)	100.5
10月6日	静岡県静岡市清水区清水(シミズ)	251.0	mm	三重県尾鷲市尾鷲(オウレ)	234.5
	山梨県南部町南部(ナンブ)	197.5	mm	茨城県笠間市笠間(カサマ)	193.0
	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	192.5	mm	神奈川県海老名市海老名(エビナ)	187.5
	滋賀県高島市朽木平良(クツキハラ)	181.0	mm	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	181.0
	福島県南相馬市原町(ハラマチ)	166.0	mm	宮城県石巻市雄勝(オガツ)	162.5
	富山県立山町立山芦峠(タテヤマアソケ)	159.5	mm	東京都大田区羽田(ハネダ)	145.0
	新潟県糸魚川市平岩(ヒライワ)	144.0	mm	千葉県船橋市船橋(フナバシ)	139.5
	岩手県久慈市下戸鎖(シモトクリ)	134.0	mm	福井県おおい町大飯(オオイ)	124.5
	香川県東かがわ市引田(ヒケタ)	122.5	mm	京都府綾部市睦寄(ムツヨリ)	118.5
	愛知県田原市伊良湖(イラコ)	118.0	mm	埼玉県越谷市越谷(コシガヤ)	117.0
	栃木県真岡市真岡(モオカ)	109.5	mm	鳥取県鳥取市鹿野(シカノ)	109.5
	岐阜県大垣市上石津(カミイヅツ)	107.5	mm	長野県小谷村小谷(オチ)	102.5

[主な最大風速]

10月4日	沖縄県北大東村北大東(キタダイウ)	28.6	m/s	北北西	[12:39]
	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	24.6	m/s	北北東	[24:00]
10月5日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	31.7	m/s	北	[12:57]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	24.3	m/s	東北東	[23:54]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	24.1	m/s	北東	[17:15]
	沖縄県南大東村南大東(ナミダイウ)	22.2	m/s	西南西	[00:13]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	21.4	m/s	北北東	[14:09]
10月6日	静岡県南伊豆町石廊崎(イロウサキ)	32.2	m/s	南南西	[09:01]
	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	31.0	m/s	南南西	[11:10]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	29.5	m/s	南南西	[08:24]
	和歌山県串本町潮岬(シオノサキ)	26.2	m/s	西	[06:43]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	25.0	m/s	北北東	[14:15]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	23.5	m/s	東北東	[00:16]
	神奈川県三浦市三浦(ミウラ)	22.1	m/s	南南西	[10:35]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	21.8	m/s	北西	[07:53]
	兵庫県神戸市中央区神戸(コウベ)	21.8	m/s	北	[06:16]

岡山県奈義町奈義(ナギ)	21.5 m/s	北北東	[05:33]
徳島県阿南市蒲生田(カモウダ)	20.0 m/s	北東	[02:04]

(17)10月10日～10月14日:全国(大雨、暴風、高波、高潮)＜台風第19号＞

10月4日3時にポンペイ島の北西の海上で発生した台風第19号は、沖縄の南海上を北上し、12日0時半頃に大型で強い勢力で沖縄本島付近を通過した。その後台風は、東シナ海で進路を北東に変え、13日8時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸し、14時半頃に高知県宿毛市付近に再上陸した後、19時半頃に淡路島付近を通過し、20時過ぎに大阪府泉佐野市付近に再上陸した。台風は、速度を速めながら近畿地方、東海地方、関東甲信地方、東北地方を進み、14日9時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。また、日本の南海上に前線が停滞した。

台風や前線の影響により、沖縄・奄美と西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に大雨となった。また、全国的に暴風となり、沖縄・奄美や西日本・東日本の太平洋側を中心に猛烈なしけや高潮となった。

10月10日から14日までに観測された総降水量は、沖縄県国頭村国頭で557.5mm、宮崎県美郷町神門で522.0mmなど、沖縄・奄美と西日本太平洋側を中心に400mmを超えた。また、日降水量でみると、沖縄・奄美の多いところで500mmを超えたほか、西日本から東日本の太平洋側の多いところで300mmを超えるなど、各地で日降水量が100mmを超える大雨となった。

風については、沖縄県うるま市宮城島で35.1m/s、鹿児島県和泊町沖永良部で30.9m/sの最大風速を観測するなど、沖縄地方や九州南部・奄美地方で猛烈な風を観測したほか、西日本から北日本にかけて非常に強い風を観測した。

この台風の影響で、土砂災害、浸水害等が発生し、愛媛県、鳥取県で死者3名となったほか、近畿地方や宮城県を中心に床上・床下浸水などの住家被害が生じた。その他、停電、水道被害、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成26年11月6日12時現在の内閣府の情報及び、平成26年10月14日13時現在の国土交通省の情報による)

[主な日降水量]

10月10日	東京都小笠原村父島(チヂマ)	111.5 mm		
10月11日	沖縄県国頭村国頭(クニガミ)	512.5 mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロソジマ)	317.5 mm
10月12日	宮崎県美郷町神門(ミカド)	276.0 mm	高知県四万十町窪川(クボカワ)	172.0 mm
	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	162.5 mm	大分県佐伯市宇目(ウメ)	118.5 mm
10月13日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	399.5 mm	徳島県上勝町福原旭(フハラアサヒ)	393.5 mm
	三重県尾鷲市尾鷲(オウセ)	349.5 mm	大分県宇佐市院内(インナイ)	301.5 mm
	兵庫県洲本市洲本(スモト)	296.5 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	290.5 mm
	鳥取県鳥取市鹿野(シカノ)	248.5 mm	宮崎県美郷町神門(ミカド)	238.0 mm
	和歌山県新宮市新宮(シンガウ)	196.0 mm	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	192.0 mm
	香川県小豆島町内海(チヂミ)	169.5 mm	岡山県真庭市上長田(カミナガタ)	168.0 mm
	岐阜県大垣市大垣(オオガキ)	165.5 mm	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	154.5 mm
	福岡県福岡市早良区早良脇山(サワラキヤマ)	151.5 mm	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	148.5 mm
	山梨県南部町南部(ナンブ)	138.5 mm	京都府綾部市綾部(アヤハ)	136.0 mm
	愛知県愛西市愛西(アイサイ)	125.0 mm	福井県おおい町大飯(オオイ)	112.5 mm
	滋賀県大津市南小松(ミナコマツ)	110.5 mm	島根県隠岐の島町西郷(サイゴウ)	109.5 mm
	東京都府中市府中(フチュウ)	108.0 mm	栃木県日光市今市(イマイチ)	107.5 mm

	熊本県湯前町湯前横谷(ノノエヨコタ)	107.0	mm	山口県周防大島町安下庄(アゲノショウ)	106.0	mm
	佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	105.5	mm	長崎県対馬市美津島(ミツシマ)	104.0	mm
	長野県阿智村浪合(ナミアイ)	103.5	mm	神奈川県相模原市中央区相模原中央(サガミハチユウカ)	101.5	mm
10月14日	宮城県石巻市雄勝(オガツ)	186.0	mm	富山県立山町立山芦嶺(タヤマアシクラ)	170.5	mm
	福島県新地町新地(シンチ)	145.5	mm	岩手県釜石市釜石(カマイシ)	124.0	mm
	新潟県糸魚川市平岩(ヒライワ)	110.5	mm	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	105.0	mm

[主な最大風速]

10月10日	沖縄県南城市糸数(イトカス)	27.6	m/s	東北東	[21:46]
10月11日	沖縄県うるま市宮城島(ミヤキシマ)	35.1	m/s	北北東	[14:39]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	30.9	m/s	北東	[18:00]
10月12日	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	29.9	m/s	東南東	[03:53]
	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	28.8	m/s	北北西	[00:35]
	長崎県小値賀町小値賀(オチカ)	20.1	m/s	北北東	[23:25]
10月13日	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	30.4	m/s	西南西	[09:55]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	28.9	m/s	南南東	[15:14]
	岡山県奈義町奈義(ナギ)	27.0	m/s	北	[21:54]
	山口県美祿市秋吉台(アキヨシダイ)	24.5	m/s	北	[16:56]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	24.5	m/s	北	[16:22]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	23.9	m/s	南南西	[23:37]
	兵庫県神戸市中央区神戸(コウベ)	22.4	m/s	北北西	[22:12]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.0	m/s	南東	[19:37]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.8	m/s	南	[19:53]
	島根県出雲市斐川(ヒカリ)	20.8	m/s	北北東	[17:18]
	鳥取県鳥取市湖山(ウミヤマ)	20.3	m/s	北北東	[19:48]
10月14日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	26.9	m/s	北北東	[11:46]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	24.8	m/s	南南西	[00:21]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	24.1	m/s	北西	[07:06]
	石川県輪島市輪島(ウジマ)	20.3	m/s	北	[01:54]
	新潟県佐渡市弾崎(ハジキザキ)	20.2	m/s	北北西	[04:40]

(18)10月16日:青森県(竜巻) <低気圧>

日本海に低気圧があり、南からの暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となっていた。青森県東通村小田野沢では、強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生した。この竜巻により、青森県で住家半壊1棟、一部損壊7棟などの被害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

(19)11月4日～11月7日:伊豆諸島、小笠原諸島(大雨、暴風、高波) <台風第20号>

10月31日9時にグアム島の西の海上で発生した台風第20号は、フィリピンの東の海上で進路を北東に変え、加速しながら伊豆諸島の南を進み、11月7日3時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わった。

この台風と日本の南海上に停滞する前線や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところがあった。また、小笠原諸島や伊豆諸島、関東地方の一部では強

風となったところがあり、小笠原諸島では猛烈なしけとなった。

[主な日降水量]

11月5日 東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 104.0 mm

[主な最大風速]

11月5日 東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ) 15.8 m/s 北北東 [20:05]

11月6日 東京都小笠原村父島(チチジマ) 18.1 m/s 南南東 [07:19]

11月7日 千葉県銚子市銚子(チヨウシ) 16.2 m/s 北 [00:05]

(20)12月1日～12月3日:西日本から北日本(大雪、暴風雪、高波、大雨) <低気圧>

11月30日から12月2日にかけて、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら日本海から沿海州に進み、その後、3日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置となった。このため、西日本から北日本では雨や雪が降り、北日本を中心に大雪となった。また、北陸地方や北海道太平洋側の一部では大雨となったところがあったほか、1日は、西日本から東日本の太平洋側を中心に、2日から3日にかけては、北陸地方や北日本を中心に暴風や暴風雪となったところがあり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に大しけとなった。

この大雪や暴風等により、停電や鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

[主な最大風速]

12月1日 高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ) 23.7 m/s 西北西 [18:51]

山形県酒田市飛島(ヒシマ) 23.4 m/s 西北西 [14:32]

鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ) 20.5 m/s 北西 [12:55]

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ) 20.4 m/s 南 [08:02]

12月2日 北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ) 26.3 m/s 西南西 [22:14]

山形県酒田市飛島(ヒシマ) 25.2 m/s 西 [13:31]

新潟県佐渡市相川(アイカリ) 21.6 m/s 西 [01:49]

秋田県八峰町八森(ハチモリ) 20.6 m/s 西北西 [13:59]

12月3日 北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ) 27.1 m/s 西南西 [00:27]

山形県酒田市飛島(ヒシマ) 20.8 m/s 西 [18:01]

新潟県佐渡市相川(アイカリ) 20.6 m/s 西 [06:30]

[主な日降雪量]

12月2日 宮城県栗原市駒ノ湯(コマノ) 58 cm 青森県青森市酸ヶ湯(スガ) 49 cm

北海道枝幸町歌登(ウタノボリ) 48 cm 秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ) 45 cm

岩手県一関市祭時(マツルハ) 45 cm

12月3日 北海道名寄市名寄(ナヨ) 73 cm 宮城県栗原市駒ノ湯(コマノ) 56 cm

岩手県一関市祭時(マツルハ) 47 cm 秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ) 39 cm

山形県最上町向町(ムカイマチ) 37 cm

[主な日降水量]

12月1日 北海道白老町森野(モリノ) 138.5 mm

12月2日 新潟県新発田市赤谷(アカガニ) 125.0 mm

(21)12月4日～12月7日:西日本から北日本(大雪)<冬型>

12月4日から7日にかけて、日本付近は強い冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気が流れ込んだ。この影響で、西日本から北日本にかけて広い範囲で雪が降り、特に、日本海側や山沿いを中心に大雪となった。

この大雪により、徳島県で2名の死者が発生したほか、北陸地方や東北地方では負傷者が発生した。また、停電、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。特に徳島県では、道路への積雪や雪による倒木等により、車両の立ち往生や、交通の途絶による集落の孤立が発生した。(被害状況は、平成26年12月12日17時現在の内閣府の情報による)

[主な日降雪量]

12月4日	広島県北広島町八幡(ヤリタ)	42	cm			
12月5日	山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	58	cm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	56	cm
	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	45	cm	広島県庄原市高野(タカノ)	43	cm
	島根県飯南町赤名(アカナ)	37	cm	北海道共和町共和(キョウワ)	32	cm
	新潟県上越市安塚(ヤスツカ)	32	cm			
12月6日	新潟県津南町津南(ツナン)	69	cm	山形県小国町小国(オグニ)	61	cm
	岐阜県本巣市樽見(ヅルミ)	56	cm	青森県青森市酸ヶ湯(スカト)	53	cm
	長野県野沢温泉村野沢温泉(ノゾウオンセン)	50	cm	福島県只見町只見(タジミ)	47	cm
	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	47	cm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	46	cm
	北海道留萌市幌糠(ホロヌカ)	32	cm	富山県富山市猪谷(イノタニ)	32	cm
	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	30	cm			
12月7日	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	46	cm	新潟県湯沢町湯沢(ユザワ)	35	cm

(22)12月16日～12月18日:西日本から北日本(暴風雪、大雪、高波、高潮)<低気圧>

12月16日から17日にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本付近を北東に進み、その後、18日にかけて北海道の東海上に進んで、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。このため、西日本から東北地方の日本海側や北海道では、平地を含め大雪となり、特に、北海道では暴風雪となったほか、太平洋側の平地でも積雪となったところがあった。また、九州地方や北陸地方、伊豆諸島、北海道の一部では暴風となったところがあり、北陸地方や北日本では猛烈なしけとなったほか、北海道では高潮が発生した。

この大雪と暴風雪により、除雪作業中の事故や落雪、倒壊した構造物の下敷きになるなどして、長野県、富山県、新潟県、秋田県、北海道であわせて死者5名となったほか、東日本から北日本にかけて住家損壊や浸水等が発生した。また、北海道では、高潮による家屋浸水被害が発生した。このほか、停電、電話の不通等ライフラインへの被害や、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成26年12月19日17時現在の内閣府の情報による)

[主な最大風速]

12月16日	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	29.8	m/s	西北西	[17:57]
	北海道稚内市宗谷岬(ソヤマサキ)	25.5	m/s	東南東	[23:05]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	24.8	m/s	西北西	[16:57]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	23.3	m/s	西北西	[23:53]
	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.4	m/s	西	[07:30]
12月17日	北海道根室市納沙布(ノサップ)	30.7	m/s	東	[04:51]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	26.3	m/s	西北西	[22:57]
	新潟県佐渡市相川(アイカ)	23.6	m/s	西北西	[18:59]

	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	23.2	m/s	北西	[09:16]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	22.8	m/s	西北西	[02:05]
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	20.7	m/s	西北西	[04:20]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	20.3	m/s	西	[06:07]
	大分県豊後高田市豊後高田(ブンゴウタカ)	20.1	m/s	西	[14:19]
12月18日	山形県酒田市飛島(ヒシマ)	26.0	m/s	西北西	[06:31]
	新潟県佐渡市相川(アイカ)	21.9	m/s	西	[01:23]
	北海道猿払村浜鬼志別(ハマオニシベツ)	21.2	m/s	北北東	[02:19]
	東京都神津島村神津島(コヅシマ)	20.7	m/s	西北西	[06:41]

[主な日降雪量]

12月16日	北海道上士幌町ぬかびら源泉郷(ヌカヒラゲンセンキョウ)	43	cm	長野県白馬村白馬(ハクハ)	30	cm
12月17日	福島県檜枝岐村檜枝岐(ヒエマタ)	97	cm	北海道上川町層雲峡(ソウウンキョウ)	83	cm
	新潟県上越市安塚(ヤスツカ)	77	cm	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	74	cm
	長野県野沢温泉村野沢温泉(ノザクオンセン)	70	cm	富山県富山市猪谷(イノタニ)	47	cm
	山形県米沢市米沢(コネザリ)	46	cm	岐阜県高山市高山(タカヤマ)	46	cm
	石川県七尾市七尾(ナナオ)	41	cm	岡山県新見市千屋(チヤ)	41	cm
	栃木県那須町那須(ナス)	36	cm	兵庫県香美町香住(カスミ)	32	cm
	福井県大野市大野(オオノ)	30	cm			
12月18日	岐阜県飛騨市河合(カワイ)	47	cm	秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ)	45	cm
	宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ)	40	cm	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	40	cm
	山形県最上町向町(ムカイマチ)	36	cm	岩手県西和賀町湯田(ユダ)	34	cm
	福島県檜枝岐村檜枝岐(ヒエマタ)	34	cm	北海道上川町層雲峡(ソウウンキョウ)	33	cm
	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	31	cm			

平成26年に発生した主な竜巻等の突風

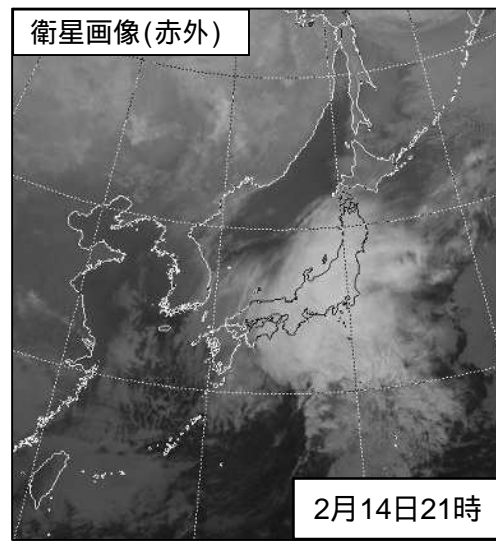
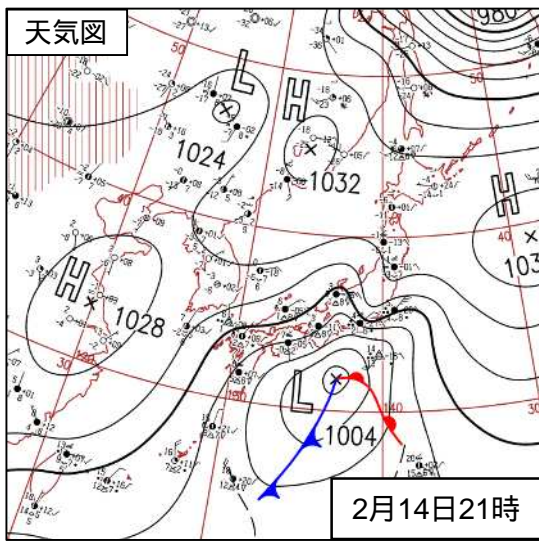
発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	藤田 スケール	気象状況
8月9日 06時00分頃	竜巻	三重県 熊野市、南 牟婁郡御浜町	住家半壊1棟	F0	台風・ 暖気の移流
8月10日 11時30分から 11時50分頃	竜巻	栃木県 栃木市、下 都賀郡壬生町、鹿 沼市	負傷者2名、住家半壊6棟	F1	台風・ 暖気の移流
10月16日 21時頃	竜巻	青森県 下北郡東 通村	住家半壊1棟	F1	低気圧

被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したもの

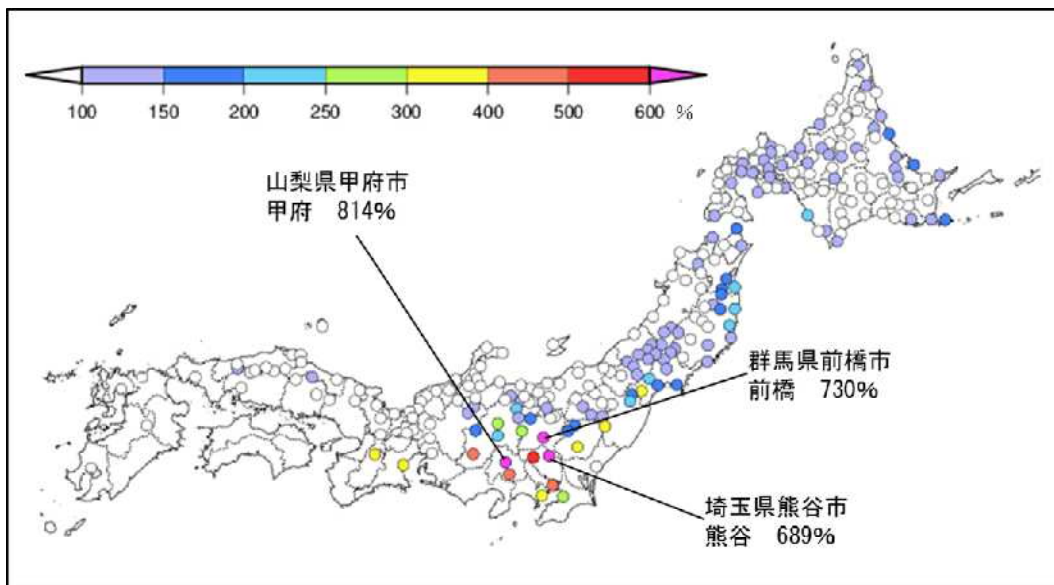
詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

災害番号 (3)

天気図等



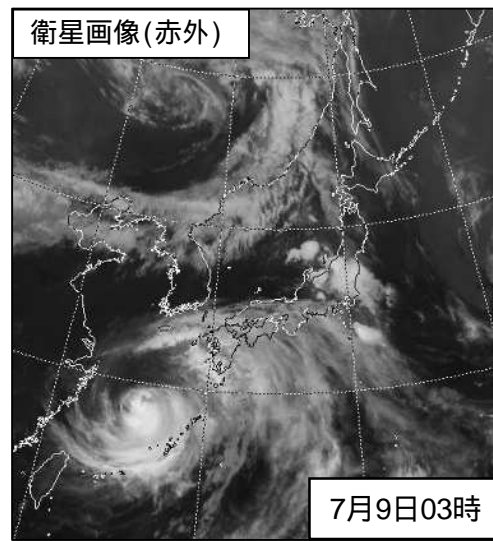
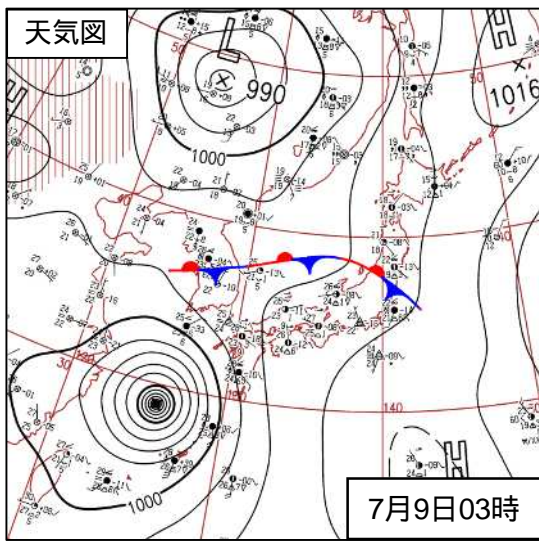
期間最深積雪と年最深積雪の平年値との比較分布図 [期間 : 2月13日 ~ 19日]



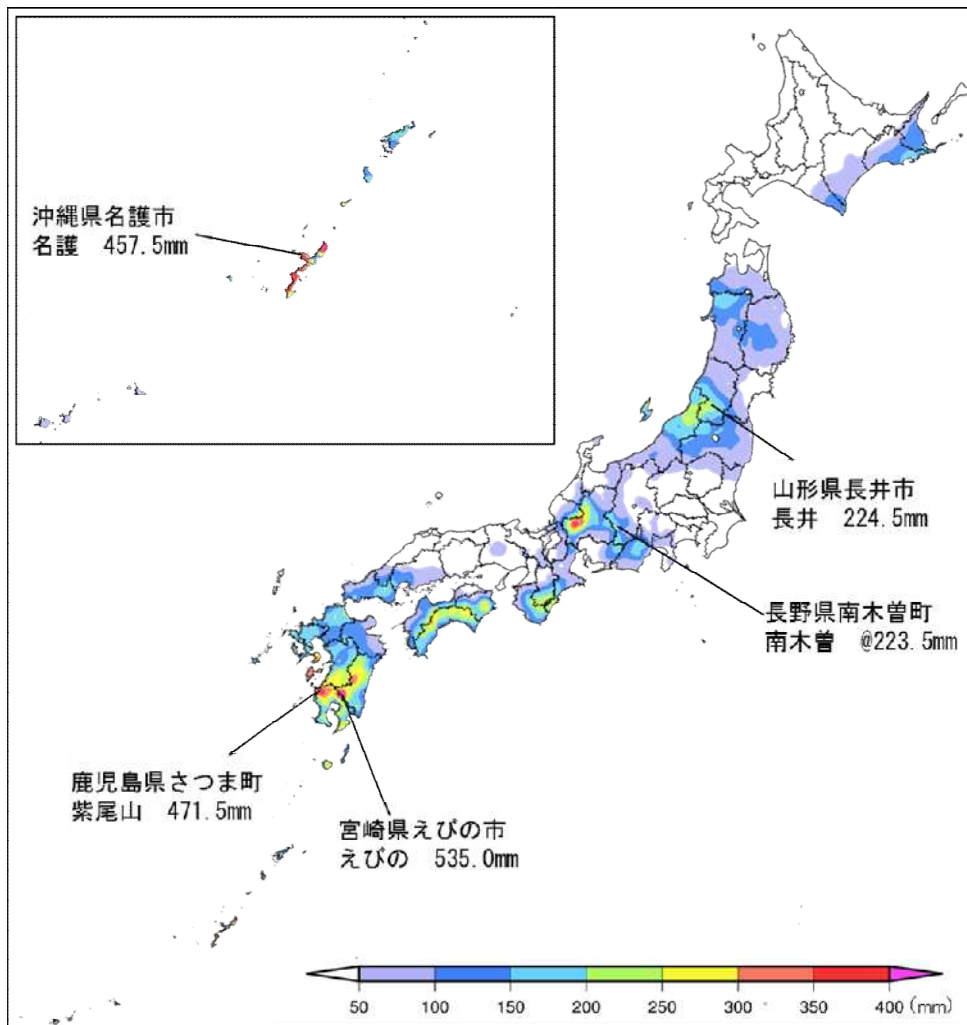
年最深積雪の平年値が 3cm 以上の地点のみを記載

災害番号 (8)

天気図等



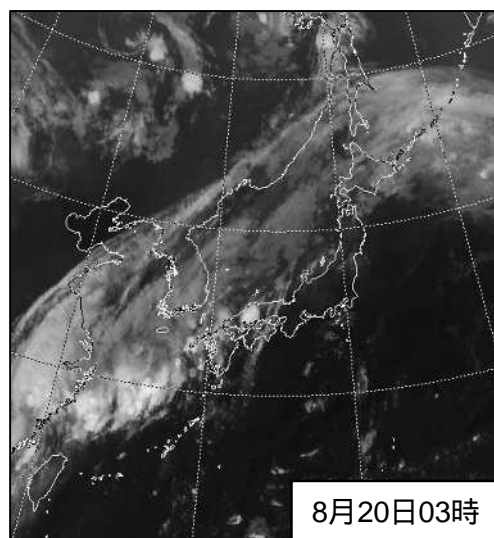
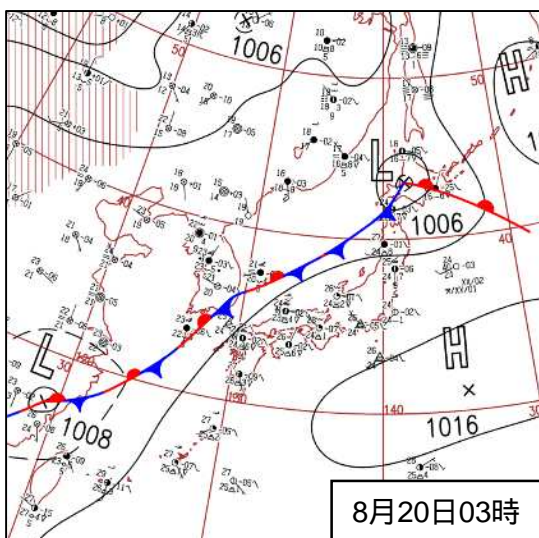
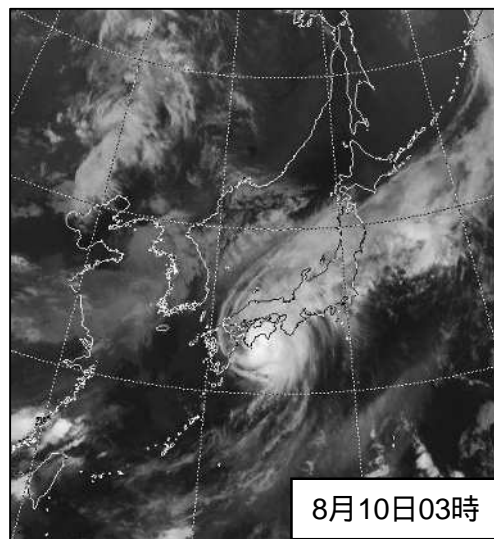
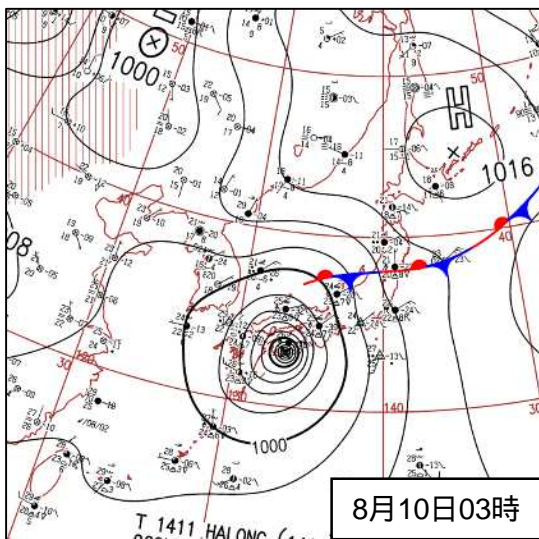
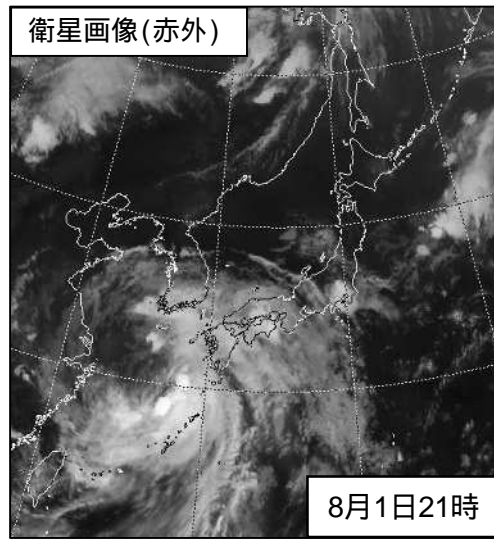
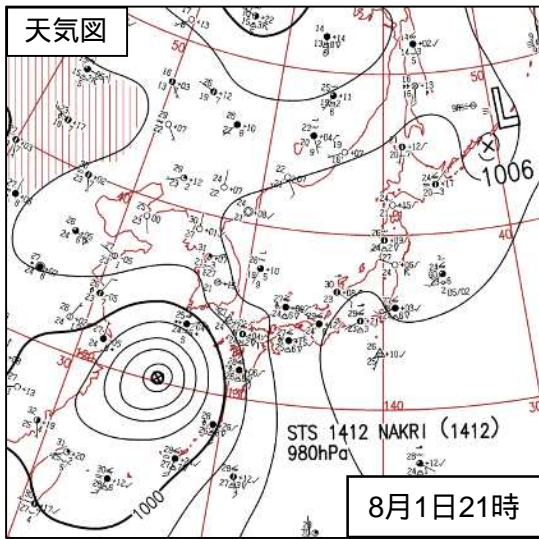
総降水量分布図 [期間 : 7月6日 ~ 11日]



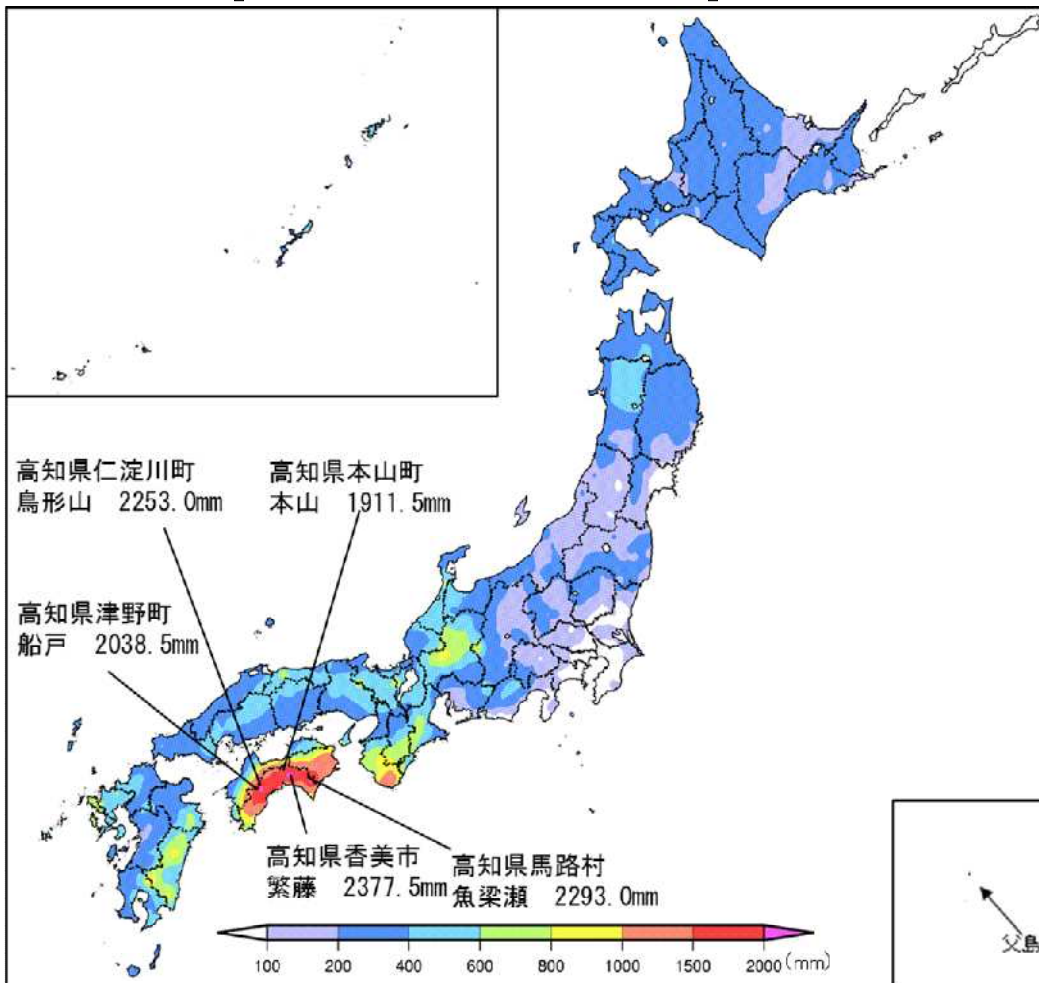
◎ 集計期間内に欠測している時間帯がある観測所

災害番号(11)

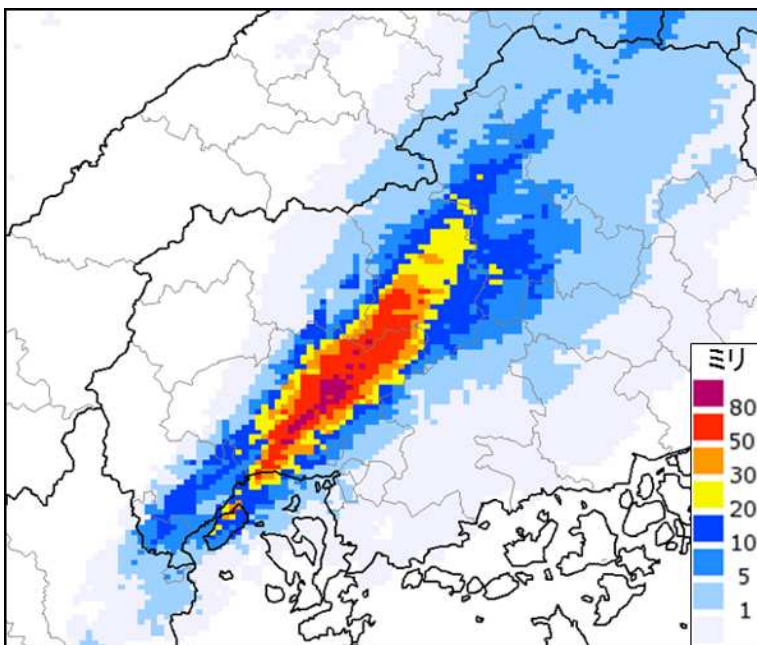
天気図等



総降水量分布図 [期間 : 7月30日 ~ 8月26日]



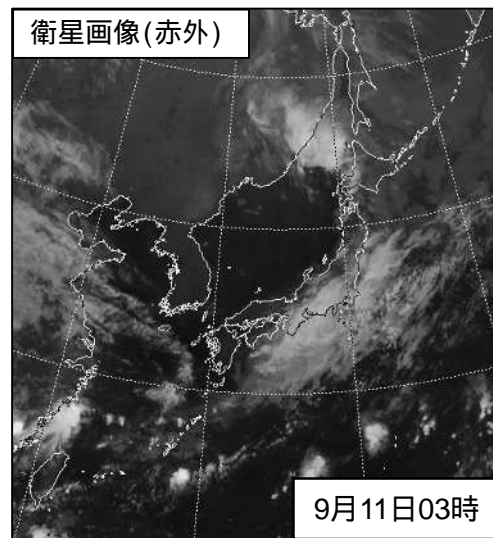
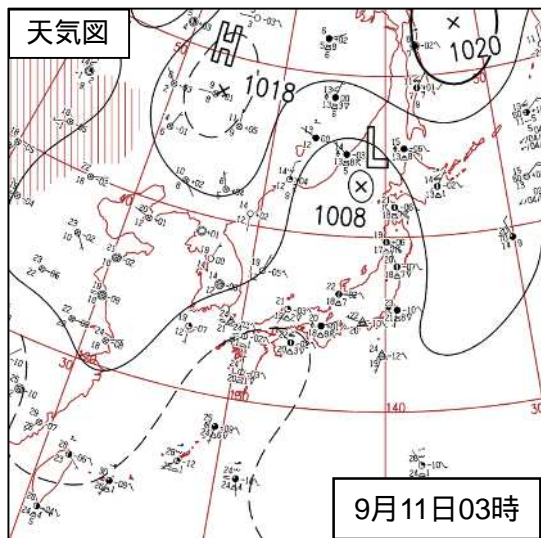
解析雨量 [期間 : 8月20日02時 ~ 03時]



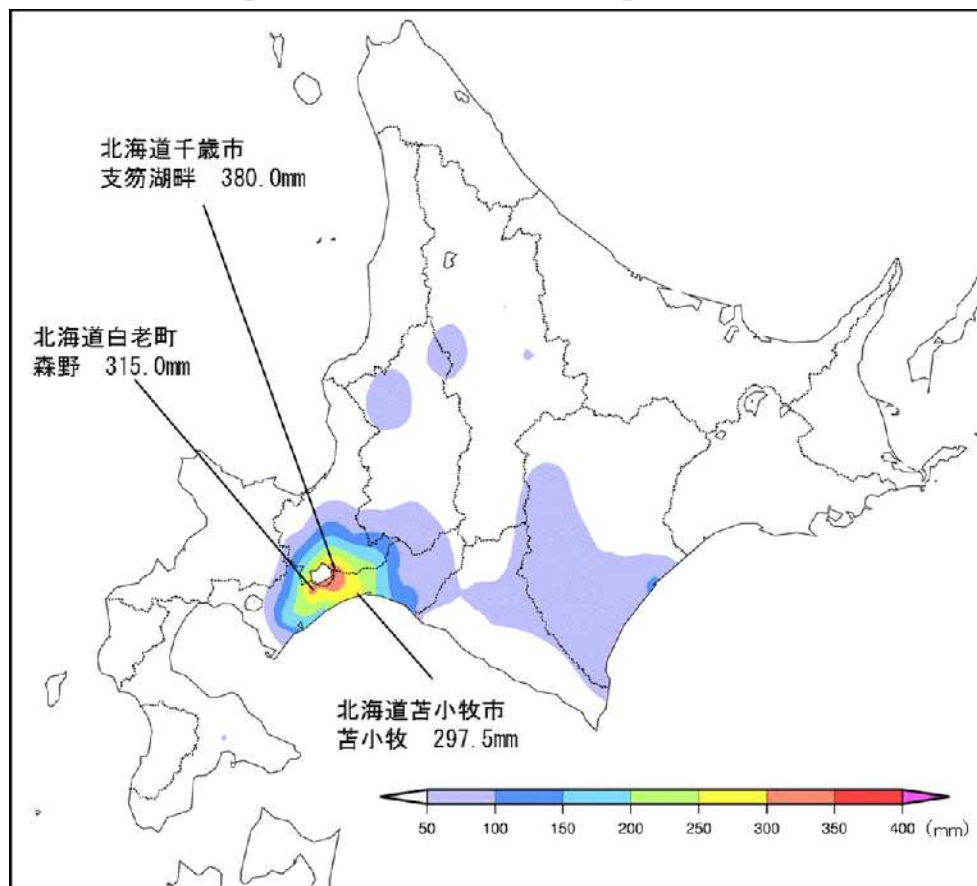
解析雨量とは、気象レーダーと、アメダス等の雨量計を組み合わせ、雨量分布を1km四方の細かさで解析したもの。

災害番号(13)

天気図等



総降水量分布図 [期間 : 9月9日 ~ 12日]



資料 1-2-1 平成 26 年（2014 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

激甚災害(本激：地域を特定せず、災害そのものを指定)

< 内閣府作成資料等から引用 >

期間	災害原因	気象要因
7/30～8/25	暴風雨、豪雨	台風第 11 号、台風第 12 号、前線

局地激甚災害(局激：市町村単位で災害を指定)

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
2/16～2/17	融雪	低気圧	山梨県	丹波山村
3/30～3/31	融雪	低気圧	長野県	栄村
6/3～6/7	豪雨	前線、低気圧	東京都	あきる野市
			宮崎県	諸塚村
7/9～7/10	暴風雨、豪雨	梅雨前線、台風第 8 号	宮城県	七ヶ宿町
			山形県	白鷹町
			福島県	只見町、柳津町
			長野県	南木曾町
			高知県	仁淀川町
7/19～7/20	豪雨	低気圧	宮崎県	椎葉村
			富山県	魚津市
10/4～10/7	暴風雨	台風第 18 号	山梨県	富士川町
			静岡県	富士宮市（旧芝川町）
			奈良県	野迫川村
			鹿児島県	西之表市
10/11～10/14	暴風雨	台風第 19 号	兵庫県	洲本市、淡路市
			沖縄県	大宜味村

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

< 内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用 >

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 26 年(2014 年)台風の概要

2-1 平成 26 年(2014 年)に発生した台風

台風の発生数は平年より少ない 23 個(平年値 25.6 個)であった。日本への接近数は平年並の 12 個であったが、日本への上陸数は最近 10 年で最も多い 4 個となった。

表 2.1 平成 26 年(2014 年)の台風発生数、日本への上陸数^{*1}、日本への接近数^{*2}と平年値及び平成 25 年(2013 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	
平年値	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
	発生数	1	1				4	3	6	7	7	2		31
平成 25 年 (2013 年)	上陸数									2				2
	接近数						2	1	2	4	6			14
	発生数	2	1		2		2	5	1	5	2	1	2	23
平成 26 年 (2014 年)	上陸数							1	1		2			4
	接近数						2	3	2	3	2	1		12

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸^{*1} 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近^{*2} 台風の中心が、日本から概ね 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H. 1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
平年値	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
1981-2010													

台風の発生月:熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。

合計の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
平年値 1981-2010	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7

台風の日本への上陸: 台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
平年値	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
1981-2010	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4

台風の接近：台風が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
平年値 1981-2010	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5

台風の北海道・本州・四国・九州への接近：台風が中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成26年(2014年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		間中の最低(大)値		強風半径	熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置			
		月日時	北緯 東経	月日時	北緯 東経	月日時	hPa	月日時	m/s		月日時	北緯 東経	種類	月日時	北緯 東経	
1	LINGLING	1 15 09	9.6 129.2	1 18 09	9.7 127.4	1 18 15	1002	1 20 03	18	1 20 03	NW:370 SE:170	1 20 09	7.2 128.3	TD	1 20 15	6.3 129.0
2	KAJIKI	1 29 09	9.5 143.1	1 31 09	9.7 130.3	1 31 21	1000	2 1 09	18	2 1 09	NW:330 SE:170	2 1 15	11.2 120.0	TD	2 1 21	11.0 118.0
3	FAXAI	2 27 21	8.7 147.8	2 28 21	8.6 148.5	3 5 03	975	3 5 03	35	3 5 03	N:390 S:280	3 6 03	22.2 155.0	L	3 8 15	26.2 168.0
4	PEIPAH	4 3 03	1.8 148.4	4 5 09	4.3 140.4	4 5 15	998	4 5 15	18	4 5 15	NW:220 SE:170	4 5 21	5.2 138.8	TD	4 8 09	6.8 131.6
5	TAPAH	4 27 09	10.1 146.5	4 28 09	12.5 147.0	4 30 09	985	4 30 09	25	4 30 09	E:190 W:110	5 1 09	21.3 145.3	TD	5 2 15	24.9 145.2
6	MITAG	6 9 09	21.0 120.0	6 11 09	23.4 125.9	6 12 03	994	6 12 03	20	6 12 03	SE:280 NW:130	6 12 09	28.8 135.9	L	6 12 09	28.8 135.9
7	HAGIBIS	6 13 09	18.8 116.0	6 14 09	20.6 117.0	6 17 15	996	6 17 15	20	6 15 03	330	6 17 21	29.2 130.0	TD	6 23 09	域外
8	NEOGURI	7 2 21	8.4 146.8	7 4 03	11.4 143.3	7 7 09	930	7 7 09	50	7 9 06	E:700 W:440	7 11 09	37.0 142.0	L	7 13 15	53.7 149.5
9	RAMMASUN	7 9 15	8.0 154.3	7 12 15	13.4 142.7	7 18 15	935	7 18 21	45	7 18 03	300	7 20 03	22.7 104.4	TD	7 20 09	23.0 103.6
10	MATMO	7 16 15	10.0 136.8	7 17 21	10.1 135.4	7 22 21	965	7 22 21	35	7 25 09	E:560 W:280	7 25 15	36.0 122.0	L	7 26 09	39.6 125.8
11	HALONG	7 28 03	11.3 151.8	7 29 09	12.4 148.3	8 3 15	920	8 3 15	55	8 11 03	S:700 N:390	8 11 09	43.0 137.0	L	8 15 09	47.0 151.9
12	NAKRI	7 28 15	17.4 133.6	7 29 21	18.8 130.2	8 2 21	980	8 1 21	30	8 1 15	650	8 3 15	35.2 125.4	TD	8 4 09	35.9 126.7
13	GENEVIEVE	域外		8 7 15	14.4 180.0	8 8 15	915	8 8 15	55	8 10 03	E:330 W:190	8 12 15	35.1 166.0	TD	8 14 15	39.1 171.3
14	FENGSHEN	9 5 21	20.3 127.6	9 7 03	26.3 128.8	9 9 15	975	9 9 15	30	9 10 21	SE:500 NW:280	9 11 03	39.7 163.6	L	9 11 09	40.5 168.0
15	KALMAEGI	9 12 03	13.5 134.0	9 12 15	13.7 131.2	9 16 15	960	9 16 15	40	9 16 09	SE:750 NW:390	9 17 21	22.4 101.8	TD	9 18 03	21.6 100.8
16	FUNG-WONG	9 17 09	12.6 135.0	9 17 21	12.7 131.3	9 21 15	985	9 22 03	23	9 19 21	500	9 24 09	33.0 125.0	L	9 25 09	37.5 138.5
17	KAMMURI	9 23 21	17.9 149.6	9 24 21	20.0 149.6	9 30 09	985	9 27 15	25	9 28 15	N:650 S:500	9 30 15	39.2 160.0	L	10 2 03	域外
18	PHANFONE	9 28 15	11.0 157.1	9 29 15	13.0 151.0	10 5 00	935	10 5 00	50	10 6 15	560	10 6 21	39.0 147.0	L	10 8 09	域外
19	VONGFONG	10 2 21	7.3 162.1	10 4 03	9.0 156.2	10 8 21	900	10 8 21	60	10 14 06	SE:750 NW:650	10 14 09	39.0 143.2	L	10 16 21	域外
20	NURI	10 30 09	12.6 140.9	10 31 09	12.4 137.2	11 3 15	910	11 3 15	55	11 4 09	560	11 7 03	34.3 146.1	L	11 7 15	42.0 159.0
21	SINLUKU	11 26 09	8.4 128.0	11 28 09	11.2 117.3	11 29 09	990	11 30 03	23	11 29 21	N:220 S:170	11 30 15	13.3 107.9	TD	11 30 15	13.3 107.9
22	HAGUPIT	11 30 21	2.6 156.0	12 1 09	4.1 153.4	12 5 03	905	12 5 03	60	12 6 09	N:600 S:280	12 11 15	13.1 112.5	TD	12 12 15	9.2 109.2
23	JANGMI	12 28 09	7.4 128.7	12 28 21	8.2 127.2	12 30 03	996	12 30 03	20	12 30 03	N:280 S:170	12 30 21	9.4 122.1	TD	1 1 21	6.4 117.5

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 平成 26 年(2014 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

* 台風の中心が日本から概ね500km に入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(1) 台風第6号 (1406 MITAG)

6月9日09時に台湾の南の海上で発生した熱帯低気圧は東へ進んだ後、東北東へ進み、11日09時に沖縄の南海上で台風第6号となり、同日15時に同海域で勢力が最大となった。その後、台風第6号は北東に進み、12日09時に本州の南で温帯低気圧となり、同日15時に消滅した。

(2) 台風第7号 (1407 HAGIBIS)

6月13日09時に台湾の南西の海上で発生した熱帯低気圧は北東へ進んだ後、北へ進路を変え、14日09時に同海域で台風第7号となり、勢力が1度目の最大となった。台風第7号は進行方向と勢力を維持し、華南に上陸した後、16日03時に同地域で熱帯低気圧となった。その後、同日中に熱帯低気圧は北東に進路を変え、17日09時に東シナ海で再び台風第7号となった。台風第7号は、17日15時に沖縄本島の北西の海上で再び勢力が最大となった後、17日21時に奄美大島の北の海上で、熱帯低気圧となった。熱帯低気圧は18日03時に四国の南の海上で温帯低気圧となり、東に進んだ。その後、温帯低気圧は徐々に北東に進路を変え、23日09時前に東経180度を越えた。

(3) 台風第8号 (1408 NEOGURI)

7月2日21時にマリアナ諸島の南の海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進んだ後、4日03時に同海域で台風第8号となった。台風は急速に発達しながら北西に進み、7日03時に勢力が最大となった。台風は徐々に進路を北に変え、8日に宮古島と久米島の間を通過した後、東に進路を変え、10日07時前に鹿児島県阿久根市付近に上陸した。台風はその後東に進み、同日18時半頃に和歌山県南部に上陸した後、11日02時半頃に静岡県伊豆半島南部を通過し、同日05時前に千葉県富津市付近に上陸した。その後、台風は徐々に進路を北に変え、同日09時に温帯低気圧に変わり、13日21時にオホーツク海で消滅した。

(4) 台風第10号 (1410 MATMO)

7月16日15時にパラオ諸島の北東の海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、17日21時に同海域で台風第10号となった。台風は北西に進路を変え、21日09時にフィリピンの東の海上で勢力が最大となった。台風はその後、22日夜から23日朝にかけて台湾を通過した後、北北東に進路を変え、25日15時に黄海で温帯低気圧となり、26日15時に朝鮮半島北部で消滅した。

(5) 台風第11号 (1411 HALONG)

7月28日03時にチューク諸島の北の海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進み、29日09時にグアム島の東の海上で台風第11号となった。台風は31日に西に進路を変えた後、8月2日21時にヤップ島の北の海上で勢力が最大となった。その後、台風は4日に北へ進路を変え、7日に南大東島の東の海上を通り、8日に北東

に進路を変え、10日06時過ぎに高知県安芸市付近に上陸した。台風は同日11時前に兵庫県姫路市付近に再上陸した後、近畿地方を北東に進み、同日午後日本海に達した。その後台風は北に進み、11日09時に同海域で温帯低気圧に変わり、12日に東に進路を変えてサハリンを通過した後、15日15時に千島付近で消滅した。

(6) 台風第12号 (1412 NAKRI)

7月28日15時にフィリピンの東の海上で発生した熱帯低気圧は、西へ進んだ後、北へ進路を変え、29日21時に同海域で台風第12号となった。台風は30日に徐々に北西に進路を変え、31日には北東に進路を変えて東シナ海に入った。台風は再び北西に進路を変え、8月1日09時に沖縄本島の北の海上で勢力が最大となった。その後、台風は2日には速度を落としながら北東に進み、3日15時に黄海で熱帯低気圧に変わり、4日15時に朝鮮半島で消滅した。

(7) 台風第14号 (1414 FENGSHEN)

9月5日21時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は、北へ進んだ後、北東へ進路を変え、7日03時に沖縄本島の東の海上で台風第14号となった。台風は北東へ進みながら、8日15時に本州の南の海上で勢力が最大となった。その後、台風は加速しながら北東へ進み、11日03時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わり、同日15時に消滅した。

(8) 台風第16号 (1416 FUNG-WONG)

9月17日09時にフィリピンの東の海上で発生した熱帯低気圧は、西へ進んだ後、徐々に北西に進路を変え、同日21時に同海域で台風第16号となった。台風は北西へ進みながら19日にルソン島北部に上陸し、同日15時にルソン海峡で勢力が最大となった。台風は、ルソン島の西の海上で反時計周りに円を描くように進んだ後、北に進んだ。その後台風は、台湾の東の沿岸に沿って進み、21日夜から22日朝にかけて東シナ海に入り、23日に中国東部に上陸した後、東に進路を変えた。台風は、24日09時にチェジュ島の西の海上で温帯低気圧に変わった後、日本海に進み、25日15時に本州付近で消滅した。

(9) 台風第17号 (1417 KAMMURI)

9月23日21時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は、北へ進んだ後、西へ進路を変え、24日21時に同海域で台風第17号となった。台風はその後北西へ進路を変え、26日21時に小笠原諸島の南東の海上で勢力が最大となった。台風は、27日に同諸島の東の海上を北に進んだ後、28日には加速しながら北東に進んだ。台風は、30日15時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった後東に進み、10月2日03時前に東経180度を越えた。

(10) 台風第18号 (1418 PHANFONE)

9月28日15時にチューク諸島の北西の海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進んだ後、29日15時にグアム島の東の海上で台風第18号となった。台風は北西へ進みながら、10月2日15時に沖ノ鳥島の東の海上で勢力が最大となった。台風はその後北西へ進みながら、4日に南大東島の東の海上を進み、5日には進路

を北東に変え加速した。台風はその後、6日08時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、同日09時半頃に静岡県沼津市付近に再上陸した後、関東地方を通り、日本の東海上で進路を東に変え、同日21時に同海域で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東に進みながら、8日09時前にアリューシャン列島の南の海上で東経180度を越えた。

(11) 台風第19号 (1419 VONGFONG)

10月2日21時にマーシャル諸島の西の海上で発生した熱帯低気圧は、北西へ進んだ後、4日03時にポンペイ島の北西の海上で台風第19号となった。台風は北西へ進みながら急速に発達し、8日03時にフィリピンの東の海上で勢力が最大となった。その後、台風は北北西に進路を変え、12日0時半頃に沖縄本島付近を通過し、東シナ海で北東に進路を変えた。台風は13日08時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸し、同日14時半頃に高知県宿毛市付近に再上陸した後、加速しながら北東に進み、同日19時半頃に淡路島付近を通過し、同日20時過ぎに大阪府泉佐野市付近に再上陸した。その後も台風は北東に進みながら、14日09時に三陸沖で温帯低気圧に変わり、16日21時前にアリューシャン列島付近で東経180度を越えた。

(12) 台風第20号 (1420 NURI)

10月30日09時にグアム島の西の海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、31日09時に同海域で台風第20号となった。台風は徐々に北北西に進路を変え、11月2日21時にフィリピンの東の海上で勢力が最大となり、北東に進路を変えた。その後、台風は加速しながら北東へ進み、7日03時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わり、同日21時に千島列島の南東の海上で消滅した。

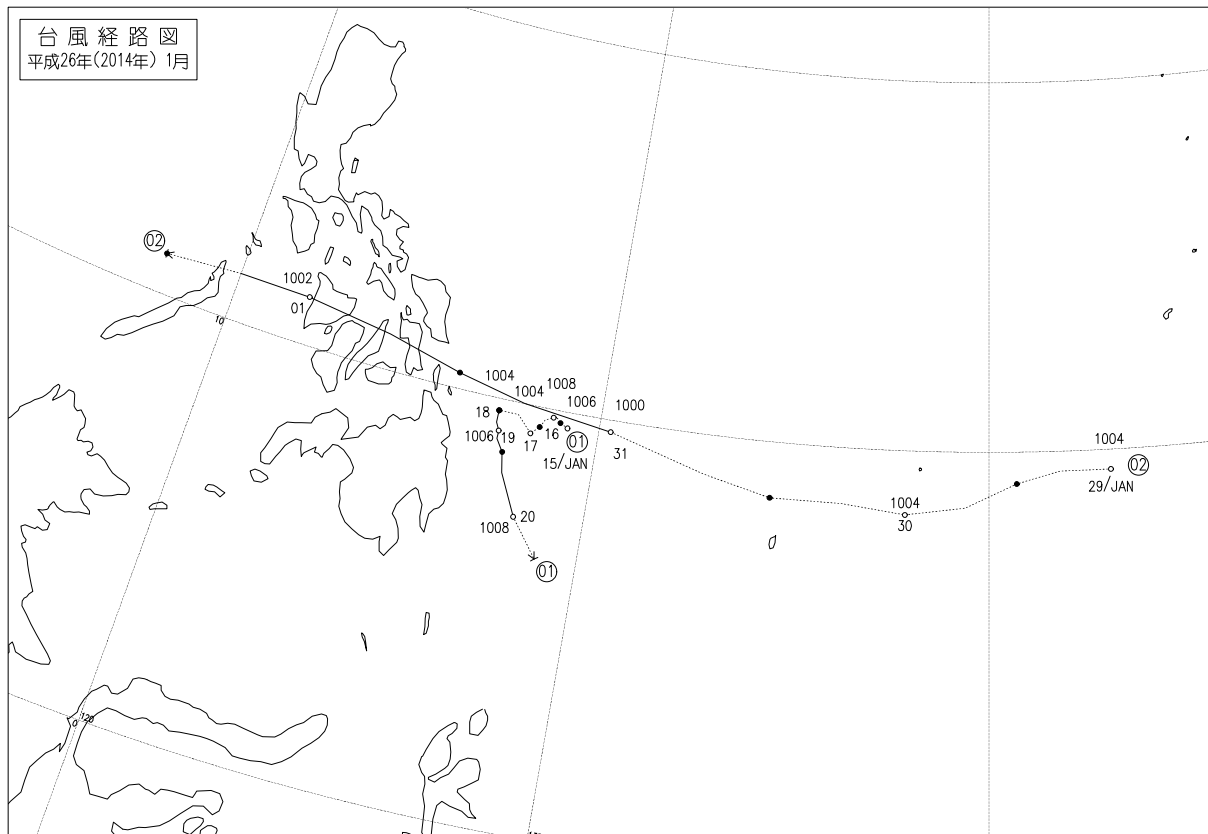
資料2-2-1 平成26年(2014年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)				日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)				上陸、通過
	月日		地域		月日		地域		
	始	終			始	終			
6	6/11	6/12	沖縄・奄美、九州南部	沖縄・奄美	6/11	6/12	沖縄・奄美	上陸または通過せず。	
7	6/17	6/17	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	沖縄・奄美、九州南部	6/17	6/17	沖縄・奄美、九州南部	上陸または通過せず。 7月10日07時前、鹿児島県阿久根市付近に上陸した。 7月10日18時前、和歌山県南部に再上陸した。 7月11日02時半頃、静岡県伊豆半島南部を通過した。 7月11日05時前、千葉県富津市付近に再上陸した。	
8	7/7	7/11	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	7/7	7/11	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	上陸または通過せず。	
10	7/22	7/24	沖縄	沖縄	7/22	7/23	沖縄	上陸または通過せず。	
11	8/6	8/11	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、北陸、北日本	8/6	8/11	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信、北陸、北日本	10日06時過ぎ、高知県安芸市付近に上陸した。 10日11時前、兵庫県姫路市付近に再上陸した。	
12	7/30	8/3	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	沖縄・奄美	7/31	8/1	沖縄・奄美	上陸または通過せず。	
14	9/7	9/9	沖縄・奄美、九州南部、四国、近畿、東海地方、関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島	沖縄・奄美、伊豆諸島・小笠原諸島	9/7	9/9	沖縄・奄美、伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。	
16	9/21	9/24	沖縄、九州北部地方	沖縄	9/21	9/22	沖縄	上陸または通過せず。	
17	9/26	9/28	伊豆諸島・小笠原諸島	伊豆諸島・小笠原諸島	9/27	9/28	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。	
18	10/3	10/6	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	10/4	10/6	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	6日08時頃、静岡県浜松市付近に上陸した。 6日09時半頃、静岡県沼津市付近に再上陸した。 12日00時半頃、沖縄本島付近を通過した。 13日08時半頃、鹿児島県枕崎市付近に上陸した。 13日14時半頃、高知県宿毛市付近に再上陸した。 13日19時半頃、兵庫県淡路島付近を通過した。 13日20時過ぎ、大阪府泉佐野市付近に再上陸した。	
19	10/10	10/14	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	10/11	10/14	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	上陸または通過せず。	
20	11/5	11/7	関東甲信、伊豆諸島・小笠原諸島	伊豆諸島・小笠原諸島	11/6	11/6	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。	

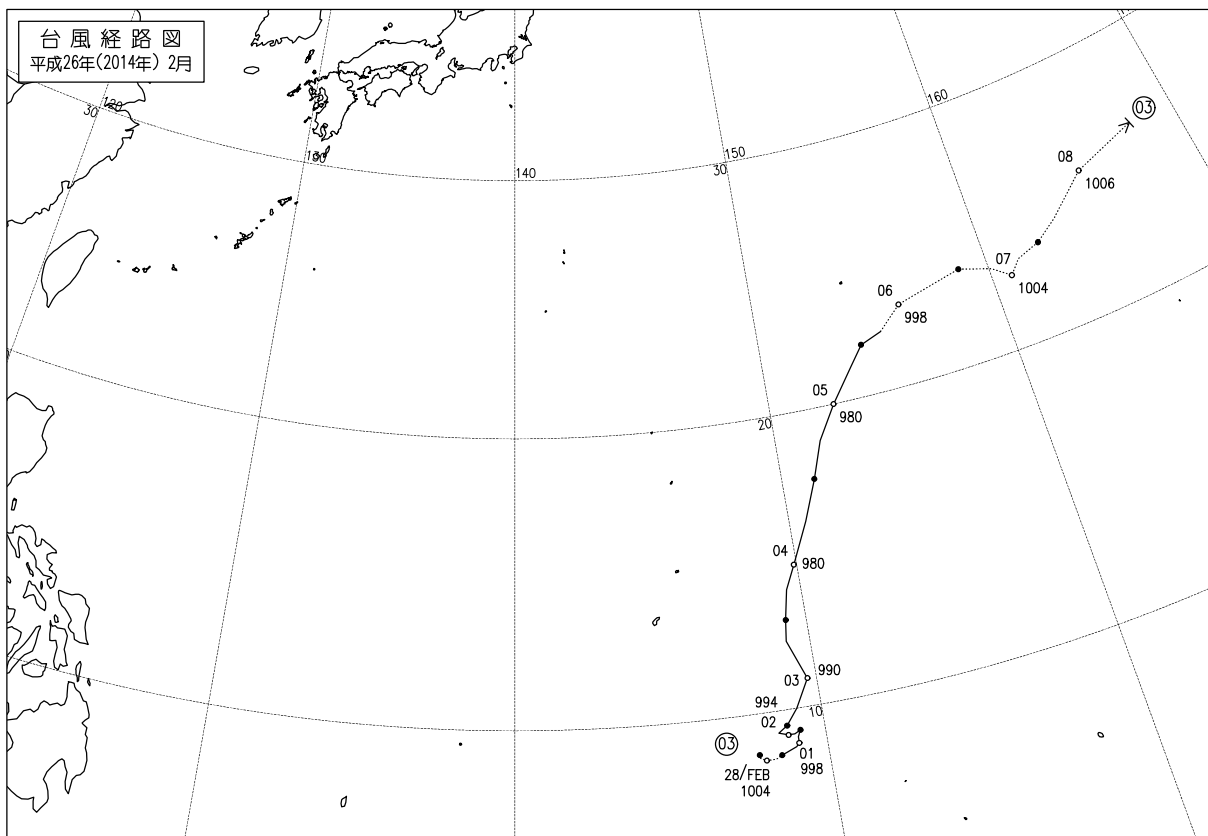
台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

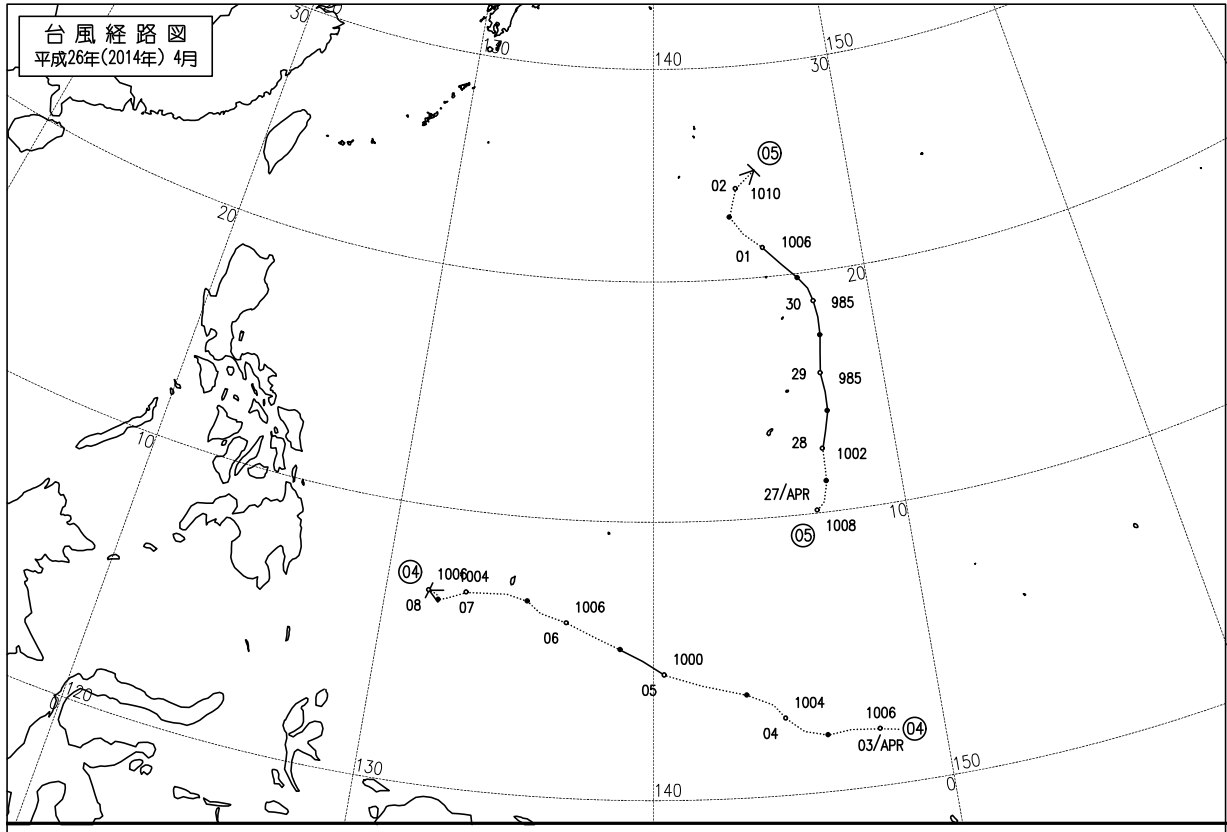
資料 2-2-2 平成 26 年(2014 年)に発生した台風の経路図



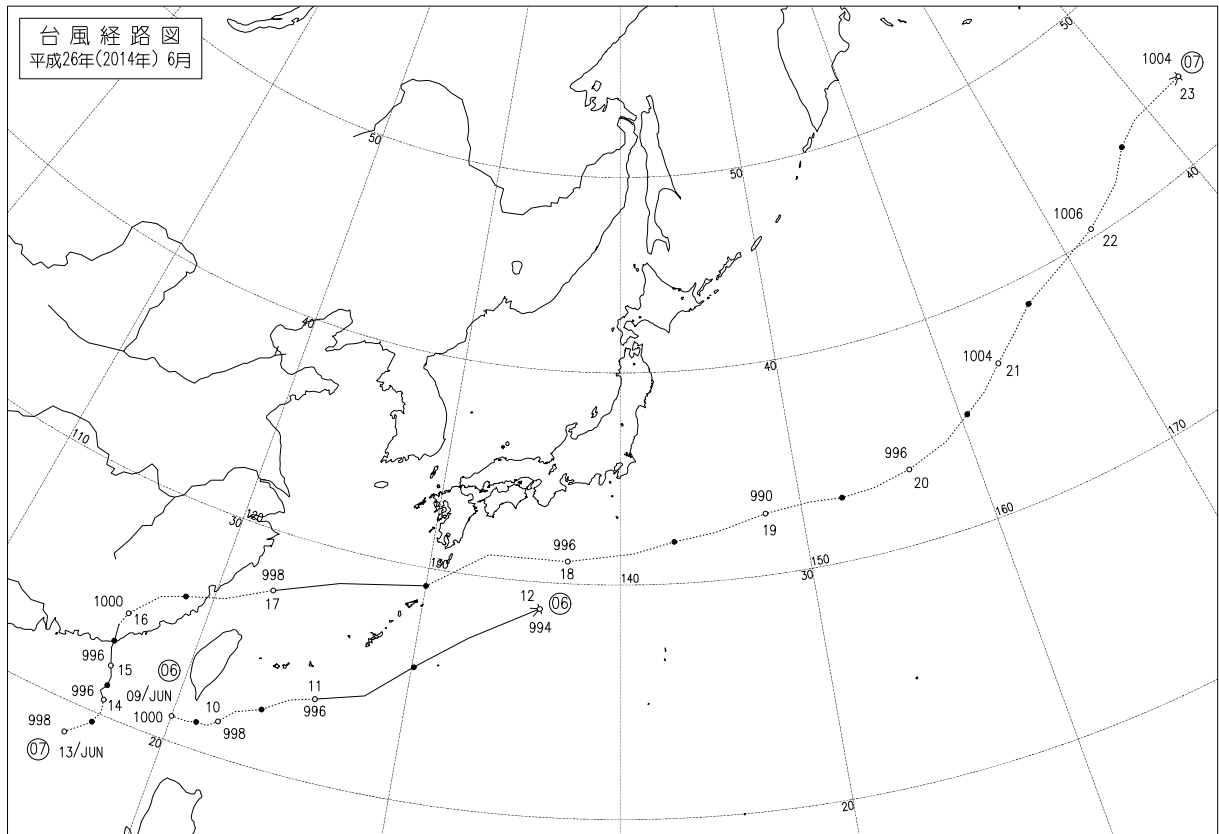
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



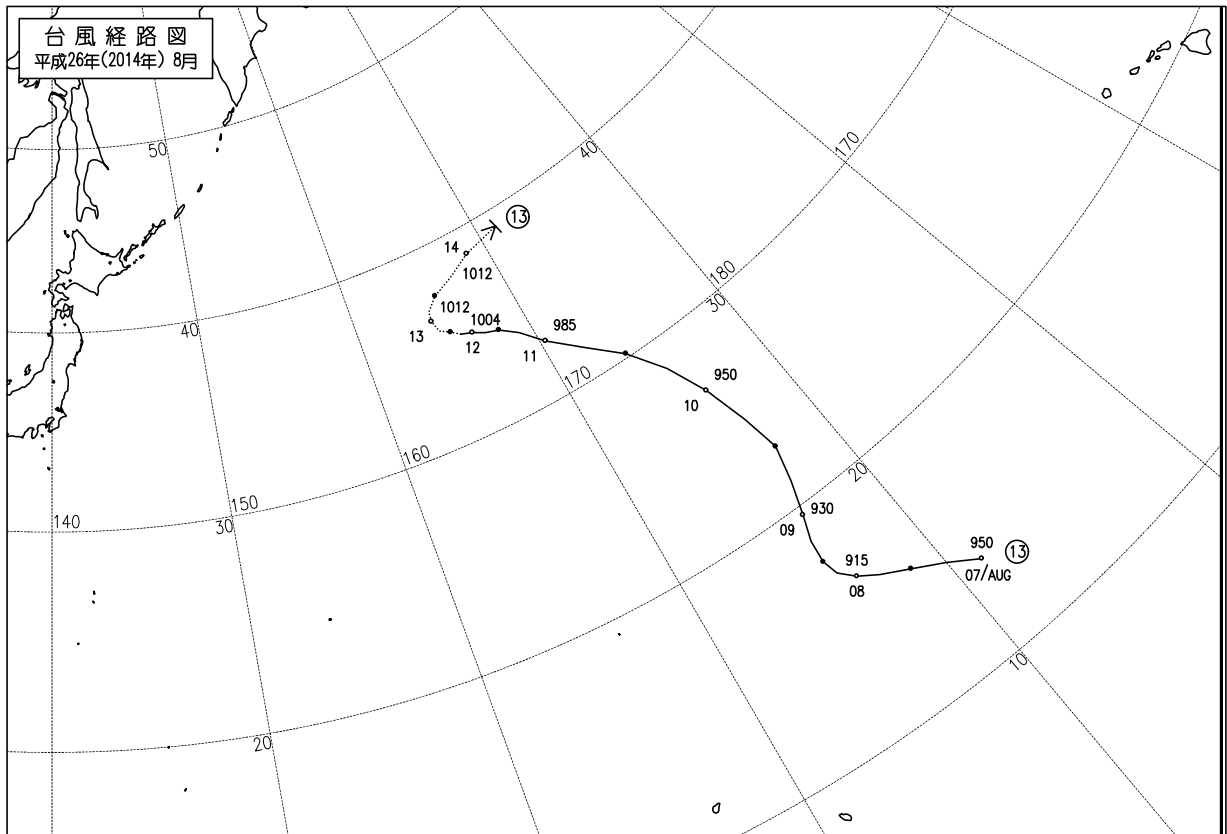
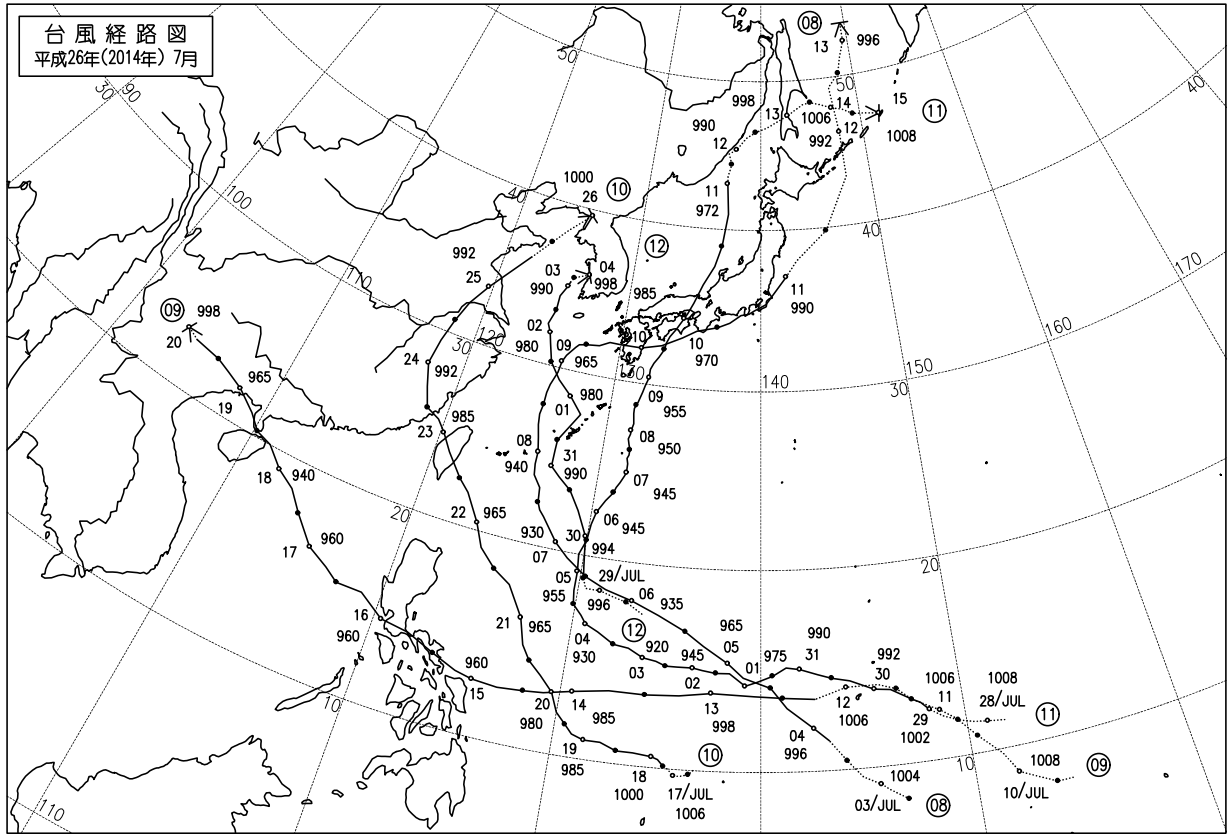
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

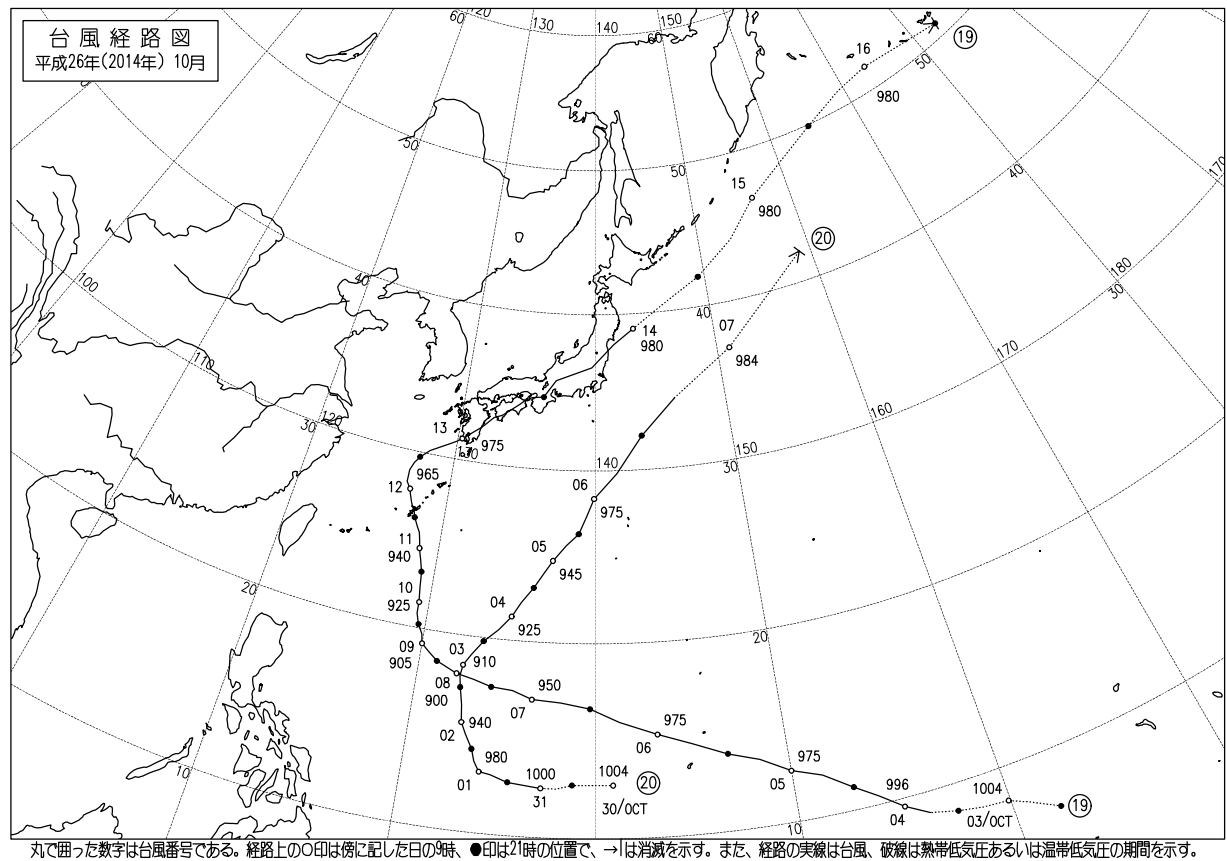
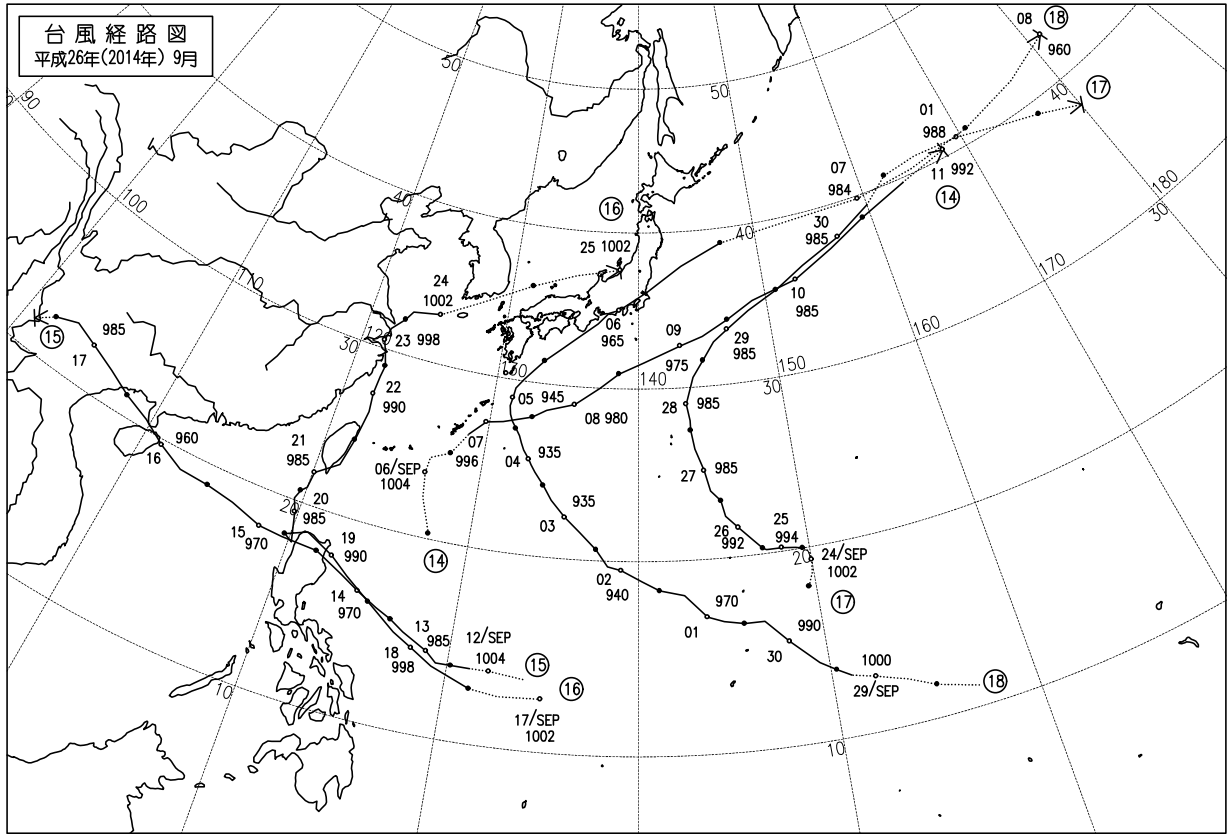


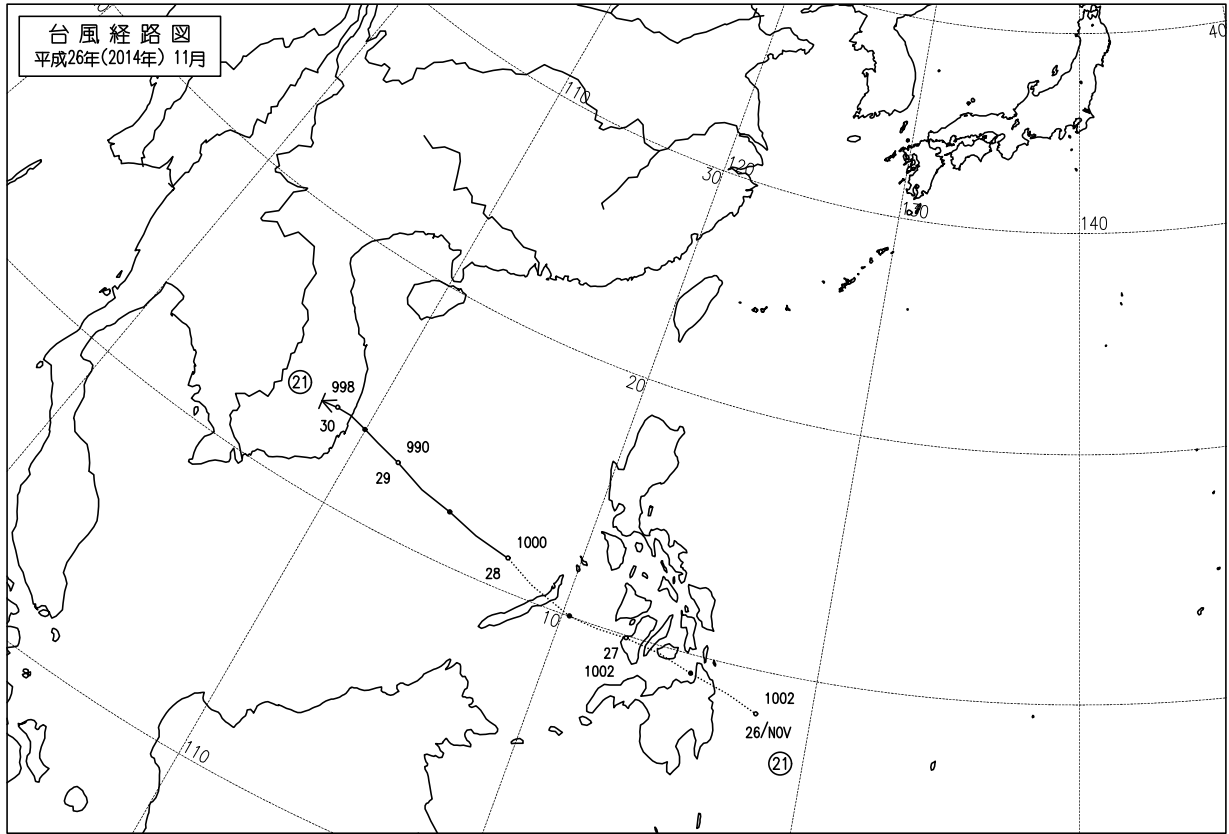
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



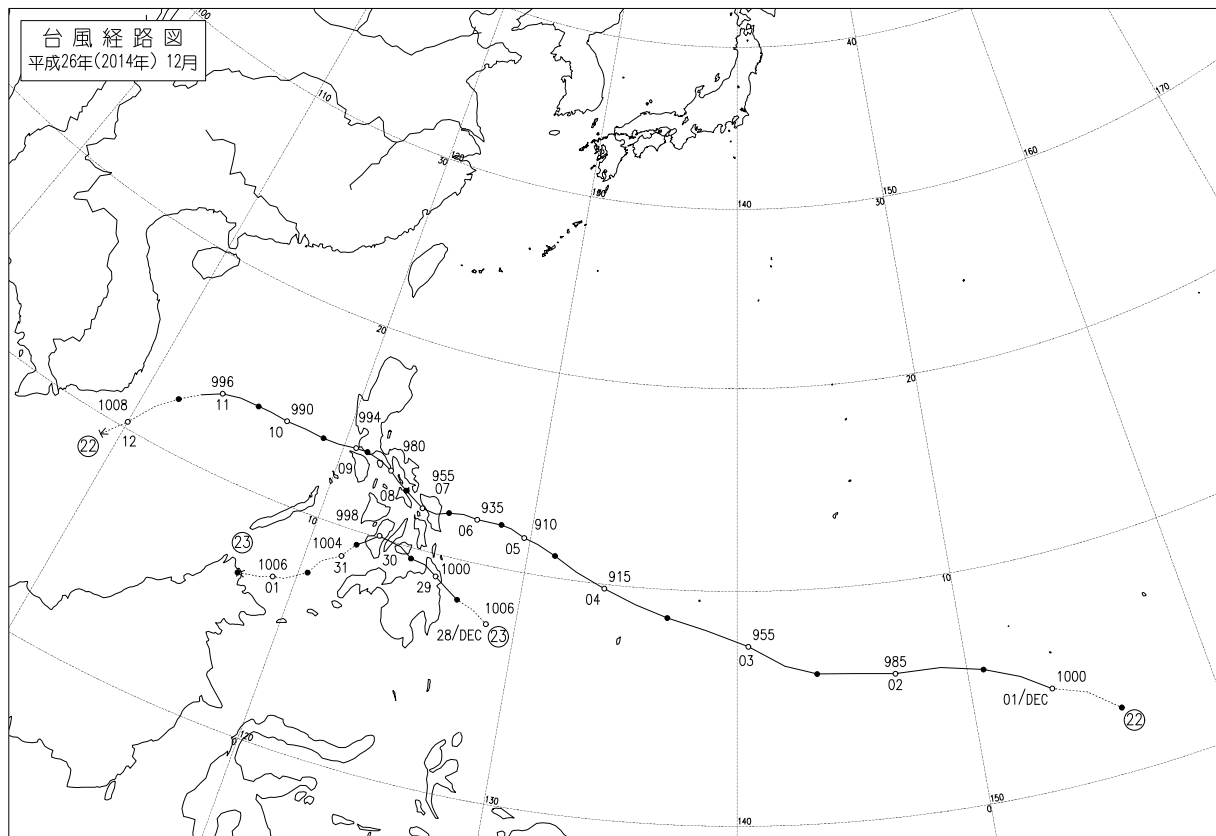
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。







丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

3 平成26年(2014年)の天気概況

1月

冬型の気圧配置となり日本海側では雪や雨、太平洋側は概ね晴れ(1日~6日)

1日は、上空に寒気を伴う低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海に進み、伴う前線が北日本を通過した。この影響で、西日本から東日本の日本海側と北日本では雨や雪が降り、北陸では雷を伴った。また、北海道や北陸の一部では暴風や強風となったところもあった。2日は、オホーツク海の低気圧は北東に進み、北日本を中心に冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となり、近畿から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴った。北陸や北日本の一部では、暴風や強風となったところもあった。九州から関東にかけての太平洋側は高気圧に覆われ概ね晴れた。3日は、日本海の低気圧が北海道付近に進み、伴う前線が日本海にのびた。この影響で、北日本で雪や雨が降った。また、東シナ海に低気圧が発生し、前線を伴って九州の南海上に進んだ。この影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。4日は、北海道付近の低気圧が千島の東海上に進み、日本の南海上の低気圧が関東の東海上に進んだ。この影響で、西日本から北日本の日本海側と沖縄・奄美を中心に雨や雪が降り、東北地方の一部では大雪となったところもあった。5日は、北日本は冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降った。また、弱い気圧の谷の影響で、九州北部から中国地方にかけて雨が降った。西日本から東日本にかけての太平洋側は概ね晴れた。6日は、はじめ冬型が続き、山陰から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降ったが、次第に高気圧に覆われた。その他の地方では概ね晴れた。

低気圧や気圧の谷の影響で全国的に雨や雪(7日~9日)

7日は、気圧の谷の影響で北日本の一部で雪が降ったところもあったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、東シナ海付近に発生した低気圧が四国付近に進み、伴う前線が関東の東海上と沖縄本島付近にのびた。また、北日本を気圧の谷が通過した。これらの影響で全国的に雨や雪が降った。9日は、低気圧が関東の東海上から千島の東海上に進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、中国地方や北陸の一部では大雪となったところもあった。

冬型の気圧配置となり日本海側を中心に雪や雨、一部で大雪(10日~13日)

10日は、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側や四国の一部では雪や雨が降り、北陸の一部では大雪となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。11日は、日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側では雪や雨となり、北陸の一部では大雪となったところもあったが、西から次第に緩んだ。その他の地方は概ね晴れた。12日は、気圧の谷が北日本を通過した影響で、山陰から北海道にかけての日本海側では雪や雨となり、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。また、弱い気圧の谷の影響で沖縄・奄美では雨となった。その他の地方は概ね晴れた。13日は、日本付近は冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側では雪や雨となり、北陸の一部では大雪となったところもあった。沖縄・奄美では寒気の影響で雨が降った。その他の地方では概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で日本海側や沖縄・奄美で雨や雪(14日~15日)

14日は、冬型は西から次第に緩んだが、山陰の一部と北陸から北海道にかけての日本海側では雪や雨となった。日本の南海上に前線がのびた影響で、沖縄・奄美では雨が降った。15日は、宗谷海峡付近に低気圧が発生した影響で、北日本日本海側では雪や雨が降った。また、日本の南海上を前線が東に進んだ影響で、東日本の太平洋側では曇りや雨となった。沖縄や西日本の日本海側では寒気の影響で雨が降り、一部で強風となったところもあった。

冬型の気圧配置や気圧の谷の影響により日本海側は雨や雪、一部では暴風や強風(16日~19日)

16日から17日にかけては、日本付近は冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側では雨や雪が降り、中国地方の一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方では概ね晴れた。18日は、寒気を伴う上空の気圧の谷の影響で、西日本と北陸から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降り、中国地方の一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方では概ね晴れた。19日は、日本付近は冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側と東日本の一部で雪や雨が降ったが、西から次第に緩んだ。

冬型の気圧配置や低気圧の影響で日本海側を中心に雨や雪（20日～23日）

20日は、黄海の低気圧が日本海に進み、本州南岸に前線がのびた。これらの影響で、西日本から東日本にかけてと北日本日本海側では雨や雪が降った。21日は、前線を伴う低気圧が、関東の東海上から東に進み、日本付近は次第に冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側と、関東甲信を中心に雪や雨が降った。22日は、日本付近は冬型となり、九州から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降った。また、上空の気圧の谷の影響で、関東では雨や雪が降った。その他の地方では概ね晴れた。23日は、はじめ冬型となり、北陸や北日本では雪や雨が降ったが、その後、日本付近は次第に西から高気圧に覆われ、西日本を中心に概ね晴れた。

低気圧の影響で全国的に雨や雪（24日～26日）

24日は、西日本から東日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。北日本は気圧の谷の影響で日本海側を中心に雪が降った。25日は、黄海の低気圧が日本海に進み、伴う前線が三陸沖と東シナ海にのびた。この影響で、西日本から東海地方、北陸にかけてと北日本では雨や雪となり、中国地方の一部では雷を伴ったところもあった。26日は、低気圧が東北地方から北海道の東海上に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。また、日本海北部に発生した低気圧が釧路沖に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、北日本では強風となったところもあった。

低気圧が相次いで北海道の北を通過し、北日本を中心に雪や雨、強風（27日～31日）

27日は、北日本では冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側では雪が降った。西日本から東日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。28日は、低気圧が日本海からオホーツク海に進み、伴う前線が本州を通過した。この影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。北海道の一部では強風となったところもあった。29日は、北日本は冬型となり、北日本日本海側では雪となって、北海道の一部では強風となったところもあったが、次第に緩んだ。西日本から東日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。30日は、沿海州の低気圧がオホーツク海に進み、伴う前線が北海道にのびた。また、本州南岸に発生した前線が北上し、対馬海峡から三陸沖にかけてのびた。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、九州や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。31日は、北海道の東海上に発生した低気圧が発達しながら北東に進み、北日本を中心に冬型となった。この影響で、東日本から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。関東から北海道にかけての一部では強風となったところもあった。西日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。

2月

冬型の気圧配置と前線や低気圧の影響で、全国的に雪や雨（1日～5日）

1日は、冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となり、北日本を中心に雪や雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあったが、その後緩んだ。また、低気圧が華北から黄海に進んだ影響で、九州から中国地方にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、気圧の谷が日本付近を通過し、沖縄・奄美から東日本にかけては雨、北日本では雪が降った。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。3日は、サハリン付近の低気圧からのびる前線が、北日本を通過した。また、関東付近で低気圧が発生し前線が本州南岸にのびた。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降ったところがあった。沖縄・奄美は前線の影響で雨となり、一部で雷を伴ったところもあった。4日は、関東の東海上の低気圧が東に進み、伴う前線が本州南岸から関東の東海上に進んだ。その後、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨となり、中国地方の一部では大雪となったところもあった。また、西日本から東日本にかけては暴風や強風となったところもあった。5日は、日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では大雪となったところもあった。西日本から東日本にかけての太平洋側は概ね晴れた。

本州南岸を通過した低気圧の影響で、全国的に雪や雨、一部で大雪や暴風（6日～9日）

6日は、北日本を中心に引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側では雪が降った。また、東シナ海に低気圧が発生し、前線が華南から日本の南海上にかけてのびた。これらの影響で、西日本では雪や雨が降った。東日本から北日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。7日は、北日本を中心に引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側では雪が降ったが、その後緩んだ。また、華南から日本の南海上に

のびる前線上に低気圧が発生し、九州の南海上を東に進んだ。この影響で沖縄・奄美から近畿にかけて雪や雨が降り、沖縄の一部では大雨となったところがあった。東日本から北日本にかけての太平洋側は概ね晴れた。8日は、本州南岸の低気圧が発達しながら北東に進み、関東の東海上に達した。この影響で西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、甲信地方の一部では大雪となったところもあった。九州や東日本では暴風や強風となったところもあった。9日は、低気圧が関東の東海上から三陸沖に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、関東甲信から北海道にかけて、九州から北陸にかけての日本海側で雪や雨が降り、関東の一部では暴風となったところもあった。また、前線が沖縄の南海上にのびた影響で、沖縄・奄美では雨が降った。

冬型の気圧配置となり日本海側を中心に雪や雨、一部で大雪。沖縄・奄美では気圧の谷の影響で雨（10日～12日）

10日は、日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、中国地方の一部では大雪となったところもあった。また、九州の南海上に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美から四国にかけて雨が降り、九州の一部では強風となったところもあった。11日は、低気圧が日本の南海上から関東の東海上へ進んだ影響で、関東では雪が降った。日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降った。沖縄・奄美では寒気の影響で雨が降った。九州と伊豆諸島の一部では暴風や強風となったところもあった。12日は、上空の寒気の影響で、山陰から北海道にかけての日本海側の一部で雪、沖縄・奄美では雨が降った。また、日本の東海上で低気圧が発達した影響で、伊豆諸島の一部では暴風や強風となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧の影響で全国的に雪や雨、東日本や北日本では大雪。一部では暴風や強風（13日～19日）

13日は、北日本を中心に冬型となり、近畿から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降った。また、沖縄本島付近に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美から四国にかけて雨や雪となり、九州の一部では強風となったところがあった。14日は、九州の南海上の低気圧が前線を伴い、本州南岸に進んだ。この影響で、九州から東北地方にかけて雪や雨となり、関東甲信では大雪や大雨となったところがあった。九州や東日本の一部では暴風や強風となったところもあった。また、北日本は引き続き冬型となり、北海道では一部で雪が降ったが、その後緩んだ。15日は、本州南岸の低気圧が三陸沖に進んだ影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸や関東甲信、東北地方の一部では大雪や大雨となった。また、各地で強風となり、関東では一部で暴風となったところもあった。16日は、低気圧が三陸沖から北海道の東海上に進んだ影響で、北陸から北日本にかけて雪や雨が降り、一部で暴風や強風となったところがあった。その他の地方では概ね晴れた。17日は、低気圧が発達しながら千島近海でほとんど停滞し、北日本を中心に冬型となった。また、東シナ海の低気圧が前線を伴い、九州の南海上に進んだ。これらの影響で、西日本と北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあった。その他の地方では概ね晴れた。18日は、千島近海の低気圧がほとんど停滞し、北日本を中心に引き続き冬型となった。この影響で、北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあった。また、本州南岸にのびる前線を低気圧が東に進んだ影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨や雪が降り、九州の一部では強風となったところもあった。19日は、北日本を中心に引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降り、北海道の一部では大雪となったところもあった。沖縄付近から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から九州にかけて雨や雪が降った。

冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪や雨（20日～23日）

20日は、北日本では引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。21日は、日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側で雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。22日から23日にかけては、北日本を中心に引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側の一部で雪や雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

冬型の気圧配置が緩み、全国的に概ね晴れ（24日～25日）

24日は、日本付近は高気圧に覆われ、全国的に概ね晴れた。25日は、上空の寒気を伴う弱い気圧の谷が通過した影響で、北陸から北海道にかけての日本海側の一部で雪や雨が降ったが、その他の地方は引き続き高気圧に覆われ概ね晴れた。

気圧の谷の影響で、全国的に雨や雪（26日～28日）

26日は、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨が降り、九州の一部では大雨となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。27日は、引き続き気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨や雪が降り、四国や東海地方の一部では大雨となったところもあった。28日は、オホーツク海の低気圧に伴う前線が北日本を通過し、関東付近から日本の東海上に前線がのびた。これらの影響で、近畿から北海道にかけて雨や雪が降った。西日本の太平洋側は概ね晴れた。

3月

低気圧が相次いで通過した影響で全国的に雨や雪（1日～5日）

1日は、前線が華南から日本の東海上にのび、前線上の東シナ海と関東の東海上にそれぞれ低気圧が発生した。これらの影響で、沖縄から東日本にかけて雨や雪が降った。また、寒気の影響で、北海道の一部では雪が降った。2日は、低気圧が九州の南海上から関東の東海上に進み、伴う前線が沖縄・奄美を通過した。この影響で、沖縄・奄美から東北部にかけて雨や雪が降った。また、寒気の影響で、北海道の一部では雪が降った。3日は、はじめ関東の東海上の低気圧の影響で、関東から東北地方にかけての太平洋側では雨や雪が降った。その後、冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となり、山陰から北海道にかけて雪や雨が降った。4日は、東シナ海で発生した低気圧が、前線を伴い九州の南海上に進んだ。また、ボツ海の低気圧が日本海に進み、伴う前線が東北地方にのびた。これらと湿った空気の影響で、沖縄・奄美から関東にかけての太平洋側と北海道日本海側を中心に雨や雪が降った。5日は、九州の南海上の低気圧が関東の東海上に進んだ。また、日本海の低気圧が三陸沖に進んだ。これらの影響で、全国的に雨や雪が降り、東海地方の一部では大雨となったところがあった。九州や北陸の一部では強風となったところもあった。

冬型の気圧配置となり日本海側を中心に雪や雨、太平洋側は概ね晴れ（6日～8日）

6日は、三陸沖と釧路沖の低気圧がひとつとなり、発達しながらオホーツク海に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北日本の一部では強風となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。7日は、引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側では雪や雨が降り、北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。8日は、西から冬型が緩み、北日本を中心に引き続き冬型となった。この影響で、近畿から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道の一部では強風となったが、西から緩んだ。また、東シナ海で前線を伴う低気圧が発生し、沖縄本島付近に進んだ影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

冬型の気圧配置となり、日本海側では雪や雨（9日～11日）

9日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降った。また、低気圧と伴う前線が通過した影響で、沖縄・奄美から九州南部地方にかけて雨が降り、伊豆諸島や小笠原諸島では強風となった。10日は、はじめ気圧の谷の影響で北海道では雪が降ったが、その後、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、関東の一部では大雪となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。11日は、北日本を中心に冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、太平洋側では大雨や強風（12日～14日）

12日は、低気圧が朝鮮半島から日本海に進んだ影響で、北日本を中心に雪や雨が降った。また、黄海の低気圧が前線を伴って九州の西海上に進み、さらに、華南から沖縄本島付近にかけて前線がのびた。これらの影響で、沖縄・奄美から近畿にかけての太平洋側を中心に雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。13日は、低気圧が九州から東北地方に進み、伴う前線が本州から沖縄の南海上にかけてのびた。この影響で全国的に雨や雪が降り、九州から関東にかけての太平洋側を中心に大雨となったところがあった。沖縄・奄美から関東にかけては強風となったところがあり、東海地方の一部では暴風となったところもあった。14日は、三陸沖の低気圧が発達しながら千島近海へ進んだ。この影響で、東日本から北日本の太平洋側では雨や雪が降った。その後、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。

北日本は低気圧の影響で雨や雪、西日本は晴れ（15日～17日）

15日は、引き続き冬型となり、北陸から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降ったが、その後緩んだ。その他の地方は次第に高気圧に覆われ概ね晴れた。16日は、日本海の低気圧が前線を伴い北海道の東海上に進んだ。この影響で、北陸から北海道にかけて雨や雪が降り、東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。伊豆諸島では強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。17日は、上空の寒気の影響で北日本の一部で雪が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、一部では大雪や暴風、強風（18日～21日）

18日は、日本海の低気圧が北海道の東海上に進み、伴う前線が本州付近を通過した。この影響で、九州から北海道にかけて雨や雪が降り、東北地方の一部では強風、関東の一部では暴風となったところがあった。19日は、華中から九州の南海上に前線がのび、前線上の東シナ海に低気圧が発生した。この影響で、西日本の太平洋側を中心に雨が降った。また、北海道の東海上の低気圧の影響で、北海道の一部では雪が降り、強風となったところがあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。20日は、九州の南海上の低気圧が関東の東海上に進んだ。この影響で、全国的に雨や雪が降り、九州の一部では雷を伴ったところもあった。東北地方の一部では強風となったところもあった。21日は、三陸沖の低気圧が発達しながら北海道の東海上に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、九州から北海道にかけて雨や雪が降り、甲信地方や北海道の一部では大雪となったところがあった。中国地方の一部では雷を伴ったところがあり、北海道の一部では強風となったところもあった。

北日本ははじめ冬型の気圧配置となり雪や雨が降ったが、その後は概ね晴れ（22日～25日）

22日は、北日本を中心に冬型となり、北陸から北海道にかけて雪や雨が降ったが、次第に緩んだ。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。23日は、寒気を伴う上空の気圧の谷の影響で、北陸から北海道にかけて雪や雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、日本付近は高気圧に覆われ、全国的に概ね晴れた。25日は、華北で発生した低気圧が黄海に進んだ。この低気圧と湿った空気の影響で西日本では雨が降ったが、その他の地方は概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、東日本は一部で大雨（26日～31日）

26日は、前線が華中から本州付近にのび、黄海の低気圧が日本海に進んだ。これらの影響で、九州から東北地方にかけて雨が降った。27日は、関東の東海上の低気圧が日本の東に進んだ。また、上空の気圧の谷が本州付近を通過した。これらの影響で、西日本から東北地方にかけて雨や雪が降った。沖縄は気圧の谷の影響で、雷を伴い大雨となったところがあった。28日は、気圧の谷の影響で北海道では雨が降り、一部で強風となったところがあったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。29日は、華中の低気圧が対馬海峡に進み、伴う前線が近畿地方にのびた。また、前線が華南から九州の南海上にかけてのびた。これらの影響で沖縄・奄美から東海地方にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴ったところもあった。30日は、山陰沖の低気圧が三陸沖に進み、伴う前線が本州付近を通過した。また、前線が沖縄・奄美を通過した。これらの影響で全国的に雨や雪が降り、西日本から東日本にかけては一部で大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。また、東日本から北日本にかけての一部では強風となったところがあった。31日は、三陸沖の低気圧が発達しながら日本の東海上に進んだ影響で、北陸から北日本にかけて雨や雪が降り、東海地方や東北地方では一部で強風となったところがあった。また、前線が華南から沖縄の南海上にのびた影響で、沖縄の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

4月

発達した低気圧が通過した影響で全国的に雨や雪、強風（1日～6日）

1日は、南シナ海から日本の南海上にのびる前線上に低気圧が発生し、沖縄の南海上に進んだ。この影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、上空の寒気の影響で、北海道の一部で雪が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、湿った空気の影響で、東日本太平洋側の一部で雨が降ったが、その他の地方は概ね晴れた。3日は、日本海の低気圧が前線を伴い、宗谷海峡付近に進んで消滅した。また、東シナ海と東海沖に低気圧が発生した。これらと湿った空気の影響で、全国的に雨が降り、伊豆諸島の一部では大雨となったところがあった。また、九州の一部では雷を伴ったところもあった。4日は、関東付近の低気圧が前線を伴い、発達しながら釧路沖へ進んだ。また、日本海西部の低気圧が日本海中部に進み、消滅した。これらと上空の寒

気の影響で、西日本から北日本にかけて雷を伴って雨や雪が降り、北日本の一部では大雨や大雪となったところがあった。九州や北海道では一部で強風となったところもあった。5日は、低気圧がオホーツク海を北上し、北日本を中心に冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった。また、黄海の低気圧が本州南岸に進んだ。これらの影響で、全国的に雨や雪が降り、北海道の一部では強風となったところもあった。6日は、関東の東海上の低気圧が前線を伴って北海道の東海上に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪となり、中国地方や関東の一部では雷を伴ったところもあった。

沖縄・奄美や北日本の一部で雨や雪が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れ(7日~9日)

7日は、引き続き冬型の影響で、北日本の一部では雪や雨が降ったが、その後冬型は緩んだ。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れた。9日は、九州の南海上に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。また、沿海州からオホーツク海に進んだ低気圧の影響で、北海道の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で、北日本や西日本で雨や雪が降った期間があったが、その他は概ね晴れ(10日~16日)

10日は、日本海の低気圧が前線を伴い、千島近海に進んだ。この影響で、北陸から北海道にかけて雨や雪が降った。関東や東北地方の一部では強風となったところもあった。西日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。11日は、上空の寒気を伴う低気圧の影響で、北日本では雪や雨となり、東北地方の一部では強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。12日は、華中からのびる前線が、九州の南海上に達した。この影響で、九州では雨が降った。また、千島近海の低気圧は、千島の東海上へ進んだ。この影響で、北海道の一部では雪が降り、強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。13日は、前線上の東シナ海に低気圧が発生し、九州の南海上に進んだ。この低気圧と湿った空気の影響で、沖縄から近畿にかけてと伊豆諸島で雨が降り、九州南部の一部では大雨となったところもあった。東日本から北日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。14日は、低気圧が本州南岸から日本の東海上に進んだ。この影響で、西日本から東日本の太平洋側で雨が降った。その他の地方は引き続き高気圧に覆われ概ね晴れた。15日は、沿海州の上空に寒気を伴う低気圧がオホーツク海に進み、伴う前線が北海道を通過して日本海にのびた。この影響で、北日本の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。16日は、気圧の谷が千島近海を通過し、北海道の一部で雨が降ったほかは、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で西日本から東日本にかけて雨、北日本は概ね晴れ(17日~22日)

17日は、華中から東シナ海に前線がのび、その前線上の東シナ海に低気圧が発生し、九州の西海上に進んだ。この影響で西日本では雨が降った。東日本から北日本にかけては概ね晴れた。18日は、九州付近の低気圧が東海沖に進み、伴う前線が九州の南海上から日本の東海上へのびた。この影響で、西日本から東日本にかけて雨が降った。また、上空に寒気を伴う低気圧の影響で北海道の一部では雨が降った。19日は、関東の南海上の低気圧は、日本の東海上に進み消滅した。また、華中から九州の南海上にかけて前線がのびた。これらの影響で、九州と関東では雨が降った。また、上空の寒気の影響で北海道の一部では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。20日は、華中から日本の南海上に前線がのび、前線上の九州の南海上で低気圧が発生した。この低気圧と湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、九州南部では一部で大雨となったところもあった。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。21日は、九州の南海上の低気圧が本州南岸に進み、伴う前線が沖縄・奄美を通過した。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降った。22日は、関東の南海上の低気圧が日本の東海上に進み、伴う前線が先島諸島にかけてのびた。この影響で、沖縄から九州南部にかけてと関東を中心に雨が降った。また、上空の寒気の影響で、北陸から東北では雨が降った。

沖縄・奄美は前線の影響で雨、西日本から北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ(23日~27日)

23日は、沖縄の南海上にのびる前線の影響で沖縄では雨が降った。また、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、関東の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、沖縄では湿った空気の影響で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。25日は、華南から先島諸島付近にのびる前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。上空の寒気と湿った空気の影響で、西~東日本の一部で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。26日は、華中から東シナ海にのびる前線の影響で、沖縄の一部では雨が降った。上空の寒気と湿った空気の影響で西日本の一部で雨が降ったが、そ

の他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。27日は、華南から東シナ海にのびる前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、太平洋側では大雨（28日～30日）

28日は、東シナ海にのびる前線上に低気圧が発生し、九州付近に進んだ。また、黄海の低気圧が対馬海峡に進んだ。これらの影響で、沖縄から東海地方にかけて雨が降った。29日は、前線が九州の南海上から本州南岸へ進んだ。また、対馬海峡の低気圧がほとんど停滞した。これらの影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、太平洋側の一部では大雨となったところもあった。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。30日は、前線が本州南岸を東へ進んだ。また、対馬海峡の低気圧が日本海に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、東海地方や甲信地方の一部では大雨となったところもあった。

5月

北日本は気圧の谷や低気圧の影響で雨、その他の地方は概ね晴れ（1日～3日）

1日は、前線が東日本から関東の東海上に進んだ。この前線と上空に寒気を伴う気圧の谷が通過した影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、関東や東北地方の一部では雷を伴った。2日は、気圧の谷の影響で、北日本の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。3日は、上空に寒気を伴う低気圧が沿海州にほとんど停滞し、伴う前線が西日本と北日本にのびた。この影響で、北日本を中心に雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、沖縄では大雨（4日～6日）

4日は、華南から先島諸島付近に前線がのびた影響で、沖縄の一部では雨が降った。また、気圧の谷の影響で北日本の一部では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。5日は、華南から日本の南海上に前線がのび、前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生して九州の南海上へ進んだ。また、日本海にのびる前線が、東日本から北日本に達した。これらの影響で、全国的に雨が降り、沖縄の一部では大雨となったところもあった。6日は、北日本から東日本にかけてのびる前線が網走沖から関東の東海上に進み、消滅した。この影響で、東日本から北日本にかけて雨が降った。また、沖縄の南海上に前線がのびた影響で、沖縄の一部では雨が降った。

前線の影響で沖縄・奄美で大雨、北日本は気圧の谷の影響で雨（7日～11日）

7日は、南シナ海から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄では雨が降った。また、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、北海道の一部では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、南シナ海から日本の南海上に前線がのび、前線上の低気圧が沖縄本島付近から日本の南海上に進んだ。この影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、日本海の上空に寒気を伴う低気圧の影響で中国地方から東北地方にかけての日本海側を中心に雨が降り、中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。9日は、日本海の低気圧と三陸沖に発生した低気圧の影響で、近畿から北海道にかけて雨が降り、関東の一部では雷を伴ったところや強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。10日は、華南から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄では雨が降り、一部では雷を伴い大雨となったところもあった。また、三陸沖から日本の東海上に進んだ低気圧の影響で北日本の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。11日は、上空に寒気を伴う低気圧が前線を伴い、華中から中国東北区に進んだ。また、華南から東シナ海に前線がのびた。これらと湿った空気の影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で西日本で大雨、北日本を中心に暴風や強風（12日～17日）

12日は、華南から西日本に前線がのび、この前線上の四国付近に低気圧が発生した。また、中国東北区の低気圧が北に進み、伴う前線が西日本と北日本に達した。この影響で、沖縄から東日本にかけてを中心に雨が降り、西日本では大雨となったところもあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。13日は、低気圧が近畿付近から三陸沖に進み、伴う前線が日本の南海上を通過して沖縄本島付近にのびた。また沿海州の低気圧はほとんど停滞した。これらの影響で、近畿から北日本にかけてと、沖縄・奄美では雨が降った。その他の地方では概ね晴れた。14日は、前線が華中から本州南岸にのび、この前線上の東シナ海に低気圧が発生し、四国沖に進んだ。この影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降った。また、気圧の谷の影響で、北海道では雨が

降り、一部で雷を伴ったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。15日は、低気圧が本州南岸から三陸沖に進み、伴う前線が日本の南海上を通過して華南にのびた。また、上空に寒気を伴う低気圧が日本海でほとんど停滞した。これらの影響で、全国的に雨が降った。16日は、北海道の東海上の低気圧が発達しながら千島近海に進み、伴う前線が日本の南海上を通過して華南にのびた。また、日本海の低気圧は津軽海峡付近に進んで消滅した。これらの影響で、北日本と東日本の一部で雨が降り、関東や東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。関東から北海道にかけては一部で強風となったところもあった。西日本から東海地方にかけては概ね晴れた。17日は、千島近海の低気圧がほとんど停滞した。この低気圧と上空の寒気の影響で、北日本を中心に雨が降り、北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で、全国的に雨、西日本から東日本の一部で暴風や強風（18日～22日）

18日は、千島近海の低気圧は、ゆっくり北東に進んだ。この低気圧と上空の寒気の影響で、北日本の一部では雨が降った。また、華中から日本の南海上にかけて前線がのび、前線上の低気圧が、華中から沖縄本島付近に進んだ。この影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降り、一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方では高気圧に覆われ概ね晴れた。19日は、華中から日本の南海上にかけて、前線が停滞した。この影響で、沖縄から九州にかけて雨が降り、沖縄の一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。20日は、華中から本州南岸にかけて前線がのび、その前線上の九州付近に低気圧が発生し、四国付近に進んだ。この影響で、沖縄から関東にかけて雨が降り、九州や四国の一部では大雨となったところもあった。四国の一部では雷を伴ったところもあった。21日は、本州南岸の低気圧が関東の東海上に進んだ。この影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところもあった。近畿の一部では雷を伴ったところもあった。また、関東の一部では暴風、九州や東海地方の一部では強風となったところもあった。22日は、三陸沖の低気圧が発達しながら日本の東海上に進み、伴う前線が先島諸島付近を通り華南にのびた。この影響で、沖縄・奄美と東日本から東北地方にかけてを中心に雨が降った。また、上空の寒気の影響で、四国や関東の一部では雷雨となったところがあった。

沖縄は前線の影響で雨、本州付近は高気圧に覆われ概ね晴れ（23日～25日）

23日は、華南から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄では雨が降り、一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。本州日本海側と東海地方の一部ははじめ寒気の影響で雨が降ったが、次第に高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で北海道の一部で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。25日は、華中から九州の南海上に前線がのび、黄海に低気圧が発生した。この影響で、九州北部地方では雨が降った。また、引き続き気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ晴れた。

前線の影響で全国的に雨、西日本の一部で大雨（26日～27日）

26日は、日本海の低気圧が北東に進み、伴う前線が西日本と北日本にのびた。また、華中から本州南岸に前線がのび、前線上の四国沖に低気圧が発生した。これらの影響で全国的に雨が降り、九州南部や四国の一部では大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところがあり、北海道の一部では強風となったところもあった。27日は、本州南岸の低気圧が三陸沖に進み、伴う前線が沖縄本島付近を通り華南にのびた。また、沿海州の低気圧からのびる前線が北日本に達し、消滅した。これらの影響で、沖縄・奄美と東日本から北日本にかけて雨が降った。

本州付近は概ね晴れたが、上空の寒気の影響で一部で雷雨（28日～31日）

28日は、三陸沖の低気圧から先島諸島にかけてのびる前線の影響で、沖縄では雨が降り、一部で雷を伴ったところもあった。本州付近は概ね晴れたが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、東日本から北日本の一部で雨が降り、関東の一部では雷を伴ったところもあった。29日は、全国的に概ね晴れたが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、東日本から北日本の一部で雷雨となったところがあった。30日は、上空の寒気の影響で北海道の一部で雷雨となったところがあったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。31日は、華南から日本の南海上にかけてのびる前線の影響で、沖縄では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れたが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、北海道や関東の一部で雨が降り、関東の一部では雷を伴ったところもあった。

6月

前線と低気圧の影響で全国的に雨が降り、太平洋側を中心に大雨（1日～8日）

1日は、日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄や小笠原諸島で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、低気圧が華北から黄海に進み、伴う前線が九州の南海上にのびた。この影響で、沖縄から九州にかけて雨が降り、奄美地方では大雨となったところもあった。九州の一部では暴風や強風となったところがあった。東日本から北日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。3日は、華南から日本の南海上に前線がのび、前線上の九州の南海上で低気圧が発生した。これらと黄海の低気圧の影響で、沖縄から四国にかけて雨が降り、九州南部・奄美地方では大雨となったところや雷を伴ったところがあった。東日本から北日本にかけては引き続き高気圧に覆われ概ね晴れた。4日は、九州付近や四国沖の低気圧と、本州南岸と沖縄の南海上にのびる前線の影響で、沖縄から近畿にかけて雨が降り、九州や四国では大雨となったところもあった。また、九州の一部では雷を伴ったところがあり、強風となったところもあった。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。5日は、引き続き、九州付近や四国沖の低気圧と本州南岸を東に進む前線の影響で、西日本や東日本を中心に雨が降り、四国から東海地方にかけての太平洋側では大雨となったところがあった。東海地方の一部では、雷を伴ったところや強風となったところもあった。北日本は引き続き高気圧に覆われ概ね晴れた。6日は、四国沖の低気圧はほとんど停滞し、前線が東海沖をゆっくり東に進んだ。これらの影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、四国や東海地方、関東甲信では大雨となったところがあった。近畿や東海地方の一部では雷を伴ったところもあった。また、華南から沖縄の南海上にのびた前線や、沖縄の南海上に発生した低気圧の影響で、沖縄では雨が降った。7日は、四国沖の低気圧は引き続きほとんど停滞し、関東の東海上の前線上に低気圧が発生しほとんど停滞した。これらの影響で、九州から東北地方を中心に雨が降り、東海地方や関東の一部では大雨となったところがあった。8日は、関東付近と四国沖の低気圧や日本海に発生した低気圧、また、暖かく湿った空気の影響で、九州から北海道にかけて雨が降り、関東から北海道にかけての一部では大雨となったところもあった。華南から沖縄付近にのびる前線の影響で、沖縄では雨が降った。

低気圧と上空の寒気の影響で全国的に雨が降り、沖縄から九州にかけてと北日本で大雨（9日～13日）

9日は、華南から沖縄付近にのびる前線を伴った低気圧と、台湾の南の海上で発生した熱帯低気圧の影響で、沖縄では雨が降り、大雨となったところがあった。また、暖かく湿った空気と上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、東日本では雷を伴ったところがあった。関東や北海道の一部では大雨となったところもあった。10日は、台湾付近から九州の南海上に前線がのび、熱帯低気圧は沖縄の南海上を北東に進んだ。これらと、暖かく湿った空気や上空の気圧の谷の影響で、全国的に雨が降り、九州南部・奄美地方では大雨となったところもあった。中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。11日は、台湾付近から九州の南海上にのびる前線上に低気圧が発生し、東海沖に進んだ。また、午前9時に台湾の南の海上で台風第6号が発生して北東に進み、日本の南海上に達した。これらと暖かく湿った空気や上空の気圧の谷の影響で全国的に雨が降り、沖縄・奄美や東海地方の一部では大雨となったところもあった。12日は、低気圧が関東付近を北に進み、伴う前線が日本の南海上にのびた。また、台風第6号は午前9時に日本の南海上で温帯低気圧に変わった。これらと上空の気圧の谷の影響で、全国的に雨が降り、北日本の一部では大雨となったところもあった。また、四国から東北地方にかけては、一部で雷を伴ったところもあった。13日は、低気圧が三陸沖から北海道付近に進み、伴う前線が日本の南海上を通過して先島諸島付近にのびた。これらと上空の気圧の谷の影響で、沖縄と中国地方から北日本にかけて雨が降り、北日本の一部では大雨となったところもあった。関東から北海道にかけては雷を伴ったところもあった。また、北海道の一部では強風となったところもあった。

沖縄から西日本にかけては前線の影響、北日本は気圧の谷の影響で雨（14日～19日）

14日から15日にかけては、東シナ海から日本の南海上にのびた前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、大雨となったところもあった。また、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけて雨が降った。16日は、華中から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、一部では大雨となったところもあった。また、気圧の谷の影響で、関東から北日本にかけて雨が降り、関東や東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。17日は、引き続き華中から日本の南海上に前線がのび、前線上の東シナ海で低気圧が発生して九州の西海上に進んだ。また、東シナ海の熱帯低気圧が午前9時に再び台風第7号となって東に進み、午後9時に九州の南海上で熱帯低気圧となった。これらの影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降り、九州南部の一部では大雨となったところがあった。東日本から北日本にかけては、上空の寒気の影響で雨が降り、関東の一部では雷を伴ったところがあった。18日は、華中からのびる前線上の低気圧が本州南岸を東に進んだ。この影響で、沖縄から東日本にかけて雨が降った。また、北日本では上空の寒気の影響で雨が降り、東北地方の

一部では雷を伴ったところがあった。19日は、華中から日本の南海上にのびる前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、一部では雷を伴ったところもあった。また、上空の気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけての所々で雨が降った。

前線や気圧の谷の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨、九州では大雨（20日～27日）

20日は、前線が華中から九州の南海上にかけてのびた影響で、沖縄から九州にかけて雨が降り、奄美地方では大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。また、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降った。21日は、前線が北上して華中から九州付近を通って本州南岸にのび、この前線上の東シナ海に低気圧が発生した。これらの影響で、西日本では雨が降り、九州南部では大雨となったところがあった。また、上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雷雨となった。22日は、本州南岸に停滞した前線を低気圧が東に進んだ。この影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、九州や関東の一部では大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。また、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、北海道で雨が降った。23日は、前線が南下して華南から日本の南海上にかけてのび、前線上に発生した低気圧が、東シナ海から九州の南海上に進んだ。これらの影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降り、奄美地方の一部では大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。24日は、前線が華南から沖縄本島付近を通って日本の南海上に停滞した影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけての所々で雷雨となった。25日は、引き続き前線が華南から九州の南海上を通って日本の南海上に停滞した影響で、沖縄・奄美では雨が降り、雷を伴ったところもあった。また、暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、東日本を中心に雷雨となった。26日は、前線が北上し、華中から九州の南海上を通って日本の南海上にのびた。この影響で、奄美地方から近畿にかけて雨が降り、九州南部の一部では大雨となったところがあった。27日は、前線が北上し、華中から九州付近を通って本州南岸にのび、前線上に発生した低気圧が九州を通して四国沖に進んだ。この影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、九州の一部では大雨となったところもあった。

低気圧と前線、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美と東日本から北日本にかけて雨（28日～30日）

28日は、前線が華中から本州南岸にかけてのび、前線上の低気圧が四国沖から関東の東海上に進んだ。これらと、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところがあった。29日は、関東の東海上の低気圧が三陸沖に進み、伴う前線が九州の南海上を通り華中にのびた。これらと気圧の谷の影響で、近畿から東北地方にかけてと沖縄・奄美では雨が降り、東北地方の一部では大雨となったところがあった。関東甲信や東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。30日は、三陸沖の低気圧が北海道の東海上に進み、伴う前線が九州の南海上を通り、華中にのびた。これらと上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり、東日本から北日本にかけてと沖縄・奄美では雨が降り、関東の一部では雷を伴い大雨となったところもあった。

7月

前線と低気圧の影響で全国的に雨が降り、西日本では大雨（1日～5日）

1日は、前線が華中から日本の南海上にのびた。この影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、東日本を中心に雨が降り、関東の一部では雷を伴ったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。2日は、華中から日本の南海上にのびる前線が九州付近に北上し、前線上に低気圧が発生して東シナ海に進んだ。これらの影響で、西日本では雨が降った。また、暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、関東甲信を中心に雨が降り関東の一部では雷を伴ったところもあった。3日は、東シナ海の低気圧が対馬海峡に進み、伴う前線が九州と関東の東海上にのびた。これらの影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、西日本では大雨となった。九州では雷を伴ったところもあった。4日は、低気圧が本州南岸から関東の東海上に進み、伴う前線が本州南岸を通って華中にのびた。これらと日本海の低気圧の影響で、九州から東北南部にかけて雨が降った。また、上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、東北北部から北海道にかけて所々で雨が降り、東北北部の一部では大雨となったところもあった。5日は、関東の東海上の低気圧は日本の東海上へ進み、日本海の低気圧はほとんど停滞した。これらの影響で、中国地方から東北地方にかけて雨が降った。

台風第 8 号と前線の影響で全国的に大雨、沖縄・奄美から四国で暴風や強風（6 日～11 日）

6 日は、華中から九州付近にのびる前線の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、九州では大雨となり、雷を伴ったところもあった。7 日は、台風第 8 号が沖縄の南海上を北上した。また、前線が西日本から東日本にかけて停滞した。これらの影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、九州北部地方や中国地方の一部では大雨となったところもあった。沖縄・奄美や西日本では雷を伴ったところがあり、沖縄では強風となったところもあった。8 日は、台風第 8 号が沖縄の南海上から東シナ海に進んだ。本州付近の前線は西から北上し、朝鮮半島から東日本にかけてのびた。これらの影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、沖縄・奄美と四国の一部では大雨となった。西日本から東日本では雷を伴ったところもあった。沖縄・奄美では、暴風や強風となったところがあった。9 日は、台風第 8 号が東シナ海を北上し、九州の西海上で進路を東に変えた。また、前線が北上し朝鮮半島から東北地方にかけてのびた。これらの影響で全国的に雷を伴って雨が降り、沖縄から四国にかけてと北陸や東北地方を中心に大雨となったところがあった。沖縄・奄美では暴風や強風、九州では強風となったところもあった。10 日は、台風第 8 号が 07 時前に鹿児島県阿久根市付近に上陸し、その後本州南岸を通過して、18 時半頃に和歌山県南部に再び上陸した後、東海沖に進んだ。また、前線が津軽海峡付近まで北上した。これらの影響で全国的に雨が降り、西日本太平洋側や東海地方、北日本で大雨となった。九州では暴風や強風、四国では強風となったところもあった。11 日は、台風第 8 号が 02 時半頃に伊豆半島南部を通過し、05 時前に千葉県富津市付近に上陸した後、09 時に関東の東海上で温帯低気圧に変わった。その後、低気圧は三陸沖に進み、伴う前線が九州の南海上にのびた。また、前線が北日本にのびた。これらの影響で、沖縄・奄美と近畿から北海道にかけて雨が降り、沖縄・奄美では一部で雷を伴ったところもあった。

本州付近に前線が停滞した影響で、九州から東北地方にかけて雨（12 日～18 日）

12 日は、低気圧が北海道の東海上からオホーツク海に北上した影響で、北海道では雨が降った。また、前線が華中から九州にのびた影響で、九州から四国にかけて雨が降った。13 日は、前線が華中から本州付近を通過して関東の東海上にのびた。この前線と上空の寒気の影響で、全国的に雨が降り、九州北部地方や中国地方の一部では大雨となり、雷を伴ったところもあった。九州では強風となったところもあった。14 日は、引き続き前線が華中から本州付近を通過して三陸沖にのび、前線上の三陸沖に低気圧が発生し、北東に進んだ。これらと上空の寒気の影響で、全国的に雨が降った。15 日は、引き続き華中から本州付近にのびる前線の影響で、西日本では雨が降った。また、気圧の谷の影響で、北日本の一部では雨が降った。16 日は、前線が北上し、華中から対馬海峡付近を通過して東北地方にのびた。この影響で、九州北部から中国地方にかけてと、北陸から東北地方にかけてを中心に雨が降り、九州北部地方の一部では大雨となったところもあった。17 日は、前線が華中から東日本にかけてのびた。この影響で、西日本日本海側と東日本から東北地方にかけて雨が降った。東日本の一部では雷を伴ったところもあった。また、上空の寒気の影響で、北海道では雨が降った。18 日は、前線が引き続き華中から朝鮮半島を通過して東日本にかけてのびた。この影響で、近畿から東北地方にかけて雨が降り、東日本の一部では雷を伴ったところもあった。

暖かく湿った空気と上空に寒気を伴う低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雷雨、一部では大雨（19 日～21 日）

19 日は、上空に寒気を伴う低気圧が日本海に発生した。この低気圧と暖かく湿った空気の影響で、大気の状態が不安定となった。このため、西日本から北日本にかけて雷雨となり、中国地方や北陸、東北地方の一部で大雨となったところもあった。20 日は、日本海の低気圧が消滅し、三陸沖に上空に寒気を伴う低気圧が発生した。これらの低気圧と暖かく湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から北日本にかけて雨が降り、近畿や東日本では雷を伴ったところもあった。21 日は、日本付近は概ね晴れたが、三陸沖の低気圧と暖かく湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から北日本にかけて所々で雨が降った。

低気圧と前線の影響で北日本は雨、北海道の一部で大雨（22 日～29 日）

22 日は、沿海州からオホーツク海に進んだ低気圧からのびる前線と、朝鮮半島から北海道付近にのびる前線の影響で、北海道では雨が降った。また、台風第 10 号が沖縄の南海上を北西に進んだ。この影響で、沖縄・奄美で雨が降り、強風となったところもあった。その他の地方は概ね晴れた。23 日は、朝鮮半島からのびる前線が、北海道付近から東北地方に南下した。この影響で、北陸や北日本では雨が降った。また、台湾付近から華南に進んだ台風第 10 号の影響で、沖縄では雨が降り、強風となったところもあった。九州では湿った空気の影響で雨が降ったところがあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。24 日は、朝鮮半島から本州付近にのびる前線と暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、関東の一部では雷

を伴ったところもあった。25日は、北日本は上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。26日は、低気圧が日本海で発生し、伴う前線が北海道の東海上と対馬海峡にのびた。これらの影響で、北海道や九州北部で雨が降り、北海道の一部では大雨となったところもあった。27日は、低気圧が日本海から釧路沖に進み、伴う前線が本州付近を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り、北海道の一部では大雨となったところもあった。東日本では一部で雷を伴ったところもあった。東北地方の一部では暴風となったところもあった。28日は、北海道の東海上の低気圧が東に進み、前線が本州南岸にのびた。この影響で、北日本では雨が降った。また、暖かく湿った空気の影響で、沖縄では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。29日は、暖かく湿った空気の影響で、四国や沖縄で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

台風第12号と湿った空気の影響で西日本から沖縄で雨、一部で大雨、沖縄・奄美は暴風や強風（30日～31日）

30日は、台風第12号がフィリピンの東から沖縄の南海上に北上した。この台風と高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、沖縄から西日本太平洋側を中心に雨が降り、四国の一部では大雨となったところもあった。九州では雷を伴ったところもあった。沖縄・奄美では強風となったところもあった。31日は、台風第12号が北上し、沖縄本島近海に達した。この台風と高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、沖縄から四国にかけて雨が降り、沖縄や九州南部では大雨となったところがあった。沖縄・奄美では暴風や強風となったところもあった。また、上空の寒気の影響で、中国地方から北海道にかけての所々で雨が降り、東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。

8月

台風第12号と湿った空気の影響で西日本を中心に大雨（1日～6日）

1日は、台風第12号が沖縄本島近海から九州の西海上に進んだ。この台風と引き続き高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降り、所々で大雨となった。沖縄・奄美では暴風や強風となったところがあり、九州では強風となったところや雷を伴ったところもあった。また、引き続き上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけての所々で雷雨となり、東北地方の一部では大雨となったところもあった。2日は、台風第12号が九州の西海上から黄海に進んだ。この台風と引き続き高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、西日本で雨が降り、九州南部から近畿にかけての所々で大雨となった。四国では雷を伴ったところもあった。また、上空の寒気の影響で、関東甲信から東北地方にかけて雨が降った。3日は、台風第12号が15時に黄海で熱帯低気圧となった。この台風または台風から変わった熱帯低気圧と高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、九州南部から近畿にかけての所々で大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。4日は、熱帯低気圧が黄海から朝鮮半島に進み消滅した。また、朝鮮半島から北海道に前線がのび、前線上の日本海に低気圧が発生した。これらと高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東海地方と北日本で雨が降り、九州や中国地方の一部では雷を伴って大雨となったところもあった。5日は、朝鮮半島から北海道を通過して千島近海に前線がのび、その前線上を低気圧が日本海から千島近海に進んだ。この影響で、北日本では雨が降り、大雨となったところもあった。また、高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、西日本の一部で大雨となったところもあった。九州や四国、東海地方の一部では雷を伴ったところもあった。6日は、台風第11号が日本の南海上を北上した。また、華北から北日本に前線がのびた。前線に向かって湿った空気が流れ込んだ影響で、九州から北陸にかけてと北日本で雨が降り、一部で雷を伴ったところがあった。九州北部地方や中国地方、東北地方の一部では大雨となったところもあった。

台風第11号と前線の影響で全国的に大雨となり、沖縄・奄美から西日本を中心に暴風や強風（7日～11日）

7日は、日本の南海上を北上する台風第11号と、東シナ海から対馬海峡を通過して北日本にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から近畿にかけてと北陸から北日本にかけて雨が降り、一部では雷を伴ったところもあった。沖縄や九州南部、東北地方の一部では大雨となったところがあり、沖縄・奄美では暴風となったところもあった。8日は、九州の南海上を北上する台風第11号と、九州から東北地方を通過して千島の東海上にのびる前線の影響で、全国的に雨が降り、九州南部や四国、北陸、東海地方の一部では大雨となったところもあった。また、沖縄・奄美や九州南部では暴風や強風となったところもあった。9日は、台風第11号が九州の南海上から四国沖に達

し、前線が本州付近にのびた。これらの影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本から東海地方にかけては大雨となった。また、沖縄・奄美や近畿の一部では雷を伴ったところがあり、九州や四国では暴風や強風となったところもあった。10日は、台風第11号が6時過ぎに高知県安芸市付近に上陸し、その後、兵庫県姫路市付近に再び上陸した後、日本海を北上した。また、前線が東北地方まで北上した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、四国から関東にかけて東北地方の一部で大雨となった。また、東海地方や関東の一部では雷を伴ったところがあり、四国から東北地方にかけて、暴風や強風となったところもあった。11日は、台風第11号が9時に日本海北部で温帯低気圧となり、低気圧から本州付近に前線がのびた。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北海道の一部では大雨や強風となったところがあった。また、沖縄では湿った空気の影響で雷雨となったところがあった。

前線と湿った空気の影響で雨、西日本や東日本で大雨（12日～18日）

12日は、前線が九州の南海上から本州付近を通過して千島近海にのびた。この影響で、沖縄・奄美と近畿から東北地方にかけて雨が降り、東海地方の一部では大雨となったところもあった。13日は、関東の東海上の前線が本州付近にのびた。この影響で、近畿から関東にかけての太平洋側の所々で雨が降った。また、サハリンの西海上からオホーツク海に進んだ低気圧の影響で北海道で雨が降り、一部で雷を伴ったところもあった。14日は、前線が引き続き本州付近にのび、前線上の対馬海峡に低気圧が発生した。これらと湿った空気の影響で、沖縄から関東にかけて雨が降り、奄美と四国の一部では大雨となったところもあった。西日本の一部では雷を伴ったところもあった。15日は、前線が東シナ海から日本付近を通過して日本の東海上にのび、前線上の低気圧が日本海から三陸沖と、九州の西海上から対馬海峡にそれぞれ進んだ。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、九州北部地方と四国、東海地方、東北地方の一部では大雨となったところもあった。西日本の一部では雷を伴ったところもあった。16日から17日にかけては、前線が西日本から東日本に停滞し、前線上の低気圧が本州付近を東に進んだ。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、四国から関東にかけての所々で大雨となったところもあった。沖縄から関東にかけての一部では雷を伴ったところもあった。18日は、黄海の低気圧が朝鮮半島に進み、伴う前線が日本海にのびた。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、四国の一部では大雨となったところもあった。西日本の一部では雷を伴ったところもあった。

前線や低気圧の影響で西日本と北日本で大雨（19日～26日）

19日は、朝鮮半島の低気圧が日本海北部に進み、伴う前線が北海道の東海上と対馬海峡にのびた。これらと湿った空気の影響で、西日本と北日本を中心に雨が降り、九州北部地方と北海道の一部では大雨となったところもあった。九州や中国地方の一部では雷を伴ったところもあった。20日は、低気圧が北海道付近から北海道の東の海上に進み、伴う前線が北日本から対馬海峡付近にのびた。これらと湿った空気の影響で、西日本と北日本を中心に雨が降り、九州北部地方や中国地方の一部では大雨となった。九州の一部では雷を伴ったところもあった。21日は、低気圧が九州の西海上から日本海に進み、伴う前線が北日本と九州の西海上にのびた。この前線と湿った空気の影響で、九州北部地方と東北地方を中心に雨が降り、東北地方の一部では大雨となったところがあった。九州北部地方では雷を伴ったところもあった。22日は、日本海の低気圧が北東に進み、伴う前線が北日本と西日本にのびた。この影響で、西日本や北日本を中心に雷を伴って雨が降り、九州北部地方や四国、北日本の一部で大雨となったところもあった。23日は、日本海の低気圧が上空に寒気を伴い、前線が本州付近を通過した。この影響で、西日本太平洋側から北日本にかけてを中心に雷を伴って雨が降り、近畿や東海地方の一部で大雨となったところもあった。24日は、日本海北部の低気圧が北海道付近に進んだ影響で、北海道で雨が降り、一部で大雨となったところもあった。また、東シナ海から東日本に前線がのびた影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、一部で雷を伴ったところもあった。近畿の一部では大雨となったところもあった。25日は、九州の西海上の低気圧が対馬海峡に進み、伴う前線が東日本と九州の西海上にのびた。これらと湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降り、中国地方や東海地方の一部では雷を伴ったところもあった。また、釧路沖の低気圧が千島の東海上に進んだ影響で、北海道で雨が降った。26日は、日本海の低気圧からのびる前線が本州付近を通過し、前線上の関東の東海上に低気圧が発生した。これらと湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、近畿から北陸にかけての一部では雷を伴ったところもあった。

前線や低気圧の影響で九州から東北地方にかけて雨（27日～31日）

27日は、日本海の上空に寒気を伴う低気圧が発生した。この低気圧と湿った空気の影響で四国から東北地方にかけて雨が降った。28日は、九州の南海上から本州南岸に前線がのびた。また、日本海の低気圧が東北地方付近に進んだ。これらの影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降った。29日から30日にかけては、前線が九州から本州南岸にのびた。この前線と前線上の低気圧や湿った空気の影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、九州の一部では雷を伴ったところもあった。31日は、前線が南下して九州の南海上から関東の東海上にのびた。この前線と気圧の谷の影響で、西日本から東日本にかけての所々で雨が降った。

9月

前線や気圧の谷の影響で全国的に雨（1日～8日）

1日は、本州南岸に前線がのび、前線上の関東の東海上に低気圧が発生した。これらと上空の寒気の影響で、九州から東北南部にかけて雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところもあった。東北北部から北海道にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、関東の東海上の低気圧が三陸沖に進んだ。この影響で、関東から東北地方にかけての太平洋側で雨が降った。また、黄海の低気圧から九州付近に前線がのびた。この前線や上空の寒気の影響で、西日本や東日本日本海側の所々で雨が降った。沖縄では、湿った空気の影響で雷雨となったところがあった。3日は、黄海の低気圧が北東に進み、伴う前線が東日本と対馬海峡付近に進んだ。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東海地方にかけて雨が降り、奄美地方や四国、東海地方の一部では大雨となったところもあった。沖縄・奄美や九州の一部では雷を伴ったところもあった。4日は、上空に寒気を伴う低気圧が沿海州を北に進み、伴う前線が北日本と西日本にのびた。これらと湿った空気の影響で、沖縄から東海地方にかけてと北日本で雨が降り、九州南部から東海地方にかけての太平洋側と、北海道の一部では大雨となったところもあった。西日本の一部では雷を伴ったところもあった。5日は、サハリンの西海上の低気圧が北に進み、伴う前線が北日本から西日本にかけてのびた。この前線と湿った空気の影響で、九州南部から東海地方にかけての太平洋側や近畿から北陸にかけての日本海側、北日本を中心に雨が降り、西日本や東日本の一部では雷を伴ったところもあった。近畿の一部では大雨となったところもあった。6日は、千島付近の低気圧からのびる前線が、西日本から東日本にかけてほとんど停滞した。また、沖縄の南海上の熱帯低気圧が沖縄本島近海に達した。これらの影響で、沖縄から関東にかけて雨が降り、西日本や東日本の一部では雷を伴ったところもあった。沖縄・奄美や四国の一部では大雨となったところもあった。北海道では上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で雨が降った。7日は、台風第14号が沖縄本島近海で発生し、日本の南海上へ進んだ。また、西日本から関東の南海上に前線がのびた。これらの影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨が降り、四国の一部では大雨となったところもあった。北海道では引き続き気圧の谷の影響で雨が降った。8日は、台風第14号が日本の南海上を北東に進み、前線が本州南岸にのびた。この影響で、沖縄・奄美と東日本太平洋側で雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところもあった。北海道では引き続き気圧の谷の影響で雨が降った。

上空に寒気を伴う気圧の谷や湿った空気の影響で、東日本から北日本を中心に雨、北海道では大雨（9日～12日）

9日は、台風第14号が関東の東海上に進んだ影響で、関東や伊豆諸島では雨が降り、伊豆諸島では強風となったところもあった。また、北海道では上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、雨が降った。10日は、上空に寒気を伴う気圧の谷が日本海北部にほとんど停滞した。この気圧の谷と湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけての所々で雨が降り、雷を伴ったところもあった。北海道では大雨となったところもあった。11日は、引き続き、気圧の谷と湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、一部では雷を伴ったところもあった。北日本の一部では大雨となったところもあった。12日は、引き続き、気圧の谷と湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、北日本の一部では雷を伴ったところもあった。北海道の一部では大雨となったところもあった。また、華中から九州の南海上に前線がのびた影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降った。

前線の影響で、沖縄・奄美や九州を中心に雨（13日～15日）

13日は、上空に寒気を伴う低気圧が日本海中部で消滅した。この寒気の影響で、東日本から北日本を中心に雨が降り、関東や東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。また、九州の南海上にのびる前線の影響で、沖縄から九州南部にかけて雨が降り、九州南部の一部では大雨となったところがあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。14日は、九州の南海上に前線が停滞した影響で、奄美地方を中心に雨が降り、大

雨となったところもあった。また、上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、北日本を中心に雨が降り、東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。15日は、九州の南海上に停滞した前線が消滅し、低気圧が発生した。前線と低気圧の影響で、九州南部・奄美地方では雨が降った。東日本から北日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。

気圧の谷の影響で、北日本を中心に雨（16日～18日）

16日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけて雨が降り、北日本の一部では雷を伴ったところもあった。17日は、引き続き気圧の谷の影響で、北日本を中心に雨が降った。東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。18日は、引き続き気圧の谷の影響で、北日本日本海側を中心に雨が降った。また、九州の南海上に前線がのびた影響で、九州南部で雨が降った。

前線と湿った空気、台風第16号の影響で全国的に雨（19日～25日）

19日は、九州の南海上にのびる前線と湿った空気の影響で、沖縄から九州にかけて雨が降り、九州南部では大雨となったところもあった。沖縄・奄美の一部では雷を伴ったところもあった。また、上空の寒気の影響で、北日本日本海側を中心に雨が降った。20日は、引き続き九州の南海上にのびる前線と湿った空気の影響で、沖縄・奄美から四国にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となったところや雷を伴ったところがあった。また、引き続き上空の寒気の影響で、北日本日本海側を中心に雨が降った。21日は、引き続き九州の南海上にのびる前線と、沖縄の南海上を北上する台風第16号の影響で、沖縄から四国にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となったところや雷を伴ったところがあった。また、暴風や強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。22日は、引き続き九州の南海上にのびる前線と、東シナ海を北上する台風第16号の影響で、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけて雨が降り、沖縄・奄美の一部では強風となったところもあった。また、北日本では上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、雷雨となったところもあった。23日は、九州の南海上の前線が北上して九州付近にのびた。この前線と湿った空気の影響で、沖縄から九州北部地方にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、台風第16号が黄海で温帯低気圧となった。台風から変わった温帯低気圧は、その後日本海へ進み、伴う前線が西日本と東日本にのびた。この影響で、沖縄から東北地方にかけて雨が降り、九州南部や四国、東海地方の一部では大雨となったところもあった。25日は、低気圧が日本海から釧路沖に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。この影響で、全国的に雨が降り、東海地方や東北地方の一部では大雨となったところもあった。

北日本の一部で雨、西日本や東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ（26日～30日）

26日は、釧路沖の低気圧が千島近海に進んだ影響で、東日本や北日本の一部で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。27日は、湿った空気の影響で、九州南部で雨が降ったところがあったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。28日は、前線が通過した影響で、北海道で雨が降った。湿った空気の影響で、沖縄で雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。29日は、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。30日は、北海道付近に発生した低気圧と寒気の影響で、北陸から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあった。また、西日本の一部では、弱い気圧の谷の影響で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

10月

気圧の谷や前線の影響で全国的に雨（1日～3日）

1日は、気圧の谷と湿った空気の影響で、沖縄から九州にかけてと関東で雨が降った。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日は、前線が東シナ海から日本付近を通過して三陸沖にのびた。この影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、北陸の一部では大雨となったところもあった。3日は、本州付近の前線と日本海から北海道付近に進んだ低気圧の影響で、西日本や伊豆諸島、北陸から北日本にかけて雨が降った。伊豆諸島では大雨となったところもあった。

台風第18号の影響で全国的に大雨、暴風や強風（4日～9日）

4日は、台風第18号が日本の南海上を北西に進んだ。この影響で、沖縄・奄美の一部では大雨や暴風、強風となったところがあり、九州の一部でも強風となったところがあった。また、上空の寒気の影響で、北陸から北日本にかけて雨が降った。5日は、台風第18号が九州の南海上から四国沖に進んだ。この台風と本州南岸に停

滞する前線の影響で、奄美から東北地方にかけて雨が降り、九州から東日本太平洋側にかけて大雨となったところもあった。沖縄・奄美や九州で暴風や強風となったところもあった。6日は、台風第18号が本州南岸を北東に進み、08時頃に静岡県浜松市付近に上陸した。その後、東海地方や関東を北東に進み、日本の東海上で温帯低気圧となった。この台風と前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、四国から東北地方にかけての太平洋側を中心に大雨となった。関東の一部では雷を伴ったところもあった。また、近畿から関東にかけて暴風となり、九州から東北地方にかけて強風となったところもあった。7日は、はじめ上空の寒気の影響で北陸から東北地方にかけて雨が降ったが、その後は全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、北日本では雨が降った。西日本から東日本にかけては高気圧に覆われ概ね晴れた。9日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美と九州から東日本にかけての太平洋側を中心に雨が降った。また、上空に寒気を伴う低気圧が中国東北区から東に進んだ。

台風第19号の影響で全国的に大雨、暴風や強風（10日～14日）

10日は、台風第19号が沖縄の南海上に北上した。また、前線が日本の南海上に停滞した。これらの影響で、沖縄・奄美と小笠原諸島で雨が降り、小笠原諸島では大雨となった。沖縄・奄美では暴風や強風となった。また、低気圧が日本海北部から千島近海に進み、伴う前線が北日本を通過した。この影響で、北日本では雨が降り、北海道の一部では雷を伴ったところや、強風となったところもあった。11日は、台風第19号が沖縄の南海上に北上し、沖縄本島近海に進んだ。この台風と日本の南海上に停滞する前線の影響で、沖縄・奄美と小笠原諸島では雨が降り、沖縄・奄美では、大雨や暴風、強風となったところがあった。九州の一部でも強風となったところがあった。また、千島近海の低気圧の影響で、北海道の一部では雨が降り、強風となったところもあった。12日は、台風第19号が00時半頃に沖縄本島付近を通過し、東シナ海を北上した。また、前線が九州付近から日本の南海上にのびた。これらの影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降り、九州や四国では大雨となったところもあった。また、沖縄・奄美や九州では暴風や強風となったところもあった。13日は、台風第19号が08時半頃に鹿児島県枕崎付近に上陸し、その後、西日本と東日本を北東に進んだ。また、前線が西日本から東日本に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、西日本や東日本では大雨となったところもあった。また、西日本の一部で暴風、西日本から東日本にかけて強風となったところもあった。14日は、台風第19号が東日本と東北地方を北東に進み、09時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。台風や台風から変わった低気圧の影響で、西日本日本海側と、東日本から北日本にかけて雨が降り、北陸や東北地方を中心に大雨となった。北陸の一部で暴風、東日本や東北地方では強風となったところもあった。

気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけてを中心に雨（15日～19日）

15日は、関東の東海上の低気圧の影響で、東日本太平洋側を中心に雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。16日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、西日本日本海側と東日本から北日本にかけて雨が降り、北海道の一部では大雨となったところもあった。中国地方や北陸、東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。17日は、引き続き気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけて雨が降り、北日本の一部では雷を伴ったところもあった。北海道の一部では強風となったところもあった。西日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。18日は、上空の寒気の影響で、北日本の一部で雨が降ったが、その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。19日は、湿った空気の影響で四国の一部で雨が降ったほかは、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線の影響で西日本や東日本を中心に雨（20日～27日）

20日は、前線が朝鮮半島から北陸付近にのび、前線上に低気圧が発生した。この前線とサハリンから日本海にのびる前線の影響で、四国から東日本にかけてと北日本日本海側を中心に雨が降った。北海道の一部では雷を伴ったところもあった。21日は、前線が南下して対馬海峡から三陸沖にのび、前線上の低気圧が日本海から三陸沖に進んだ。この前線と北海道付近を通過した前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降った。九州の一部では雷を伴ったところもあった。22日は、前線が南下して沖縄の南海上から本州南岸にのび、前線上の東海沖に低気圧が発生した。この前線と東シナ海から九州付近に進んだ低気圧の影響で、全国的に雨が降り、九州の一部では雷を伴ったところもあった。23日は、前線上の低気圧が本州南岸から関東の東海上に進んだ。また、東海沖に低気圧が発生した。これらの影響で、東日本太平洋側を中心に雨が降った。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。24日は、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。25日は、沿海州の低気圧がオホーツク海に進み、伴う前線が沿海州からオホーツク海にのびた。本州付近は高気圧に覆われ全国的に概ね晴れた。26日は、上空に寒気を伴う低気圧が沿海州からサハリンの西海上に進んだ。また、湿った空気の影響で、沖縄から東日本太平洋側にかけてを中心に雨が降り、西日本の一部では雷を伴ったところもあった。北日本は

概ね晴れた。27日は、低気圧がサハリン付近からオホーツク海に進み、伴う前線が東日本や北日本を通過した。また、沖縄付近の前線が日本の南海上から関東の東海上に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、雷を伴ったところもあった。

北陸から北日本日本海側にかけて雨や強風。太平洋側は概ね晴れ（28日～31日）

28日は、北日本を中心に冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となり、北陸から北日本日本海側にかけてを中心に雨が降った。北海道の一部では強風となったところもあった。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。29日は、北日本は引き続き冬型となり、北日本日本海側では雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあったが、冬型は次第に緩んだ。その他の地方は概ね晴れた。30日は、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れた。31日は、東シナ海から西日本に前線がのびた。この前線と湿った空気の影響で、沖縄から東日本にかけて雨が降った。

11月

発達した低気圧と前線の影響で全国的に雨、北日本は暴風や強風（1日～4日）

1日は、本州付近に前線がのび、低気圧が日本海を東に進んだ。これらと湿った空気の影響で、全国的に雨が降り、九州南部の一部では大雨となったところもあった。2日は、日本海西部の低気圧が日本海北部に進み、伴う前線が西日本と北日本にのびた。また、本州南岸に前線がのびた。これらと湿った空気の影響で、全国的に雨が降った。3日は、日本海北部の低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、伴う前線が日本付近を通過した。その後、北日本を中心に冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。これらの影響で、山陰から北海道にかけて雨が降り、北日本の一部では暴風や強風となったところもあった。4日は、北日本を中心に引き続き冬型となり、北陸や北日本では雨や雪が降った。北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。また、日本の南海上に停滞する前線の影響で、伊豆諸島では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

台風第20号や前線の影響で伊豆諸島で大雨、強風（5日～8日）

5日は、日本の南海上に停滞する前線と湿った空気の影響で、伊豆諸島や東海地方の一部で雨が降り、伊豆諸島では大雨となったところもあった。6日は、日本の南海上に停滞する前線や日本の南海上を北東に進む台風第20号、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降った。伊豆諸島では強風となったところもあった。また、サハリン付近に低気圧が発生し、伴う前線が北日本にのびた。この影響で、近畿から北海道日本海側にかけてを中心に雨が降った。7日は、台風第20号が日本の東海上で温帯低気圧となり、北東に進んだ。日本付近は北日本を中心に冬型となり、近畿から北海道にかけての日本海側で雨や雪が降った。西日本は高気圧に覆われ概ね晴れた。8日は、はじめ高気圧に覆われたが、九州の南海上に発生した前線の影響で、沖縄から九州にかけて雨が降った。

本州南岸の前線や日本海の低気圧の影響で全国的に雨（9日～11日）

9日は、日本海に発生した低気圧が東に進み、伴う前線が西日本から東日本にかけてと北日本にのびた。これらと沖縄本島付近から本州南岸にのびる前線の影響で、全国的に雨が降った。10日は、低気圧や前線が北日本を通過した影響で、東日本や北日本を中心に雨が降った。また、本州南岸にのびる前線の影響で、小笠原諸島では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。11日は、本州南岸にのびる前線上に低気圧が発生した。この影響で、九州南部や東日本太平洋側を中心に雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

発達した低気圧と冬型の気圧配置で日本海側は雨や雪、北陸や北日本では暴風や強風（12日～16日）

12日は、日本海中部の低気圧が沿海州付近に進み、伴う前線が日本付近にのびた。また、東海沖に発生した低気圧が関東の東海上に進んだ。これらの影響で西日本から北日本にかけて雨が降った。北陸や北日本では雷を伴ったところもあった。13日は、発達した低気圧が沿海州から北東に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰から北海道にかけて雨や雪が降り、北陸や東北地方の一部では雷を伴ったところがあった。四国や北陸、北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。14日は、引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では大雨となったところや雷を伴ったところがあった。北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。15日は、引き続き冬型となり、近畿から北海道にかけて

の日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴ったところがあった。北海道の一部では強風となったところもあった。16日は、冬型が次第に緩んで日本付近は高気圧に覆われた。また、日本海西部に低気圧が発生した。寒気の影響が残った北陸や北日本の一部では雨や雪が降った。気圧の谷の影響で沖縄・奄美では雨が降った。

冬型の気圧配置により日本海側は雨や雪（17日～19日）

17日は、日本海の上空に寒気を伴う低気圧と九州の南海上から本州南岸にかけてのびる前線、三陸沖に発生した低気圧の影響で、九州北部地方から東北日本海側にかけてや九州南部を中心に雨や雪が降り、中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。18日は、三陸沖の低気圧が北東に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。19日は、引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降ったが、その後、冬型は緩んで高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線と低気圧の影響で北日本を中心に雨（20日～23日）

20日は、本州南岸に低気圧が発生した影響で、東日本太平洋側では雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。21日は、前線が沿海州からサハリンを通して千島近海にのびた影響で、北海道では雨が降り、一部では雷を伴ったところもあった。また、湿った空気の影響で沖縄から西日本にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。22日は、オホーツク海に低気圧が発生し、伴う前線が北日本を通過した影響で、北日本を中心に雨が降った。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。23日は、オホーツク海の低気圧からのびる前線が、東北地方付近を通過した影響で、北陸から東北地方にかけて雨が降った。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れた。

低気圧と前線の影響で全国的に雨、西日本の一部で大雨（24日～26日）

24日は、九州の西海上に低気圧が発生し、伴う前線が西日本にのびた。この影響で、西日本では雨が降り、九州北部地方の一部では大雨となったところもあった。また、気圧の谷の影響で、北陸から北海道にかけての日本海側では雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。25日は、低気圧が九州付近から四国沖に進み、伴う前線が本州南岸にのびた。この影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部では大雨となったところもあった。九州の一部では雷を伴ったところもあった。また、寒気の影響で、北海道の一部では雪が降った。26日は、低気圧が東海沖から関東の東海上に進み、伴う前線が本州南岸にのびた。また、別の低気圧が日本海で発生し、北陸付近に進んだ。これらの影響で、九州から東北地方にかけて雨が降った。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、沖縄は大雨（27日～30日）

27日は、湿った空気の影響で、先島諸島では雨が降り、大雨となったところがあった。関東の東海上の低気圧や上空の寒気の影響で、東日本や東北地方で雨が降った。28日は、引き続き湿った空気の影響で、沖縄では雨が降り、大雨となったところがあった。また、東シナ海の低気圧が日本海に進み、伴う前線が西日本にのびた。これらと九州付近の前線の影響で、西日本から東日本にかけて雨が降った。29日は、日本海の低気圧が東北地方に進み、伴う前線が本州付近を通過した。また、本州南岸の前線上に低気圧が発生し、関東の東海上に進んだ。これらの影響で、九州から東北地方にかけてを中心に雨が降り、中国地方の一部では雷を伴ったところもあった。30日は、東シナ海の低気圧が前線を伴い、対馬海峡に進んだ。また、日本海西部に別の前線を伴う低気圧が発生した。これらの影響で、九州から東北地方にかけてを中心に雨が降った。

12月

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置で全国的に雨や雪（1日～3日）

1日は、日本海の低気圧が発達しながら沿海州に進み、伴う前線が西日本から東日本を通過して北日本にのびた。また、本州南岸を低気圧と前線が北東に進んだ。その後、日本付近は西から冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。これらの影響で全国的に雨が降り、北海道の一部では大雨となったところもあった。九州の一部では暴風、西日本や北陸、北海道の一部では強風となったところもあった。2日は、冬型となり、西日本日本海側から北日本にかけてを中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴い、大雨となったところもあった。また、北陸や北海道の一部では暴風、西日本から北日本にかけて強風となったところがあった。東日本太平洋側は概ね晴れた。3日は、引き続き冬型となり、西日本日本海側から北日本にかけてを中心に雨や雪が降り、北陸

の一部では雷を伴ったところがあった。また、北陸や北海道の一部では暴風や強風となったところがあった。その後、冬型は西から緩んだ。東日本太平洋側は概ね晴れた。

冬型となり、日本海側を中心に雨や雪、一部で大雪（4日～7日）

4日は、東シナ海から本州南岸にのびる前線上に低気圧が発生し、関東の東海上に進んだ。また、関東の東海上に発生した低気圧が、三陸沖に進んだ。その後、西から冬型となった。これらの影響で、沖縄から東日本にかけて雨が降り、中国地方の一部では大雨となったところもあった。沖縄・奄美や九州の一部では暴風や強風となったところもあった。気圧の谷の影響で、北日本日本海側では雪や雨が降った。5日は、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸や東北地方の一部では雷を伴ったところもあった。九州の一部では暴風、北海道の一部では強風となったところもあった。6日は、日本付近は引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、東日本や北日本の一部では大雪となったところもあった。中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。7日は、引き続き冬型となり、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降ったが、冬型は西から緩んだ。西日本から北日本にかけての太平洋側は概ね晴れた。

寒気の影響で、日本海側を中心に雨や雪（8日～10日）

8日は、関東の東海上に低気圧が発生し、東に進んだ。上空の寒気の影響で、北陸から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。また、気圧の谷の影響で、西日本では所々で雨が降った。沖縄では、湿った空気の影響で雨が降った。9日は、上空の寒気を伴う気圧の谷の影響で、山陰から北日本日本海側にかけて雨や雪が降った。また、関東の東海上に前線を伴う低気圧が発生し、東に進んだ。この影響で、小笠原諸島では雨が降った。西日本から東日本にかけての太平洋側は概ね晴れた。10日は、日本付近ははじめ高気圧に覆われたが、朝鮮半島付近に発生した低気圧が日本海に進み、伴う前線が対馬海峡にのびた。また、別の前線が東シナ海から九州付近にのびた。これらの影響で、沖縄から西日本にかけて雨が降った。北日本日本海側は上空の寒気の影響で、一部で雪が降った。

発達した低気圧とその後の冬型の影響で、日本海側を中心に雪や雨、一部で大雪（11日～15日）

11日は、日本海の低気圧が発達しながら宗谷海峡付近に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。これらの影響で、全国的に雨や雪が降った。12日は、発達した低気圧がオホーツク海を北東に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。また、関東の東海上に低気圧が発生した影響で、関東の一部では雨が降った。13日から14日にかけては、引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、東日本の一部では大雪となったところがあった。中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところがあり、北海道の一部では強風となったところもあった。15日は、引き続き冬型となり、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、東北地方の一部では雷を伴ったところがあったが、冬型は次第に緩んだ。また、黄海で発生した低気圧が前線を伴って日本海に進んだほか、別の低気圧が東シナ海で発生し、前線を伴った。これらの影響で、沖縄から九州にかけて雨が降った。

発達した低気圧とその後の冬型の影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨、暴風や強風（16日～19日）

16日は、九州の南海上の低気圧が発達しながら関東の東海上に進み、日本海西部の低気圧が発達しながら日本海北部に進んだ。この影響で、全国的に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところがあった。また、九州や伊豆諸島、北海道の一部で暴風、全国的に強風となったところがあった。17日は、釧路沖の低気圧と日本海北部の低気圧がひとつにまとまり、北海道の東に進んだ。その後、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴い、東日本や北日本の一部では大雪となったところもあった。また、西日本から北日本にかけて、暴風や強風となったところもあった。18日は、北海道の東の低気圧が千島の東海上に進んだ。日本付近は引き続き冬型となり、山陰から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。北陸の一部では暴風、関東から北海道にかけての一部では強風となったところもあった。19日は、はじめ冬型となり、北陸や北日本日本海側で雪や雨が降ったが、その後冬型は緩み、日本付近は高気圧に覆われ、西日本から北日本にかけての太平洋側を中心に概ね晴れた。沖縄は気圧の谷の影響で、雨が降った。

低気圧とその後の冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪や雨、一部で大雪（20日～23日）

20日は、九州の南海上の前線を伴う低気圧が、本州南岸を通過して三陸沖に進んだ。また、日本海中部の前線を伴う低気圧が日本海北部に進んだ。これらの影響で全国的に雨や雪が降り、九州や東海地方、関東の一部では強風となったところもあった。21日は、サハリン付近の低気圧と釧路沖の低気圧が発達しながらオホーツク海でひとつにまとまり、日本付近は冬型となった。また、関東の東海上に低気圧が発生した。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。22日は、引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴い、東日本から東北地方にかけての一部で大雪となったところもあった。北陸や北海道の一部では暴風や強風となったところもあった。23日は、はじめ冬型となり、近畿から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道の一部では強風となったところもあった。その後、冬型は緩み、西から高気圧に覆われ、西日本や東日本太平洋側を中心に概ね晴れた。

冬型となり、日本海側を中心に雪や雨（24日～27日）

24日は、気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、中国地方や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨が降った。25日は、気圧の谷が通過した後冬型となり、西日本から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、四国の一部では雷を伴ったところがあった。26日は、引き続き冬型となり山陰から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。27日は、はじめ冬型となり、北陸や北日本日本海側で雪や雨が降ったが、その後冬型は緩んだ。沖縄・奄美では湿った空気の影響で、雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧とその後の冬型の気圧配置の影響で、全国的に雨や雪（28日～31日）

28日は、四国沖で低気圧が発生し、前線を伴った。また、別の前線が日本の南海上にのびた。これらの影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけてと、四国から東日本にかけて雨や雪が降った。北海道では弱い気圧の谷の影響で、雪が降ったところがあった。29日は、本州南岸の低気圧が三陸沖に進み、日本の南海上の前線上に低気圧が発生して、日本の東海上に進んだ。また、低気圧が宗谷海峡を通過した。これらの影響で、沖縄から九州南部にかけてと、四国から北日本日本海側にかけてを中心に雨や雪が降った。30日は、発達した低気圧が北海道の東海上から千島の東海上に進み、日本付近は冬型となった。この影響で、北陸や北日本を中心に雪や雨が降り、北陸の一部では雷を伴ったところもあった。31日は、黄海の低気圧が前線を伴い、東日本に進んだ。この影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、西日本や北陸の一部では雷を伴ったところもあった。九州の一部では暴風、西日本から東日本にかけて強風となったところがあった。